

## 2017年度 大学院シラバス

PDF閲覧ソフトの検索機能で科目名を検索してください

※担当教員名での検索の場合、全クラス共通シラバスが検索できません

例) Ctrl キーを押しながら F キーを押す

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	地域音楽コーディネーター実践		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

地域の音楽活動を活性化するために、音楽ティーチングアーティストとして活躍するための知識とスキルを修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

近年、小・中学校や病院などの施設でミニコンサートが開かれることが多くなりました。そこでは音楽を演奏するだけでなく、演奏する曲目や楽器について説明することが求められます。また通常の演奏会でも、聴衆に深く音楽を聴いてもらい、クラシック音楽を楽しんでもらわなくてはなりません。音楽ティーチング・アーティストは、演奏家でありながら、聴衆に対して教育的なことができる人を指します。この授業の目的は、11月から12月の時期に、大学の近くに施設で演奏会を開催します。

##### 【前期】

1. ティーチング・アーティストとはどんな人
2. ティーチング・アーティストに求められる資質とスキル
3. ティーチング・アーティストになるための学び
4. ティーチング・アーティストの活動事例(ゲストティーチャー1)
5. エントリーポイント(学生A～Cによる事例発表)
6. エントリーポイント(学生D～Fによる事例発表)
7. エントリーポイント(学生G～Iによる事例発表)
8. エントリーポイント(学生J～Lによる事例発表)
9. ティーチング・アーティストの活動事例(ゲストティーチャー2)
10. 演奏会のためのアクティビティ(学生A～Cによる実践発表)
11. 演奏会のためのアクティビティ(学生D～Fによる実践発表)
12. 演奏会のためのアクティビティ(学生G～Iによる実践発表)
13. 演奏会のためのアクティビティ(学生J～Lによる実践発表)
14. 演奏会の企画
15. 夏休み中に演奏会パートナー機関と打ち合わせをする

#### ◆準備学習の内容◆

グループで分担を決めて企画案を作成するので、授業時間以外での作業が必要とされる。

#### ◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、企画案と発表の仕方を総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

エリック・ブース:『ティーチング・アーティスト:音楽の世界を伝える職業』(久保田慶一:監訳) ¥2,000- 授業内で販売します。

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する

#### ◆留意事項◆

授業には積極的に参加することが望まれる。また後期も必ず履修して出席すること。

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、マスメディア、コンピュータ、インターネットなど——が、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史的あるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

原則として、テーマとなるアーティストや作品や技術等を各回に取り上げ、視聴と解説を行うが、音楽とメディアに関わる新しい動向があれば随時フォローする。

また、受講者による発表とディスカッションを実施する。

- 1) 授業ガイダンス
- 2) 人工知能と音楽～創造性とは何か
- 3) 人工知能と音楽～デビッド・コープの試み
- 4) 人工知能と音楽～最新の動向
- 5) ゲスト・レクチャー1(予定)
- 6) ディスカッション1
- 7) 音と映像～オスカー・フィッシーンガー 音楽と「動く絵画」
- 8) 音と映像～ノーマン・マクラレン 音と映像の同期
- 9) 音と映像～ノーマン・マクラレン メディアアーティストとしてのマクラレン
- 10) ミュージック・ビデオ～ミシェル・ゴンドリー
- 11) ミュージック・ビデオ～クリス・カニングハム
- 12) ミュージック・ビデオ～OK Go 映像の「カット」と音楽
- 13) ゲスト・レクチャー2(予定)
- 14) ディスカッション2
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項の検索を各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内発表の内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音響メディア史(谷口文和, 中川克志, 福田裕大 著/ナカニシヤ出版)  
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/DU BOOKS)  
 細野晴臣 録音術 ぼくらはこうして音をつくってきた(鈴木惣一朗ほか 著/DU BOOKS)  
 芸術の設計—見る／作る／ことのアプリケーション(岡崎乾二郎 著/フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス(中村滋延 著/九州大学出版会)  
 メディア・アート創世記—科学と芸術の出会い(坂根徹夫 著/フィルムアート社)  
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)  
 魔法の世紀(落合陽一/PLANETS)  
 Computer Models of Musical Creativity(David Cope 著/The MIT Press)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS701U		
科目名	テーマ別演習A I		
科目詳細	ロシア音楽研究(楽曲分析を含む)		
担当教員	森垣 桂一		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロシアの芸術音楽と作曲技法の理解を深めることにより、自己の演奏・創作・研究等にその知識を生かすことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ロシアの芸術音楽を歴史的にたどり、オペラ・オーケストラ曲・室内楽曲・独奏曲等の楽曲分析をとおしてロシア音楽への理解を深める。
- サンクトペテルブルグ音楽院(ロシア)留学時の講義ノートから、楽曲分析の様々な方法を提示する。
- 映像・音源・実演をとおして実際に役に立つ知識を具体的に解説する。

- 第 1回 ロシア正教の典礼音楽
- 第 2回 ロシア民族音楽
- 第 3回 グリンカの音楽(1)歌劇<ルスランとリュドミラ>
- 第 4回 グリンカの音楽(2)<カマリンスカヤ>
- 第 5回 ボロディンの音楽(1)歌曲とオーケストラ曲
- 第 6回 ボロディンの音楽(2)歌劇<イーゴリ公>
- 第 7回 ムソルグスキーの音楽(1)組曲<展覧会の絵>
- 第 8回 ムソルグスキーの音楽(2)歌劇<ボリス・ゴドゥノフ>
- 第 9回 リムスキー=コルサコフの音楽 交響組曲<シェエラザード>
- 第 9回 チャイコフスキーの音楽(1)幻想序曲<ロミオとジュリエット>
- 第10回 チャイコフスキーの音楽(2)ピアノ協奏曲第1番作品23
- 第11回 チャイコフスキーの音楽(3)ヴァイオリン協奏曲作品35
- 第12回 チャイコフスキーの音楽(4)交響曲第5番作品64
- 第13回 チャイコフスキーの音楽(5)交響曲第6番作品74<悲愴>
- 第14回 チャイコフスキーの音楽(6)三大バレエ音楽
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作曲家についての基礎知識を調べ、課題作品を聴いてくること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと期末に提出するレポート。  
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布。

#### ◆参考図書◆

- 「ロシア・ソヴィエト音楽史」ジェームズ・バクスト著(音楽之友社)
- 「ロシア史 I.II」森田稔、梅津紀雄訳(全音楽譜出版社)
- 「ロシア音楽史」フランシス・マース著(春秋社)
- ミニチュア・スコア「交響曲第5番作品64」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「バレエ組曲・白鳥の湖作品20」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「バレエ組曲・眠れる森の美女作品66a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「バレエ組曲・くるみ割り人形作品71a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「パガニーニの主題」による狂詩曲作品43」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「交響的舞曲作品45」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	地域音楽コーディネーター実践		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

地域の音楽活動を活性化するために、音楽ティーチングアーティストとして活躍するための知識とスキルを修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

【後期】

1. 演奏会企画発表会(学生A～C)
2. 演奏会企画発表会(学生D～F)
3. 演奏会企画発表会(学生G～I)
4. アクティビティ発表会(前半の前半分)
5. アクティビティ発表会(前半の後半分)
6. アクティビティ発表会(後半の前半分)
7. アクティビティ発表会(後半の後半分)
8. 演奏会の準備(前半の前半分)
9. 演奏会の準備(前半の後半分)
10. 演奏会の準備(後半の前半分)
11. 演奏会の準備(後半の後半分)
12. 演奏会の準備(前半通し)
13. 演奏会の準備(後半通し)
14. 反省会
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

グループで分担を決めて企画案を作成するので、授業時間以外での作業が必要とされる。

#### ◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、演奏会の企画案と演奏会のマネジメントなどを総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

エーリック・ブース:『ティーチング・アーティスト:音楽の世界を伝える職業』(久保田慶一:監訳) ¥2,000- 授業内で販売します。

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する

#### ◆留意事項◆

授業には積極的に参加することが望まれる。前期を履修して、出席数を満たしていること。

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、マスメディア、コンピュータ、インターネットなどが、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史的あるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

原則として、テーマとなるアーティストや作品や技術等を各回に取り上げ、視聴と解説を行うが、音楽とメディアに関わる新しい動向があれば随時フォローする。

また、受講者による発表とディスカッションを実施する。

- 1) 授業ガイダンス
- 2) 録音芸術～技術史
- 3) 録音芸術～グレン・グールド
- 4) 録音芸術～ドナルド・フェイゲン
- 5) 録音芸術～細野晴臣
- 6) ゲーム音楽～黎明期からファミリー・コンピュータ
- 7) ゲーム音楽～ハードウェアと音楽の変遷
- 8) ゲーム音楽～コンサート
- 9) ゲスト・レクチャー3(予定)
- 10) 受講者による発表とディスカッション1
- 11) 受講者による発表とディスカッション2
- 12) 受講者による発表とディスカッション3
- 13) 受講者による発表とディスカッション4
- 14) 受講者による発表とディスカッション5
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項の検索を各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内発表の内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音響メディア史(谷口文和, 中川克志, 福田裕大 著/ナカニシヤ出版)  
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/DU BOOKS)  
 細野晴臣 録音術 ぼくらはこうして音をつくってきた(鈴木惣一郎ほか 著/DU BOOKS)  
 芸術の設計—見る／作る／ことのアプリケーション(岡崎乾二郎 著/フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス(中村滋延 著/九州大学出版会)  
 メディア・アート創世記—科学と芸術の出会い(坂根徹夫 著/フィルムアート社)  
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)  
 魔法の世紀(落合陽一/PLANETS)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS702U		
科目名	テーマ別演習AⅡ		
科目詳細	ロシア音楽研究(楽曲分析を含む)		
担当教員	森垣 桂一		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロシアの芸術音楽と作曲技法の理解を深めることにより、自己の演奏・創作・研究等にその知識を生かすことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

○ロシア20世紀の芸術音楽を歴史的にたどり、オペラ・オーケストラ曲・室内楽曲・独奏曲等の楽曲分析をとおしてロシア音楽への理解を深める。

○サンクトペテルブルグ音楽院(ロシア)留学時の講義ノートから、楽曲分析の様々な方法を提示する。

○映像・音源・実演をとおして実際に役に立つ知識を具体的に解説する。

- 第 1回 ラフマニノフの音楽(1)ピアノ協奏曲第2番作品18
- 第 2回 ラフマニノフの音楽(2)ピアノ協奏曲第3番作品30
- 第 3回 ラフマニノフの音楽(3)＜パガニーニの主題による狂詩曲＞作品43
- 第 4回 ラフマニノフの音楽(4)＜交響的舞曲＞作品45
- 第 5回 スクリャービンの音楽(1)＜プロメテウス 火の詩＞
- 第 6回 スクリャービンの音楽(2)ピアノ・ソナタ第7番作品64＜白ミサ＞
- 第 7回 ストラヴィンスキーの音楽(1)バレエ音楽＜春の祭典＞第1部
- 第 8回 ストラヴィンスキーの音楽(2)バレエ音楽＜春の祭典＞第2部
- 第 9回 ストラヴィンスキーの音楽(3)＜兵士の物語＞
- 第 9回 プロコフィエフの音楽(1)ピアノ協奏曲第3番作品26
- 第10回 プロコフィエフの音楽(2)ピアノ・ソナタ第7番作品83
- 第11回 ショスタコーヴィチの音楽(1)交響曲第5番作品47
- 第12回 ショスタコーヴィチの音楽(2)交響曲第7番作品60＜レニングラード＞
- 第13回 ロシア・アヴァンギャルドの音楽
- 第14回 シュニトケ、ベルト、グバイドゥリナの音楽
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作曲家についての基礎知識を調べ、課題作品を聴いてくること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと期末に提出するレポート。

その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布。

#### ◆参考図書◆

「ロシア・ソヴィエト音楽史」ジェームズ・バクスト著(音楽之友社)

「ロシア史Ⅰ,Ⅱ」森田稔、梅津紀雄訳(全音楽譜出版社)

「ロシア音楽史」フランシス・マース著(春秋社)

ミニチュア・スコア「交響曲第5番作品64」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「バレエ組曲・白鳥の湖作品20」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「バレエ組曲・眠れる森の美女作品66a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「バレエ組曲・くるみ割り人形作品71a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「パガニーニの主題による狂詩曲作品43」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「交響的舞曲作品45」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	地域音楽コーディネーター実践		
担当教員	久保田 慶一		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

地域の音楽活動を活性化するために、音楽ティーチングアーティストとして活躍するための知識とスキルを修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

近年、小・中学校や病院などの施設でミニコンサートが開かれることが多くなりました。そこでは音楽を演奏するだけでなく、演奏する曲目や楽器について説明することが求められます。また通常の演奏会でも、聴衆に深く音楽を聴いてもらい、クラシック音楽を楽しんでもらわなくてはなりません。音楽ティーチング・アーティストは、演奏家でありながら、聴衆に対して教育的なことができる人を指します。この授業の目的は、11月から12月の時期に、大学の近くに施設で演奏会を開催します。

##### 【前期】

1. ティーチング・アーティストとはどんな人
2. ティーチング・アーティストに求められる資質とスキル
3. ティーチング・アーティストになるための学び
4. ティーチング・アーティストの活動事例(ゲストティーチャー1)
5. エントリーポイント(学生A～Cによる事例発表)
6. エントリーポイント(学生D～Fによる事例発表)
7. エントリーポイント(学生G～Iによる事例発表)
8. エントリーポイント(学生J～Lによる事例発表)
9. ティーチング・アーティストの活動事例(ゲストティーチャー2)
10. 演奏会のためのアクティビティ(学生A～Cによる実践発表)
11. 演奏会のためのアクティビティ(学生D～Fによる実践発表)
12. 演奏会のためのアクティビティ(学生G～Iによる実践発表)
13. 演奏会のためのアクティビティ(学生J～Lによる実践発表)
14. 演奏会の企画
15. 夏休み中に演奏会パートナー機関と打ち合わせをする

#### ◆準備学習の内容◆

グループで分担を決めて企画案を作成するので、授業時間以外での作業が必要とされる。

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の発表についてコメントする。成績は、企画案と発表の仕方を総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

エーリック・ブース:『ティーチング・アーティスト:音楽の世界を伝える職業』(久保田慶一:監訳) ¥2,000- 授業内で販売します。

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する

#### ◆留意事項◆

授業には積極的に参加することが望まれる。後期にも必ず履修して出席すること。



ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	2年	クラス	O2
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、マスメディア、コンピュータ、インターネットなど——が、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史的あるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

原則として、テーマとなるアーティストや作品や技術等を各回に取り上げ、視聴と解説を行うが、音楽とメディアに関わる新しい動向があれば随時フォローする。

また、受講者による発表とディスカッションを実施する。

- 1) 授業ガイダンス
- 2) 人工知能と音楽～創造性とは何か
- 3) 人工知能と音楽～デビッド・コープの試み
- 4) 人工知能と音楽～最新の動向
- 5) ゲスト・レクチャー1(予定)
- 6) ディスカッション1
- 7) 音と映像～オスカー・フィッシーンガー 音楽と「動く絵画」
- 8) 音と映像～ノーマン・マクラレン 音と映像の同期
- 9) 音と映像～ノーマン・マクラレン メディアアーティストとしてのマクラレン
- 10) ミュージック・ビデオ～ミシェル・ゴンドリー
- 11) ミュージック・ビデオ～クリス・カニングハム
- 12) ミュージック・ビデオ～OK Go 映像の「カット」と音楽
- 13) ゲスト・レクチャー2(予定)
- 14) ディスカッション2
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項の検索を各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内発表の内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音響メディア史(谷口文和, 中川克志, 福田裕大 著/ナカニシヤ出版)  
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/DU BOOKS)  
 細野晴臣 録音術 ぼくらはこうして音をつくってきた(鈴木惣一朗ほか 著/DU BOOKS)  
 芸術の設計—見る／作る／ことのアプリケーション(岡崎乾二郎 著/フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス(中村滋延 著/九州大学出版会)  
 メディア・アート創世記—科学と芸術の出会い(坂根徹夫 著/フィルムアート社)  
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)  
 魔法の世紀(落合陽一/PLANETS)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS703U		
科目名	テーマ別演習B I		
科目詳細	ロシア音楽研究(楽曲分析を含む)		
担当教員	森垣 桂一		
学年	2年	クラス	O3
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロシアの芸術音楽と作曲技法の理解を深めることにより、自己の演奏・創作・研究等にその知識を生かすことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ロシアの芸術音楽を歴史的にたどり、オペラ・オーケストラ曲・室内楽曲・独奏曲等の楽曲分析をとおしてロシア音楽への理解を深める。
- サンクトペテルブルグ音楽院(ロシア)留学時の講義ノートから、楽曲分析の様々な方法を提示する。
- 映像・音源・実演をとおして実際に役に立つ知識を具体的に解説する。

- 第 1回 ロシア正教の典礼音楽
- 第 2回 ロシア民族音楽
- 第 3回 グリンカの音楽(1)歌劇<ルスランとリュドミラ>
- 第 4回 グリンカの音楽(2)<カマリンスカヤ>
- 第 5回 ポロディンの音楽(1)歌曲とオーケストラ曲
- 第 6回 ポロディンの音楽(2)歌劇<イーゴリ公>
- 第 7回 ムソルグスキーの音楽(1)組曲<展覧会の絵>
- 第 8回 ムソルグスキーの音楽(2)歌劇<ボリス・ゴドゥノフ>
- 第 9回 リムスキー＝コルサコフの音楽 交響組曲<シェエラザード>
- 第 9回 チャイコフスキーの音楽(1)幻想序曲<ロミオとジュリエット>
- 第10回 チャイコフスキーの音楽(2)ピアノ協奏曲第1番作品23
- 第11回 チャイコフスキーの音楽(3)ヴァイオリン協奏曲作品35
- 第12回 チャイコフスキーの音楽(4)交響曲第5番作品64
- 第13回 チャイコフスキーの音楽(5)交響曲第6番作品74<悲愴>
- 第14回 チャイコフスキーの音楽(6)三大バレエ音楽
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作曲家についての基礎知識を調べ、課題作品を聴いてくること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと期末に提出するレポート。  
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布。

#### ◆参考図書◆

- 「ロシア・ソヴィエト音楽史」ジェームズ・バクスト著(音楽之友社)
- 「ロシア史 I.II」森田稔、梅津紀雄訳(全音楽譜出版社)
- 「ロシア音楽史」フランシス・マース著(春秋社)
- ミニチュア・スコア「交響曲第5番作品64」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「バレエ組曲・白鳥の湖作品20」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「バレエ組曲・眠れる森の美女作品66a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「バレエ組曲・くるみ割り人形作品71a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「パガニーニの主題」による狂詩曲作品43」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)
- ミニチュア・スコア「交響的舞曲作品45」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	地域音楽コーディネーター実践		
担当教員	久保田 慶一		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

地域の音楽活動を活性化させるために、音楽ティーチングアーティストとして活躍するための知識とスキルを修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

【後期】

1. 演奏会企画発表会(学生A～C)
2. 演奏会企画発表会(学生D～F)
3. 演奏会企画発表会(学生G～I)
4. アクティビティ発表会(前半の前半分)
5. アクティビティ発表会(前半の後半分)
6. アクティビティ発表会(後半の前半分)
7. アクティビティ発表会(後半の後半分)
8. 演奏会の準備(前半の前半分)
9. 演奏会の準備(前半の後半分)
10. 演奏会の準備(後半の前半分)
11. 演奏会の準備(後半の後半分)
12. 演奏会の準備(前半通し)
13. 演奏会の準備(後半通し)
14. 反省会
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

グループで分担を決めて企画案を作成するので、授業時間以外での作業が必要とされる。

#### ◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、演奏会の企画案と演奏会のマネジメントなどを総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

エーリック・ブース:『ティーチング・アーティスト:音楽の世界を伝える職業』(久保田慶一:監訳) ¥2,000- 授業内で販売します。

#### ◆参考図書◆

適時指摘する。

#### ◆留意事項◆

授業には積極的に参加することが望まれる。前期を履修して、出席数を満たしていること。

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	音楽とメディア		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	2年	クラス	O2
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽と多様なメディアのかかわりから生まれる、新しい芸術表現の試みや音楽をとりまく環境の変化について、知見を深められる。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽は、それ自体で成り立っているのでは決してなく、様々なメディア——身体、楽器、楽譜、録音再生技術、マスメディア、コンピュータ、インターネットなどが、本質に深く関わっている。この点に意識的になりながら、音楽にまつわる歴史的あるいは今日的な事象を読み解く能力を養うことで、自身の演奏や創作、研究につなげていける授業としたい。

原則として、テーマとなるアーティストや作品や技術等を各回に取り上げ、視聴と解説を行うが、音楽とメディアに関わる新しい動向があれば随時フォローする。

また、受講者による発表とディスカッションを実施する。

- 1) 授業ガイダンス
- 2) 録音芸術～技術史
- 3) 録音芸術～グレン・グールド
- 4) 録音芸術～ドナルド・フェイゲン
- 5) 録音芸術～細野晴臣
- 6) ゲーム音楽～黎明期からファミリー・コンピュータ
- 7) ゲーム音楽～ハードウェアと音楽の変遷
- 8) ゲーム音楽～コンサート
- 9) ゲスト・レクチャー3(予定)
- 10) 受講者による発表とディスカッション1
- 11) 受講者による発表とディスカッション2
- 12) 受講者による発表とディスカッション3
- 13) 受講者による発表とディスカッション4
- 14) 受講者による発表とディスカッション5
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた内容について、関連する事項の検索を各自で行うこと。音楽とメディアに関わるニュース等に日ごろから注目し、考察すること。目安毎日15分。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内発表の内容とディスカッションへの参加度により評価する。フィードバックは授業内で随時行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

音響メディア史(谷口文和, 中川克志, 福田裕大 著/ナカニシヤ出版)  
 ナイトフライ 録音芸術の作法と観賞法(富田恵一 著/ DU BOOKS)  
 細野晴臣 録音術 ぼくらはこうして音をつくってきた(鈴木惣一朗ほか 著/ DU BOOKS)  
 芸術の設計—見る／作る／ことのアプリケーション(岡崎乾二郎 著/フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス(中村滋延 著/九州大学出版会)  
 メディア・アート創世記—科学と芸術の出会い(坂根徹夫 著/フィルムアート社)  
 日本メディアアート史(馬定延 著/アルテスパブリッシング)  
 魔法の世紀(落合陽一/PLANETS)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGS704U		
科目名	テーマ別演習BⅡ		
科目詳細	ロシア音楽研究(楽曲分析を含む)		
担当教員	森垣 桂一		
学年	2年	クラス	O3
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロシアの芸術音楽と作曲技法の理解を深めることにより、自己の演奏・創作・研究等にその知識を生かすことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

○ロシア20世紀の芸術音楽を歴史的にたどり、オペラ・オーケストラ曲・室内楽曲・独奏曲等の楽曲分析をとおしてロシア音楽への理解を深める。

○サンクトペテルブルグ音楽院(ロシア)留学時の講義ノートから、楽曲分析の様々な方法を提示する。

○映像・音源・実演をとおして実際に役に立つ知識を具体的に解説する。

- 第 1回 ラフマニノフの音楽(1)ピアノ協奏曲第2番作品18
- 第 2回 ラフマニノフの音楽(2)ピアノ協奏曲第3番作品30
- 第 3回 ラフマニノフの音楽(3)＜パガニーニの主題による狂詩曲＞作品43
- 第 4回 ラフマニノフの音楽(4)＜交響的舞曲＞作品45
- 第 5回 スクリャービンの音楽(1)＜プロメテウス 火の詩＞
- 第 6回 スクリャービンの音楽(2)ピアノ・ソナタ第7番作品64＜白ミサ＞
- 第 7回 ストラヴィンスキーの音楽(1)バレエ音楽＜春の祭典＞第1部
- 第 8回 ストラヴィンスキーの音楽(2)バレエ音楽＜春の祭典＞第2部
- 第 9回 ストラヴィンスキーの音楽(3)＜兵士の物語＞
- 第 9回 プロコフィエフの音楽(1)ピアノ協奏曲第3番作品26
- 第10回 プロコフィエフの音楽(2)ピアノ・ソナタ第7番作品83
- 第11回 ショスタコーヴィチの音楽(1)交響曲第5番作品47
- 第12回 ショスタコーヴィチの音楽(2)交響曲第7番作品60＜レニングラード＞
- 第13回 ロシア・アヴァンギャルドの音楽
- 第14回 シュニトケ、ベルト、グバイドゥリナの音楽
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作曲家についての基礎知識を調べ、課題作品を聴いてくること。

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと期末に提出するレポート。

その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布。

#### ◆参考図書◆

「ロシア・ソヴィエト音楽史」ジェームズ・バクスト著(音楽之友社)

「ロシア史Ⅰ,Ⅱ」森田稔、梅津紀雄訳(全音楽譜出版社)

「ロシア音楽史」フランシス・マース著(春秋社)

ミニチュア・スコア「交響曲第5番作品64」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「バレエ組曲・白鳥の湖作品20」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「バレエ組曲・眠れる森の美女作品66a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「バレエ組曲・くるみ割り人形作品71a」チャイコフスキー作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「パガニーニの主題による狂詩曲作品43」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

ミニチュア・スコア「交響的舞曲作品45」ラフマニノフ作曲森垣桂一解説(音楽之友社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MGL701U		
科目名	エディション研究A		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

・出版楽譜をめぐる諸問題についてその実態が理解できる。・作曲から楽譜出版までのプロセスについて理解できる。・自分の専門領域の楽曲についてエディションの状況やその問題を把握し、自分で調査して適切に対処することができる。・エディションと不可分の関係にある演奏習慣の問題について理解し、自分の解釈を組み立てることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

西洋伝統音楽を演奏したり研究したりする上で基本的な手がかりとなるエディション(出版楽譜)の諸問題について学び、さまざまな作曲家や作品の事例を通して、受講生が自分で個別の問題に対応できるようなスキルと判断力を養います。

参加者の専攻や人数によって実際の進行は変わりますが、おおむね最初は共通の素材を用いてエディション問題の一般的理解を深め、その後は各人が個別の作品を選んで研究発表を行います。

授業はほぼ以下のように進められます。

- 第1回 エディション問題概説
- 第2回 手稿譜(着想から自筆譜まで)
- 第3回 楽譜印刷のプロセス
- 第4回 印刷譜の種類
- 第5回 原典版と実用版
- 第6回 バッハ、モーツァルト
- 第7回 ベートーヴェン、シューベルト
- 第8回 ショパン、シューマン
- 第9回 ブラームス、ムソルグスキー
- 第10回 ドビュッシー、ラヴェル
- 第11回 学生の個別研究発表:グループ1
- 第12回 学生の個別研究発表:グループ2
- 第13回 学生の個別研究発表:グループ3
- 第14回 学生の個別研究発表:グループ4
- 第15回まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・毎回の授業で扱う内容や楽曲について事前に楽譜や文献を調査し、理解を深めておいてください。
- ・個別研究発表の担当者は当日までに発表に必要な配布資料やプレゼンテーションを作成しておいてください。

#### ◆成績評価の方法◆

各自の研究発表を授業内で講評するとともに、授業への貢献度を加味して評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし(適宜プリント配布)

#### ◆参考図書◆

吉成順『知って得するエディション講座』(音楽之友社)など

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL702U		
科目名	エディション研究B		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

エディション(出版楽譜)に関するさまざまな問題を理解し、自分の専門領域でのエディション選択において、適切な調査と判断が行えるようになる。また、エディションと不可分の関係にある演奏習慣の問題について理解し、自分の解釈を確立できるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

「授業目標」にある通り、受講生の一人ひとりが、自分の専門分野での問題を認識し、それに対処する方法を学ぶことが重要となる。したがって、授業内容は、受講生の専門分野(楽器など)や関心の対象(時代、作曲家、ジャンルなど)、前提となっている知識(エディション研究Aを履修しているかなど)といったことに必然的に大きく左右される。

##### ○各回の概要(予定)

- 第1回 導入(1): エディションをめぐる問題とは?
- 第2回 導入(2): 受講者の問題意識を明確にする。発表の分担を決める。
- 第3回 文献講読(1): 基本的な問題を把握するため、共通の文献を講読する。
- 第4回 文献講読(2): 基本的な問題を把握するため、共通の文献を講読する。
- 第5回 エディションに関する発表(1)学生Aによる発表
- 第6回 エディションに関する発表(2)学生Bによる発表
- 第7回 エディションに関する発表(3)学生Cによる発表
- 第8回 エディションに関する発表(4)学生Dによる発表
- 第9回 まとめ
- 第10回 導入(3): 演奏習慣と演奏解釈に関する問題。発表の分担を決める。
- 第11回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(1)学生Eによる発表
- 第12回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(2)学生Fによる発表
- 第13回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(3)学生Gによる発表
- 第14回 演奏習慣と演奏解釈に関する発表(4)学生Hによる発表
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・各回で考察の対象となる楽曲については、事前に複数のエディションを検討しておくこと。
- ・講読に際しては、精読をした上で臨むこと。
- ・授業内発表にあたっては、適切な資料を整え、十分な準備をして臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・授業内での発表の内容、文献への理解(準備学習の状況)、議論への積極的な参加などを加味する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

#### ◆参考図書◆

- W.エマリ『バッハの装飾音』(アカデミアミュージック)
- W.エマリ『エディションと音楽家』(アカデミアミュージック)
- 吉成順『知って得するエディション講座』(音楽之友社)
- アントニー・バートン編『バロック音楽』(音楽之友社)
- アントニー・バートン編『古典派の音楽』(音楽之友社)
- アントニー・バートン編『ロマン派の音楽』(音楽之友社[近刊予定])
- Anthony Burton ed. A performer's guide to the music of the Baroque period. (ABRSM)
- Anthony Burton ed. A performer's guide to the music of the classical period. (ABRSM)
- Anthony Burton ed. A performer's guide to the music of the romantic period. (ABRSM)
- その他、適宜指示する。
- なお、バートン編の文献については、原書にのみ音源が添付されている。

#### ◆留意事項◆

自分の専門領域に深く関わることを意識して、意欲的な態度で臨んで欲しい。

ナンバリング	MGS705N		
科目名	プロジェクトA I		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる□

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度は2018年に生誕100周年を迎えるレナード・バーンスタインを中心に、その仕事とその時代の音楽文化を眺めます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフと外部の講師が交代で担当します。適宜演奏も含まれます。

第1回 バーンスタインとは

第2回 作曲家バーンスタイン1:交響作品

第3回 作曲家バーンスタイン2:舞台作品1

第4回 作曲家バーンスタイン3:舞台作品2

第5回 作曲家バーンスタイン4:宗教作品

第6回 作曲家バーンスタイン5:室内楽・器楽

第7回 バーンスタインの作曲技法

内容は変更の可能性があります。詳しくは、音楽研究所のウェブサイト

<https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenyujo/home>

でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと。

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布し、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし□

◆参考図書◆

特になし□

◆留意事項◆

特になし□



ナンバリング	MGS706N		
科目名	プロジェクトAⅡ		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる□

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度は2018年に生誕100周年を迎えるレナード・バーンスタインを中心に、その仕事とその時代の音楽文化を眺めます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフと外部の講師が交代で担当します。適宜演奏も含まれます。

- 第1回 教育者としてのバーンスタイン
- 第2回 思想家としてのバーンスタイン
- 第3回 指揮者バーンスタイン1:レパートリー
- 第4回 指揮者バーンスタイン2:古典的レパートリー
- 第5回 指揮者バーンスタイン3:同時代の音楽
- 第6回 指揮者バーンスタイン4:アメリカ音楽
- 第7回 指揮者バーンスタイン5:自作

内容は変更の可能性があります。詳しくは、音楽研究所のウェブサイト  
<https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenyujo/home>  
 でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと。

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布し、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし□

◆参考図書◆

特になし□

◆留意事項◆

特になし□

ナンバリング	MGS707N		
科目名	プロジェクトB I		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる□

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度は2018年に生誕100周年を迎えるレナード・バーンスタインを中心に、その仕事とその時代の音楽文化を眺めます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフと外部の講師が交代で担当します。適宜演奏も含まれます。

第1回 バーンスタインとは

第2回 作曲家バーンスタイン1:交響作品

第3回 作曲家バーンスタイン2:舞台作品1

第4回 作曲家バーンスタイン3:舞台作品2

第5回 作曲家バーンスタイン4:宗教作品

第6回 作曲家バーンスタイン5:室内楽・器楽

第7回 バーンスタインの作曲技法

内容は変更の可能性があります。詳しくは、音楽研究所のウェブサイト

<https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenyujo/home>

でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布し、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし□

◆参考図書◆

特になし□

◆留意事項◆

特になし□

ナンバリング	MGS708N		
科目名	プロジェクトBⅡ		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金放	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

20世紀中葉までのアメリカ音楽を文化的に理解できる□

◆授業内容・計画◆

ジャズの台頭、録音・放送メディアや映画音楽の発達、消費的音楽文化の興隆といった条件がそろって出てくる20世紀中葉までのアメリカは、音楽文化史上の重要な転換点であり、今日の音楽文化の基礎を作った、とても重要な存在です。音楽研究所では「現代のはじまり」とも言うべきこの時代の音楽文化について資料調査や演奏史的研究を行い、その成果の一端を「プロジェクト」科目として開講します。

本年度は2018年に生誕100周年を迎えるレナード・バーンスタインを中心に、その仕事とその時代の音楽文化を眺めます。

授業は隔週に行われます(半期7回)。講義は音楽研究所のスタッフと外部の講師が交代で担当します。適宜演奏も含まれます。

- 第1回 教育者としてのバーンスタイン
- 第2回 思想家としてのバーンスタイン
- 第3回 指揮者バーンスタイン1:レパートリー
- 第4回 指揮者バーンスタイン2:古典的レパートリー
- 第5回 指揮者バーンスタイン3:同時代の音楽
- 第6回 指揮者バーンスタイン4:アメリカ音楽
- 第7回 指揮者バーンスタイン5:自作

内容は変更の可能性があります。詳しくは、音楽研究所のウェブサイト  
<https://sites.google.com/a/kunitachi.ac.jp/ongakukenyujo/home>  
 でご確認ください。

◆準備学習の内容◆

各回の対象として予想される作品やジャンルについてCD、DVDなどで視聴して触れておくこと。

◆成績評価の方法◆

適宜コメントシートを配布し、講評します。また半期ごとにレポートを提出してもらいます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし□

◆参考図書◆

特になし□

◆留意事項◆

特になし□

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	オペラ		
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-33	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

専門領域に即した研究課題を決定し、研究計画を練り、中間報告を提出する。

#### ◆授業内容・計画◆

各人が的確な研究課題を見だし、翌年度の秋に提出することになる研究報告(ないし修士論文)の執筆に向けた足場を作っていく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:研究報告とはなにか、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 資料の調べ方について
- 第7回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第8回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第9回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第10回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第11回 論文執筆の要点:註や文献表について
- 第12回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第13回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第14回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第15回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表

#### ◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・学期末レポート(コメントを付けて返却)  
内容:12,000字以上の中間報告。表題、目次、参考文献表を付けること(ただし、これらは字数に含めない)。  
提出期限:2018年1月15日(月)17:00まで。  
提出先:音楽学研究室(5-203室)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

- \* 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- \* 進学の希望がある者は早めに相談すること。
- \* 沼口担当の「研究法 I」では、学期末レポートの提出が単位取得要件となるので十分に注意すること。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	歌曲		
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-33	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

専門領域に即した研究課題を決定し、研究計画を練り、中間報告を提出する。

#### ◆授業内容・計画◆

各人が的確な研究課題を見だし、翌年度の秋に提出することになる研究報告(ないし修士論文)の執筆に向けた足場を作っていく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:研究報告とはなにか、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 資料の調べ方について
- 第7回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第8回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第9回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第10回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第11回 論文執筆の要点:註や文献表について
- 第12回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第13回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第14回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第15回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表

#### ◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・学期末レポート(コメントを付けて返却)  
内容:12,000字以上の中間報告。表題、目次、参考文献表を付けること(ただし、これらは字数に含めない)。  
提出期限:2018年1月15日(月)17:00まで。  
提出先:音楽学研究室(5-203室)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

- \* 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- \* 進学の希望がある者は早めに相談すること。
- \* 沼口担当の「研究法 I」では、学期末レポートの提出が単位取得要件となるので十分に注意すること。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	鍵盤楽器		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O3
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

1.音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる; 2. 2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう; 3.「研究報告」の概要を執筆する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1) 学生グループA第1回
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2) 学生グループB第1回
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3) 学生グループC第1回
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4) 学生グループA第2回
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5) 学生グループB第2回
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6) 学生グループC第2回
10. 「研究報告」作成の方法(1)プラン
11. 「研究報告」作成の方法(2)執筆
12. 「研究報告」の概要の発表(1)学生グループA
13. 「研究報告」の概要の発表(2)学生グループB
14. 「研究報告」の概要の発表(3)学生グループC
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要と講評

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

随時指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	伴奏		
担当教員	友利 修		
学年	1年	クラス	O4
講義室	2-21	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

1.音楽学的な研究方法を理解して、自身の分野での研究への活用ができる; 2. 2年次の9月に提出する「研究報告」作成のための予備研究を行なう; 3.「研究報告」の概要を執筆する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. テーマの設定のためのディスカッション
3. テーマに関する先行研究の調査
4. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(1) 学生グループA第1回
5. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(2) 学生グループB第1回
6. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(3) 学生グループC第1回
7. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(4) 学生グループA第2回
8. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(5) 学生グループB第2回
9. 関連する文献、論文、楽曲の紹介(6) 学生グループC第2回
10. 「研究報告」作成の方法(1)プラン
11. 「研究報告」作成の方法(2)執筆
12. 「研究報告」の概要の発表(1)学生グループA
13. 「研究報告」の概要の発表(2)学生グループB
14. 「研究報告」の概要の発表(3)学生グループC
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自基礎文献を調査し読解すること。また発表のための資料を作成する。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告の概要と講評

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	弦管打楽器		
担当教員	吉成 順		
学年	1年	クラス	O5
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)次年度の課題研究作成に向けて、基礎的な調査や研究ができる。(2)適切な研究テーマを設定できる。(3)論旨の明快な文章が書ける。

#### ◆授業内容・計画◆

課題研究作成の意義と方法論を実践的に学びます。

授業は演習形式で行い、提示された課題の結果を各自が発表する形で進められます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 過去の研究報告を批評する
- 第3回 文献調査法
- 第4回 発想法
- 第5回 明快な文章
- 第6回 レファレンス・ツール
- 第7回 音楽事典の比較(1):ニューグローヴ音楽大事典
- 第8回 音楽事典の比較(2):MGG、平凡社など
- 第9回 文献表作成(1):日本語文献
- 第10回 文献表作成(2):外国語文献
- 第11回 主要文献の解題
- 第12回 主要文献の批評
- 第13回 テーマの絞り込み
- 第14回 来年度までの研究計画
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

与えられた課題に対してきちんと準備し、結果は配布資料としてまとめておいてください。

#### ◆成績評価の方法◆

個別発表の内容を授業内で講評するとともに、授業への貢献度を加味して評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

適宜指示します

#### ◆留意事項◆

パソコン(Wordなど文書作成ソフト)は必須ではありませんが、なるべく習熟しておいた方が便利です。



ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	音楽理論・ソルフェージュ		
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O6
講義室	5-215(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

2年生で執筆する課題研究の準備

#### ◆授業内容・計画◆

1. 課題研究とは何か
2. 各自の研究テーマについて、日本語音楽事典での記述を発表する。
3. 各自の研究テーマについて、英語音楽事典での記述を発表する。
4. 各自の研究テーマについて、独・仏語音楽事典での記述を発表する。
5. 各自の研究テーマについて、文献検索の方法を事典で学ぶ。
6. 各自の研究テーマについて、文献検索の方法を文献で学ぶ。
7. 各自の研究テーマについて、文献検索の方法をPCで学ぶ。
8. 各自の研究テーマについて、先行研究の論文内容を発表する。(学生A～C)
9. 各自の研究テーマについて、先行研究の論文内容を発表する。(学生D～F)
10. 各自の研究テーマについて、先行研究の論文内容を発表する。(学生G～I)
11. 各自の研究テーマについて、参考文献表を作成する。
12. 各自の研究テーマについて、研究計画を立て、発表する。(学生A～C)
13. 各自の研究テーマについて、研究計画を立て、発表する。(そのD～F)
14. 各自の研究テーマについて、研究計画を立て、発表する。(そのG～I)
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

発表する内容を学習し、レジュメを作成する。

#### ◆成績評価の方法◆

発表した内容に毎回コメントをする。成績は発表内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一:改訂版 音楽の文章セミナー(音楽之友社)

#### ◆参考図書◆

適宜指摘する。

#### ◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MGL703N		
科目名	研究法 I		
科目詳細	作品創作・コンピュータ音楽		
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O8
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

研究の基本的な方法を身につけ、自らの課題を絞り込む

◆授業内容・計画◆

以下は予定。進行状況により、順番と回数に変更することもある。

- 第1回： 研究課題に見つけ方、基本的な文献の探し方について
- 第2回： 先行研究に関する調査・読解と発表(1)国内外の文献へのアプローチ
- 第3回： 先行研究に関する調査・読解と発表(2)調査の方法
- 第4回： 先行研究に関する調査・読解と発表(3)調査結果のまとめ
- 第5回： 先行研究に関する調査・読解と発表(4)文献の読み解き方
- 第6回： 先行研究に関する調査・読解と発表(5)文献の引用の仕方
- 第7回： 研究状況の発表
- 第8回： 個人ごとに研究発表(1)研究対象を明確にする
- 第9回： 個人ごとに研究発表(2)研究方法を考える
- 第10回： 個人ごとに研究発表(3)研究方法を洗練する
- 第11回： 個人ごとに研究発表(4)調査結果を分析する
- 第12回： 個人ごとに研究発表(5)楽曲等を分析する
- 第13回： 個人ごとに研究発表(6)分析から結果を導き出す
- 第14回： レポート作成に向けたまとめ
- 第15回： 授業のまとめ

◆準備学習の内容◆

自らの研究課題にそって、先行研究論文を読解し、楽曲の分析等を行う

◆成績評価の方法◆

出席、授業内の発表と講評、レポートを総合して評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	オペラ		
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-33	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

秋の研究報告(ないし修士論文)の提出に向けて着実に準備を進める。

#### ◆授業内容・計画◆

「研究法Ⅰ」の流れを引き継ぎ、着実に執筆を進めてゆく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:これまでの自分の研究状況の確認、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第7回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第8回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第9回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第10回 問題点の整理
- 第11回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第12回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第13回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第14回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表
- 第15回 夏休みの間の研究について

#### ◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

- \* 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- \* 進学のある者は早めに相談すること。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	歌曲		
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	O2
講義室	2-33	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

秋の研究報告(ないし修士論文)の提出に向けて着実に準備を進める。

#### ◆授業内容・計画◆

「研究法Ⅰ」の流れを引き継ぎ、着実に執筆を進めてゆく。

○各回の概要(予定)

- 第1回 導入:これまでの自分の研究状況の確認、発表の分担
- 第2回 個人発表(1)学生A, Bの発表
- 第3回 個人発表(2)学生C, Dの発表
- 第4回 個人発表(3)学生E, Fの発表
- 第5回 個人発表(4)学生G, Hの発表
- 第6回 個人発表(5)学生A, Bの2回目の発表
- 第7回 個人発表(6)学生C, Dの2回目の発表
- 第8回 個人発表(7)学生E, Fの2回目の発表
- 第9回 個人発表(8)学生G, Hの2回目の発表
- 第10回 問題点の整理
- 第11回 個人発表(9)学生A, Bの3回目の発表
- 第12回 個人発表(10)学生C, Dの3回目の発表
- 第13回 個人発表(11)学生E, Fの3回目の発表
- 第14回 個人発表(12)学生G, Hの3回目の発表
- 第15回 夏休みの間の研究について

#### ◆準備学習の内容◆

個人発表は、およそ隔週となる。専門実技がある中では、かなりの頻度なので、日頃から着実に準備を重ねておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・個人発表の内容
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

- \* 自分の関心と結びつけ、やっていることの意義が感じられる研究となるように努めて欲しい。
- \* 進学希望がある者は早めに相談すること。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	鍵盤楽器		
担当教員	友利 修		
学年	2年	クラス	O3
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

研究法Iの学習成果に基づき、9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス - 「研究報告」の書き方
2. 「研究報告」の書き方 - 書式の確認と実習
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)学生グループA第1回
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)学生グループB第1回
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)学生グループC第1回
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)学生グループA第2回
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)学生グループB第2回
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)学生グループC第2回
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)学生グループA第3回
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)学生グループB第3回
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)学生グループC第3回
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)学生グループA第4回
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)学生グループB第4回
14. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)学生グループC第4回
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

研究法Ⅱで学習した方法論を生かしながら、手続きを踏み、書式を遵守しながら毎回の研究報告の作成を着実に進める。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告作成の進め方について随時講評し、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	伴奏		
担当教員	友利 修		
学年	2年	クラス	O4
講義室	2-21	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

研究法Iの学習成果に基づき、9月に提出する「研究報告」を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス - 「研究報告」の書き方
2. 「研究報告」の書き方 - 書式の確認と実習
3. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(1)学生グループA第1回
4. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(2)学生グループB第1回
5. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(3)学生グループC第1回
6. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(4)学生グループA第2回
7. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(5)学生グループB第2回
8. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(6)学生グループC第2回
9. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(7)学生グループA第3回
10. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(8)学生グループB第3回
11. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(9)学生グループC第3回
12. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(10)学生グループA第4回
13. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(11)学生グループB第4回
14. 各自の「研究報告」の各章の発表と講評(12)学生グループC第4回
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

研究法Ⅱで学習した方法論を生かしながら、手続きを踏み、書式を遵守しながら研究報告の作成を着実に進める。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と研究報告作成の進め方。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時指示する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	弦管打楽器		
担当教員	吉成 順		
学年	2年	クラス	05
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

(1)課題研究のテーマを適切に設定できる。(2)必要な調査をもとに研究報告を完成できる。

◆授業内容・計画◆

前半は各自が進めている研究の状況報告、後半は研究報告の執筆と添削が中心となります。

- 第1回 3月までの経過報告
- 第2回 テーマの絞り込みと文献調査
- 第3回 テーマの絞り込みと検討
- 第4回 テーマ決定
- 第5回 研究と経過報告:グループ1
- 第6回 研究と経過報告:グループ2
- 第7回 研究と経過報告:グループ3
- 第8回 研究のまとめ
- 第9回 研究報告の構成
- 第10回 研究報告執筆(1):アウトライン
- 第11回 研究報告執筆(2):目的と先行研究
- 第12回 研究報告執筆(3):研究の具体的内容
- 第13回 研究報告執筆(4):結論
- 第14回 文献表作成
- 第15回 研究報告の完成

◆準備学習の内容◆

目標を設定して研究を進め、進捗状況をレポートとしてまとめておいてください。

◆成績評価の方法◆

個別発表の内容を授業内で講評するとともに授業への貢献度を加味して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

パソコン(Wordなど文書作成ソフト)は必須ではありませんが、なるべく習熟しておいた方が便利です。

ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	音楽理論・ソルフェージュ		
担当教員	久保田 慶一		
学年	2年	クラス	O6
講義室	5-215(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

課題研究の執筆

◆授業内容・計画◆

1. 研究テーマについて、日本語先行論文を読んで、研究内容を発表する。
2. 研究テーマについて、英語先行論文を読んで、研究内容を発表する。
3. 研究テーマについて、独・仏語先行論文を読んで、研究内容を発表する。
4. 課題研究全体の構成を発表する。(学生A～C)
5. 課題研究全体の構成を発表する。(学生D～F)
6. 課題研究全体の構成を発表する。(学生G～I)
7. 課題研究の章を書いて、第2回目の発表する。(学生A～C)
8. 課題研究の章を書いて、第2回目の発表する。(学生D～F)
9. 課題研究の章を書いて、第2回目の発表する。(学生G～I)
10. 課題研究の章を書いて、第3回目の発表する。(学生A～C)
11. 課題研究の章を書いて、第3回目の発表する。(学生D～F)
12. 課題研究の章を書いて、第3回目の発表する。(学生G～I)
13. 課題研究の章を書いて、最終発表する。(学生A～C)
14. 課題研究の章を書いて、最終発表する。(学生D～F)
15. 課題研究の章を書いて、最終発表する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

発表内容を学習してレジュメを作成する。

◆成績評価の方法◆

発表内容にコメントをする。成績は発表内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一:改訂版 音楽の文章セミナー(音楽之友社)

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。



ナンバリング	MGL704N		
科目名	研究法Ⅱ		
科目詳細	作品創作・コンピュータ音楽		
担当教員	白石 美雪		
学年	2年	クラス	O8
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

課題研究の基本的な部分を書き上げる

◆授業内容・計画◆

以下は予定。進行状況により、順番と回数に変更する可能性がある。

第1回：研究状況の報告

第2回：研究テーマをさらに掘り下げる方法を検討(1)より広範な参考文献を読む

第3回：研究テーマをさらに掘り下げる方法を検討(2)より幅広い調査を行う

第4回：研究テーマをさらに掘り下げる方法を検討(3)より多角的に議論を展開する

第5回：各自の研究発表・討論(1)研究テーマについて

第6回：各自の研究発表・討論(2)研究対象について

第7回：各自の研究発表・討論(3)研究方法について

第8回：各自の研究発表・討論(4)分析結果について

第9回：個別の指導、レポート内容の検討(1)目次の作成

第10回：個別の指導、レポート内容の検討(2)的確な問題提起

第11回：個別の指導、レポート内容の検討(3)議論の全体構成

第12回：個別の指導、レポート内容の検討(4)分析結果の効果的な表示

第13回：個別の指導、レポート内容の検討(5)註釈と文献表

第14回：レポート作成のための検討

第15回：授業のまとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究を深めるため、先行研究の読解や分析等を行う

◆成績評価の方法◆

出席、授業内の発表と講評、レポートを総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	MVP701N		
科目名	声楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方）

第2回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(1)フォーレ前期歌曲を2曲

第3回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(2)2回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(3)3回目の復習及び別のフォーレ前期歌曲2曲

第5回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(4)4回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(5)4回目の復習及びモーツァルトのオペラのアリア1曲

第7回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(6)5回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(7)ドビュッシー歌曲2曲とモーツァルトのアリア1曲

第9回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(9)別のドビュッシー歌曲2曲

第11回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(10)9回目の復習

第12回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(11)フォーレ中期の歌曲2曲

第13回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

◆準備学習の内容◆

毎日1時間以上の練習をすること

◆成績評価の方法◆

毎回の演習時に講評としてフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP702N		
科目名	声楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション（授業の目的・進め方）

第2回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(1)フォーレ中期歌曲3曲

第3回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(2)1回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(3)2回目の復習及びモーツァルトの歌曲2曲

第5回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(4)3回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(5)アーンの歌曲2曲

第7回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(6)5回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(7)別のアーンの歌曲2曲

第9回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(9)オペラアリア1曲とモーツァルトの歌曲2曲

第11回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(10)9回目の復習

第12回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

オペラ作品、歌曲作品を 学ぶ(11)10回目の復習

第13回 身体を使い発声練習

古典から、近代に至る

◆準備学習の内容◆

毎日1時間以上の練習をすること

◆成績評価の方法◆

毎回の演習時に講評としてフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP703N		
科目名	声楽演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(1)学生が取り上げたテーマの歌曲2曲

第3回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(2)2回目の復習

第4回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(3)2回目と別の歌曲及びオラトリオ1曲

第5回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(4)4回目の復習

第6回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(5)4回目と別の歌曲2曲及びモーツァルトのアリア1曲

第7回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(6)6回目の復習

第8回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(7)6回目と別の2曲とオラトリオ1曲

第9回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ(8) 8回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

宿題とされた曲について日本語訳をし、発音記号を明記すること。その後実技練習をして授業に備えること。

#### ◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックすると共に、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

#### ◆参考図書◆

授業内で指示

#### ◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVP704N		
科目名	声楽演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

身体が楽器であることを理解し、個性ある自分の楽器の音色を探求し、想像力を駆使し、舞台人として、魅力ある演奏をめざす。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(1)前期に取り上げた歌曲の復習

第3回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(2)モーツァルトのアリア及びオラトリオ2曲

第4回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(3)3回目の復習

第5回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(4)学生のテーマに沿った歌曲(前期に取り上げた曲目)3曲

第6回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(5)5回目の復習

第7回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(6)今までに取り上げた歌曲の復習

第8回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(7)今までに取り上げたオラトリオ曲の復習

第9回 身体を使い発声練習

大学院オペラ定期公演のモーツァルト作曲のオペラ作品を学ぶ。  
修了演奏を視野に入れて 古典から近代のオペラ作品、歌曲作品を学ぶ。(8)7回目の復習

第10回 身体を使い発声練習

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。  
宿題とされた曲について日本語訳をし、発音記号を明記すること。その後実技練習をして授業に備えること。

#### ◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点し、成果を総合的に評価する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

#### ◆参考図書◆

授業内で指示

#### ◆留意事項◆

毎回のレッスンに、動きやすい服装で参加

ナンバリング	MVS701N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

オペラを演奏するために必要な音楽表現及び舞台表現を演習を通して学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習① レチタティーヴォセッコ)

第3回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習② アリア中心)

第4回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習③ 小アンサンブル)

第5回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習④ 大アンサンブル(フィナーレなど))

第6回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)

第7回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)

第8回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)

第9回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)

第10回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)

第11回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 通し稽古)

第12回 モーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ ゲネプロ)

第13回 前期試演会に向けて(通し稽古)

第14回 前期試演会に向けて(ゲネプロ)

第15回 前期試演会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。

課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS702N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰを踏まえ、Ⅱではドイツ語の作品を取り上げ、オペラを演奏するために、より必要な音楽表現・舞台表現を学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習① ドイツ語について)
- 第2回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習② 台詞部分の発音指導)
- 第3回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習③ 音楽部分の発音指導)
- 第4回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習④ 小アンサンブル)
- 第5回 ドイツ語のオペラ作品演習(音楽練習⑤ 大アンサンブル、フィナーレ)
- 第6回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)
- 第7回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)
- 第8回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)
- 第9回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)
- 第10回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)
- 第11回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 通し稽古)
- 第12回 ドイツ語のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ ゲネプロ)
- 第13回 後期試演会に向けて(通し稽古)
- 第14回 後期試演会に向けて(ゲネプロ)
- 第15回 後期試演会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。  
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS703N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰ・Ⅱで培った能力を大学院オペラ公演で発揮するため、更に深くオペラの表現方法を学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業の目的・進め方)

第2回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習① レチタティーヴォセッコ)

第3回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習② アリア中心)

第4回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習③ 小アンサンブル)

第5回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(音楽練習④ 大アンサンブル(フィナーレなど))

第6回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)

愛7回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古② 荒立ち)

第8回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古③ 小アンサンブルの立ち稽古)

第9回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古④ 大アンサンブルの立ち稽古)

第10回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑤ フィナーレ部分の立ち稽古)

第11回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑥ 通し稽古)

第12回 大学院オペラ公演を見据えたモーツァルト作曲のオペラ作品演習(立ち稽古⑦ ゲネプロ)

第13回 オペラ研究授業発表会に向けて(通し稽古)

第14回 オペラ研究授業発表会に向けて(ゲネプロ)

第15回 オペラ研究授業発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。  
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示。

#### ◆留意事項◆

特になし。



ナンバリング	MVS704N		
科目名	オペラ研究(レパートリー研究)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	岩森 美里, 大倉 由紀枝, 福井 敬, 黒田 博, 澤畑 恵美, 中村 敬一, 佐藤 宏, 安部 克彦		
学年	2年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

オペラ研究(レパートリー研究)Ⅰ～Ⅲで培った表現方法を、大学院オペラ講演、修了演奏会にて十分に発揮し、オペラ歌手、演奏家としての第1歩とする。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習① 公演指揮者によるレチタティーヴォセッコの指導)
- 第2回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習② 公演指揮者による音楽指導)
- 第3回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(音楽練習③ 公演指揮者によるアリア指導)
- 第4回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古① 公演指揮者、演出家によるアンサンブル稽古)
- 第5回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古② 公演指揮者、演出家による大アンサンブル稽古)
- 第6回 大学院オペラ公演に向けて公演指揮者によるオペラ演習(立ち稽古③ 公演指揮者、及びオーケストラを交えての音楽稽古)
- 第7回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古① 各自選択した演目についての講義)
- 第8回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古② アンサンブル稽古(1))
- 第9回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(音楽稽古③ アンサンブル稽古(2))
- 第10回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古① 演出家より演出プラン確認)
- 第11回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古② アンサンブルの立ち稽古)
- 第12回 修了演奏に向けて各自で決定したオペラ作品の演習(立ち稽古③ 通し稽古)
- 第13回 修了演奏に向けて(通し稽古)
- 第14回 修了演奏に向けて(ゲネプロ)
- 第15回 修了演奏会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示。  
課題を解決するために、毎日曲を聴いたり、実技練習をしたりして授業にそなえること。

#### ◆成績評価の方法◆

成果を総合的に評価する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MVS705N		
科目名	重唱研究 I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

#### ◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて演習する。

##### 【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション。
- ・2回目 発音練習(特に母音)、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 詩の朗読及び歌唱。
- ・6回目 5回目までの授業内での疑問点についてのディスカッション。
- ・7回目 3曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 4曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 1曲目、2曲目の復習、歌唱及びディスカッション
- ・12回目 3曲目、4曲目の復習及びディスカッション。
- ・13回目 前期に取り上げた曲の詩を再度朗読、発音確認。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。
- ・15回目 前期で取り上げたすべての曲を演奏する。夏休みの課題を決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしてくる。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりとって授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVS706N		
科目名	重唱研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

#### ◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて、一年次二年次に分かれて演習する。

#### 【後期】

- ・1回目 前期の復習。
- ・2回目 新曲の発音練習、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 前期で取り上げた曲の復習及び後期で取り上げた曲(2曲)を歌唱。
- ・6回目 3曲目を取り上げ、朗読及び歌唱ディスカッション。(主に3重唱)
- ・7回目 4曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・8回目 5曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・9回目 小ホールでの演奏会に向けたプログラムに沿って演習。
- ・10回目 9回目の復習と主に発音確認。
- ・11回目 10回目の復習と主に音程確認。
- ・12回目 舞台を想定しての演習。
- ・13回目 演奏会に向けて全曲を歌唱及びディスカッション。
- ・14回目 大学院リート・アンサンブル演奏会。
- ・15回目 まとめと評価。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしてくる。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりとって授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVS707N		
科目名	重唱研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割を認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

#### ◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて演習する。

#### 【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション。
- ・2回目 発音練習(特に母音)、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 詩の朗読及び歌唱。
- ・6回目 5回目までの授業内での疑問点についてのディスカッション。
- ・7回目 3曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 4曲目を取り上げ、詩を朗読及び歌唱(主に2重唱)。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 1曲目、2曲目の復習、歌唱及びディスカッション
- ・12回目 3曲目、4曲目の復習及びディスカッション。
- ・13回目 前期に取り上げた曲の詩を再度朗読、発音確認。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。
- ・15回目 前期で取り上げたすべての曲を演奏する。夏休みの課題を決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしてくる。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりして授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVS708N		
科目名	重唱研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵, 長島 剛子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

各自の声と異なった声部との調和を体感することにより、ハーモニーの中の各自の役割をさらに認識する力を養う。12月には演奏会を小ホールで開催し、舞台上での演奏経験を踏ませ、演奏家としての資質を磨く。

#### ◆授業内容・計画◆

他の声部を聞き分け、自らの声部と他声部を同調させ、バランスをとる技術は芸術歌曲にとって必須である。これを十分に体得する為、独、仏語の二重唱以上の編成の楽曲を教材に用いて、一年次二年次に分かれて演習する。

#### 【後期】

- ・1回目 前期の復習。
- ・2回目 新曲の発音練習、重唱演習(2曲程度)。
- ・3回目 発音練習、重唱演習及び2回目の復習。
- ・4回目 同様の曲をパートナーを変更しながら歌う。
- ・5回目 前期で取り上げた曲の復習及び後期で取り上げた曲(2曲)を歌唱。
- ・6回目 3曲目を取り上げ、朗読及び歌唱ディスカッション。(主に3重唱)
- ・7回目 4曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・8回目 5曲目を取り上げ、朗読及び歌唱(主に4重唱)。
- ・9回目 小ホールでの演奏会に向けたプログラムに沿って演習。
- ・10回目 9回目の復習と主に発音確認。
- ・11回目 10回目の復習と主に音程確認。
- ・12回目 舞台を想定しての演習。
- ・13回目 演奏会に向けて全曲を歌唱及びディスカッション。
- ・14回目 大学院リート・アンサンブル演奏会。
- ・15回目 まとめと評価。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・予習・復習をする。
- ・各自のパートの音取りをする。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳にしておく。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。
- ・レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

- ・使用テキスト等は授業内で提示する

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

常に他の人と一緒に歌唱しますので、特に体調管理をしっかりとって授業に臨んで下さい。

ナンバリング	MVL701U		
科目名	作品研究(声楽) I		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-23	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

声楽作品を研究する手立てを学ぶ。音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

##### 【前期】

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:韻律法(1)
- 第3回:韻律法(2)
- 第4回:韻律法(3)
- 第5回:韻律法(4)
- 第6回:詩文学(1)
- 第7回:詩文学(2)
- 第8回:詩文学(3)
- 第9回:詩文学(4)
- 第10回:神話と音楽(1)
- 第11回:神話と音楽(2)
- 第12回:聖書と音楽(1)
- 第13回:聖書と音楽(2)
- 第14回:総括(1)
- 第15回:総括(2)

#### ◆準備学習の内容◆

講義を受講するにあたってあらかじめ目を通しておくべき図書を以下に挙げる。各回の講義で次回扱う内容を確認するので、その内容に関する予備知識を得た上で講義に望むこと。

- ・マリエッティ『ダンテ』(藤谷道夫訳)、白水社クセジュ。
- ・ペトルルカ『わが秘密』(近藤恒一訳)、岩波文庫
- ・嶺貞子監修『イタリアのオペラと歌曲を知る12章』、東京堂出版。
- ・戸口幸策ほか監修『オペラ事典』、東京堂出版。
- ・池上英洋『官能美術史』、筑摩書房。

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

天野恵ほか『イタリアの詩歌』、三修社。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング	MVL702U		
科目名	作品研究(声楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-23	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

「作品研究Ⅰ」に引き続き、声楽作品を研究する手立てを学ぶ。音楽修士を持つ演奏家たるにふさわしい知識を修得し、実演で得た経験や視点を織り交ぜながら、それを客観的な方法で発表できる手立てを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

声楽作品の研究の前段階として演奏家として論文を書くことについて考え、実際の資料調査やその分析などをおこないながら、専門家としての視点を養う。研究テーマについては受講者のアンケートをもとに決定する。

##### 【作品研究Ⅱ(後期)】

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:声楽作品分析(1)
- 第3回:声楽作品分析(2)
- 第4回:声楽作品分析(3)
- 第5回:声楽作品分析(4)
- 第6回:研究発表(1)
- 第7回:研究発表(2)
- 第8回:研究発表(3)
- 第9回:研究発表(4)
- 第10回:研究発表(5)
- 第11回:研究発表(6)
- 第12回:研究発表(7)
- 第13回:研究発表(8)
- 第14回:総括(1)
- 第15回:総括(2)

※受講者の理解度や準備の状態によって内容や進度を変更することがある。

#### ◆準備学習の内容◆

講義を受けるにあたって事前に求められる知識などが必要な場合には、図書館に足を運び、文献や情報を仕入れた上で、知識を得た状態で参加すること。また、学生による研究発表では、しっかりと準備したものを発表することが求められる。

#### ◆成績評価の方法◆

平常点を基本とする(50%)。研究発表の水準(30%)や討議への貢献度(20%)をベースにして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

天野恵ほか『イタリアの詩歌』、三修社。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

演奏家として、音楽家として、芸術家として、教養人としての才覚を身に付けるためには、飽くなく探究心と弛まぬ努力が必要であろうから、自分に厳しくあって欲しい。また、研究したことが演奏に何らかのかたちで生きてくるような説得力ある演奏を目指して欲しい。

ナンバリング	MVS709N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)A I		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などから検証し、いかにして自然で美しい日本語を歌唱表現できるかを研究する。詩の朗読や歌唱の実践を通して、より深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 日本歌曲その歴史と変遷
2. 日本語の特質、日本伝統の発声法について
3. 音声学から見た日本語
4. 詩の朗読実践。西洋の発声法と日本語の発語、発声の比較を通して
5. 創成期作曲家 滝廉太郎歌曲作品の歌唱について
6. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(1)詩人 北原白秋との出会い
7. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(2)詩人 野口雨情との出会い
8. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(3)詩人 三木露風、大木惇夫との出会い
9. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(4)民謡との融合と試み
10. 継承期作曲家 橋本國彦歌曲作品の歌唱について
11. 継承期作曲家 信時 潔歌曲作品の歌唱について
12. 継承期作曲家 平井康三郎歌曲作品の歌唱について
13. 継承期作曲家 高田三郎、成田為三ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践して行く形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢、演奏会などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆



ナンバリング	MVS710N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)A I		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-214	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ドイツ芸術歌曲とオラトリオ作品の特徴を学び、演習を通して研究する。ドイツ語作品歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に気づき、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス、受講生による試聴会(任意のドイツ語歌曲1曲を歌うこと。)  
 第2回～第4回 Haydn, Mozart, Beethoven の歌曲の研究と演習  
 第5回～第8回 Schubert の歌曲の研究と演習  
 第9回 オラトリオ作品の紹介  
 第10回～12回 オラトリオの研究と演習  
 第13回～第14回 Mendelssohn の歌曲の研究と演習  
 第15回 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS711N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)A I		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-217	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

- 1回目 声聴き会、オリエンテーション
- 2回目 授業で取り上げるペートン版についての説明をし、個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 3回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 4回目 発音練習後、各自選択した曲を取り上げ、実際に歌唱する。適宜発音に関してチェックする。
- 5回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にA母音を正しく発音できるようにする。(1)
- 6回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(2)
- 7回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(3)
- 8回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(4)
- 9回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(5)
- 10回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目を再度選択し決定する。
- 11回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(6)
- 12回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(7)
- 13回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(8)
- 14回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(9)
- 15回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

留意事項 インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS712N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)A I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 母音についての説明。一人ずつ発音する。
- ・3回目 リエゾンについての説明。各自曲を取り上げ、発音した後、実際に歌唱する。
- ・4回目 3回目の復習。
- ・5回目 名曲についての詩の解釈と歌唱。
- ・6回目 名曲についての詩の和声についての説明と歌唱。
- ・7回目 フォーレについての説明と歌唱。
- ・8回目 ドビュッシーについての説明と歌唱。
- ・9回目 フランスの文化についての説明と歌唱。
- ・10回目 新たな曲を取り歌唱する。
- ・11回目 10回目の復習。
- ・12回目 各自歌唱した後でディスカッションを行う。
- ・13回目 各自複数曲を歌唱する。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしておくこと。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS713N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

前期に引き続き、展開期作曲家から現代までの多くの作曲家歌曲作品の歌唱実践と詩の朗読、解釈を通して日本歌曲への理解をより深めてゆく。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1.現代詩における日本語の自然な発語発声と歌唱法
- 2.「あいうえお」の母音の音色や子音についての考察
3. 展開期作曲家 中田喜直歌曲作品の歌唱について
4. 展開期作曲家 大中 恩歌曲作品の歌唱について
5. 展開期作曲家 清水修、柴田南雄歌曲作品の歌唱について
6. 展開期作曲家 石桁真礼生、早坂文雄歌曲作品の歌唱について
7. 展開期作曲家 諸井三郎、諸井 誠歌曲作品の歌唱について
8. 展開期作曲家 團 伊玖磨歌曲作品の歌唱について
9. 展開期作曲家 小林秀雄、畑中良輔歌曲作品の歌唱について
- 10.展開期作曲家 別宮貞雄歌曲作品の歌唱について
- 11.展開期作曲家 三善 晃歌曲作品の歌唱について
- 12.展開期作曲家 木下牧子歌曲作品の歌唱について
- 13.展開期作曲家 猪本 隆歌曲作品の歌唱について
- 14.演奏発表会
- 15.後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践していく形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め、事前によく予習をしてきてください。(実技については毎日30分、解釈他については30分以上が望ましい)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組む姿勢、演奏会などからの総合的な評価、授業内で演奏された歌曲について一人一人に対し指導し、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MVS714N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-214	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ロマン派以降のドイツ歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。前期の基礎に引き続きドイツ語歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に更なる深い解釈をして、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

第1回～第3回 R.Schumannの歌曲の研究と演習  
 第4回～第5回 Brahmsの歌曲の研究と演習  
 第6回～第8回 オラトリオ作品の研究と演習  
 第9回～第11回 H.Wolfの歌曲の研究と演習  
 第12回 Mahlerの歌曲の研究と演習  
 第13回～第14回 20世紀歌曲の研究と演習  
 第15回 まとめと発表

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS715N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-217	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。イタリア語で演奏する上で大切な7つの母音を正確に発音できるようになる。

- 1回目 前期の復習。ディスカッション。
- 2回目 オラトリオを含む新たな曲を取り入れるよう、ディスカッションしながら決めて行く。
- 3回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
- 4回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 5回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 6回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にA母音が正しく発音されているかチェックする。(1)
- 7回目 授業最後に行われる発表会に対処すべく、ディスカッションしながら選曲準備をする。
- 8回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にI母音が正しく発音されているかチェックする。(2)
- 9回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(3)
- 10回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(4)
- 11回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(5)
- 12回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(6)
- 13回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にO母音が正しく発音されているかチェックする。(7)
- 14回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にイタリア語特有の7つの母音が正しく発音されているかチェックする。(8)
- 15回目 授業内発表会

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS716N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)AⅡ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【後期】

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・5回目 グノーについての説明と4回目の復習。
- ・6回目 ショーソンについての説明及び歌唱。
- ・7回目 4回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 7回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 今まで取り上げた曲の歌唱。
- ・12回目 発表会で歌う曲を選択し、歌唱。
- ・13回目 12回目の復習とディスカッション。
- ・14回目 発表会に向けての準備及び発表会で歌う曲を全部歌唱。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしておくこと。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS717N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)B I		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

日本歌曲の歌唱法を、歴史的背景、文化、音声学などから検証し、いかにして自然で美しい日本語を歌唱表現できるかを研究する。詩の朗読や歌唱の実践を通して、より深い解釈と歌唱技術の向上を目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 日本歌曲その歴史と変遷
2. 日本語の特質、日本伝統の発声法について
3. 音声学から見た日本語
4. 詩の朗読実践。西洋の発声法との接点を考察する
5. 創成期作曲家 滝廉太郎歌曲作品の歌唱について
6. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(1)詩人 北原白秋との出会い
7. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(2)詩人 野口雨情との出会い
8. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(3)詩人 三木露風、大木惇夫
9. 創成期作曲家 山田耕筰歌曲作品の歌唱について(4)民謡との融合と試み
10. 継承期作曲家 橋本國彦歌曲作品の歌唱について
11. 継承期作曲家 信時 潔歌曲作品の歌唱について
12. 継承期作曲家 平井康三郎歌曲作品の歌唱について
13. 継承期作曲家 高田三郎、成田為三ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各回、各自に提示された曲目について、演奏及び詩の朗読を実践して行く形式をとるので、詩人、作曲家について、また詩の解釈も含め事前によく予習をしてきてください。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組む姿勢、演奏会などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆



ナンバリング	MVS718N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)B I		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-214	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ドイツ芸術歌曲とオラトリオ作品の特徴を学び、演習を通して研究する。ドイツ語作品歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に気づき、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス、受講生による試聴会(任意のドイツ語歌曲1曲を歌うこと。)  
 第2回～第4回 Haydn, Mozart, Beethoven の歌曲の研究と演習  
 第5回～第8回 Schubert の歌曲の研究と演習  
 第9回 オラトリオ作品の紹介  
 第10回～第12回 オラトリオ作品の研究と演習  
 第13回～第14回 Mendelssohn の歌曲の研究と演習  
 第15回 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS719N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)B I		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-217	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。

- 1回目 声聴き会、オリエンテーション
- 2回目 授業で取り上げるペートン版についての説明をし、個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 3回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目選択し決定する。
- 4回目 発音練習後、各自選択した曲を取り上げ、実際に歌唱する。適宜発音に関してチェックする。
- 5回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にA母音を正しく発音できるようにする。(1)
- 6回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(2)
- 7回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(3)
- 8回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(4)
- 9回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(5)
- 10回目 授業に取り上げるペートン版以外の曲目を含む個々に合わせた曲目を再度選択し決定する。
- 11回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にI母音を正しく発音できるようにする。(6)
- 12回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にU母音を正しく発音できるようにする。(7)
- 13回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にE母音を正しく発音できるようにする。(8)
- 14回目 各自選択した曲を取り上げ歌唱させる。各曲についての詩の意味と表現法を研究する。  
特にO母音を正しく発音できるようにする。(9)
- 15回目 前期で取り上げたすべての曲を演習する。夏休みの課題を決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS720N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)B I		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【前期】

- ・1回目 声聴き会、オリエンテーション
- ・2回目 母音についての説明。一人ずつ発音する。
- ・3回目 リエゾンについての説明。各自曲を取り上げ、発音した後、実際に歌唱する。
- ・4回目 3回目の復習。
- ・5回目 名曲についての詩の解釈と歌唱。
- ・6回目 名曲についての詩の和声についての説明と歌唱。
- ・7回目 フォーレについての説明と歌唱。
- ・8回目 ドビュッシーについての説明と歌唱。
- ・9回目 フランスの文化についての説明と歌唱。
- ・10回目 新たな曲を取り歌唱する。
- ・11回目 10回目の復習。
- ・12回目 各自歌唱した後でディスカッションを行う。
- ・13回目 各自複数曲を歌唱する。
- ・14回目 全曲歌唱及び前期授業を受けての感想。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしておくこと。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS721N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(日本語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	小泉 恵子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

前期に引き続き、展開期作曲家から現代までの多くの作曲家歌曲作品の歌唱実践と詩の朗読、解釈を通して、日本歌曲への理解をより深めることを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 現代詩における日本語の自然な発語発声と歌唱法
2. 「あいうえお」の母音の音色、子音についての考察
3. 展開期作曲家 中田喜直歌曲作品の歌唱について
4. 展開期作曲家 大中 恩歌曲作品の歌唱について
5. 展開期作曲家 清水修、柴田南雄歌曲作品の歌唱について
6. 展開期作曲家 石桁真礼生、早坂文雄歌曲作品の歌唱について
7. 展開期作曲家 諸井三郎、諸井 誠歌曲作品の歌唱について
8. 展開期作曲家 團 伊玖磨歌曲作品の歌唱について
9. 展開期作曲家 小林秀雄、畑中良輔歌曲作品の歌唱について
10. 展開期作曲家 別宮貞雄歌曲作品の歌唱について
11. 展開期作曲家 三善 晃歌曲作品の歌唱について
12. 展開期作曲家 木下牧子歌曲作品の歌唱について
13. 展開期作曲家 猪本 隆ほかの歌曲作品の歌唱について
14. 演奏発表会
15. 後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

前期同様、各自に提示された曲目について、演奏と詩の解釈など、よく準備しておいてください。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組む姿勢、演奏発表などからの総合的な評価。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MVS722N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(独語)B II		
科目詳細			
担当教員	加納 悦子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-214	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ロマン派以降のドイツ歌曲の特徴を学び、演習を通して研究する。前期の基礎に引き続きドイツ語歌唱に必要なドイツ語の正しい発音を身につける。歌詞と音楽の関連性に更に深い解釈をして、表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

第1回～第3回 R.Schumannの歌曲の研究と演習  
 第4回～第5回 Brahmsの歌曲の研究と演習  
 第6回～第8回 オラトリオ作品の研究と演習  
 第9回～第11回 H.Wolfの歌曲の研究と演習  
 第12回 Mahlerの歌曲の研究と演習  
 第13回～第14回 20世紀歌曲の研究と演習  
 第15回 まとめと発表

◆準備学習の内容◆

演習する曲の事前練習は各自で行うこと

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの態度と演習における達成度

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

ドイツ語初心者でも受講は可能だが、楽曲分析などは積極的に自習すること

ナンバリング	MVS723N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(伊語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	下原 千恵子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-217	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

正しいイタリア語の発音、ディクシオンを身につけてベルカントの的確な発声に繋げる。そしてそのベルカントを以って様々なイタリア歌曲(オラトリオも含む)にアプローチする。

#### ◆授業内容・計画◆

イタリア歌曲については、主に古典、ロマン、近代、と大まかに分けて個々に合った作品を選び正しいイタリア語の発音と表現を身に付ける事を主な目標として演習する。

オラトリオに関しては、イタリア語で書かれた作品、及び、イタリアの作曲家によって書かれた作品を演習する。イタリア語で演奏する上で大切な7つの母音を正確に発音できるようになる。

- 1回目 前期の復習。ディスカッション。
- 2回目 オラトリオを含む新たな曲を取り入れるよう、ディスカッションしながら決めて行く。
- 3回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。
- 4回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 5回目 徹底的に選択した曲の発音、言葉の持つ意味とニュアンスの表現をチェックする。
- 6回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にA母音が正しく発音されているかチェックする。(1)
- 7回目 授業最後に行われる発表会に対処すべく、ディスカッションしながら選曲準備をする。
- 8回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にI母音が正しく発音されているかチェックする。(2)
- 9回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(3)
- 10回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にU母音が正しく発音されているかチェックする。(4)
- 11回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(5)
- 12回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にE母音が正しく発音されているかチェックする。(6)
- 13回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にO母音が正しく発音されているかチェックする。(7)
- 14回目 個々が選択した曲を歌唱し、歌詞の意味を含む解析、表現法を研究する。  
特にイタリア語特有の7つの母音が正しく発音されているかチェックする。(8)
- 15回目 授業内発表会

#### ◆準備学習の内容◆

あらかじめ与えられた曲目の譜読み、歌詞の内容等は調べておく事。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

こちらで用意する。

#### ◆参考図書◆

原曲に基づく新イタリア歌曲集(ペートン版)

#### ◆留意事項◆

インターナショナルに通用する正しい発音を学びましょう。

ナンバリング	MVS724N		
科目名	歌曲・オラトリオ演習(仏語)BⅡ		
科目詳細			
担当教員	秋山 理恵		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

仏語における詩と音楽の一体化を目指し、また美しい発音と発声の結びつきを研究し、演奏することを目的とする。

#### ◆授業内容・計画◆

前期・後期を通じて、仏語の作曲家・詩人の作品を適宜選択し、演習する。その際詩の解釈またその点に留意しての楽曲分析を行い、言葉の扱い方を習得し、それを生かした演奏表現の可能性を探り実践する。作品は古典から近代歌曲までとする。また、オラトリオの意義と背景を学び(特にキリスト教の精神など)歌曲と同様に授業目標に準じて演習する。最後の授業では発表会を開催し、どのように成果が上がったかディスカッションをする。

#### 【後期】

- ・1回目 前期の復習及び課題曲についての質疑応答。その後、歌唱する。
- ・2回目 1回目の復習。
- ・3回目 2回目の復習。キリスト教についての簡単な説明。オラトリオの曲も取り上げる。
- ・4回目 歌曲とオラトリオから選曲したものを各自歌唱する。
- ・5回目 グノーについての説明と4回目の復習。
- ・6回目 ショーソンについての説明及び歌唱。
- ・7回目 4回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・8回目 7回目の復習。
- ・9回目 7回目で取り上げた曲以外の作品の歌唱。
- ・10回目 9回目の復習。
- ・11回目 今まで取り上げた曲の歌唱。
- ・12回目 発表会で歌う曲を選択し、歌唱。
- ・13回目 12回目の復習とディスカッション。
- ・14回目 発表会に向けての準備及び発表会で歌う曲を全部歌唱。

#### ◆準備学習の内容◆

- ・譜読みは必ずしておくこと。
- ・必ず発音記号を調べる。
- ・作曲家や詩人の背景についても調べる。
- ・取り上げた曲について必ず日本語訳をしておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキスト等は授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

フランス語に不慣れでも履修可能。

ナンバリング	MVS725N		
科目名	舞台発音発声法 I		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	O1
講義室	SPC-B	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テキストを持つ音楽作品を音楽家、もしくは舞台人として扱う際、必要となる基礎知識を学びつつ、実践する。また、それらがどのような手段となり得るのかについて思考する。

#### ◆授業内容・計画◆

主にイタリア語の歴史的文法と音声学・音韻論の観点から考察する(言語としてのイタリア語、イタリア語の韻文、芸術的な言語としてのイタリア語など)。異なる機能を持った言語の特徴について学ぶ。基礎知識が共有できるようになった後に、言葉と音楽の関係を考察する。理論を把握するのと同時進行で、受講者の関心のある領域から課題を持ち寄り、実践を通して舞台発音発声の基礎固めをおこなう。

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:言語としての発音
- 第3回:芸術作品の朗読
- 第4回:歌唱のための発音
- 第5回:課題の考察と実践(1):主にダ・ポンテのオペラ台本
- 第6回:課題の考察と実践(2)
- 第7回:課題の考察と実践(3)
- 第8回:課題の考察と実践(4)
- 第9回:課題の考察と実践(5)
- 第10回:課題の考察と実践(6)
- 第11回:課題の考察と実践(7)
- 第12回:課題の考察と実践(8)
- 第13回:課題の考察と実践(9)
- 第14回:課題の考察と実践(10)
- 第15回:前期のまとめ

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が求められる。

#### ◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はつき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やドイツ語の力をさらにアップさせて欲しい。



ナンバリング	MVS726N		
科目名	舞台発音発声法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	森田 学		
学年	1年	クラス	O1
講義室	SPC-B	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

「舞台発音発声法Ⅰ」に引き続き、テキストを持つ音楽作品を、音楽家、もしくは舞台人として扱う際に必要となる基礎知識を学び、実践する。また、それらがどのような手段となり得るのかについて考える。

#### ◆授業内容・計画◆

主にイタリア語の歴史的文法と音声学・音韻論の観点から考察する(言語としてのイタリア語、イタリア語の韻文、芸術的な言語としてのイタリア語など)。異なる機能を持った言語の特徴について学ぶ。基礎知識が共有できるようになった後に、言葉と音楽の関係を考察する。理論を把握すると同時進行で、受講者の関心のある領域から課題を持ち寄り、実践を通して舞台発音発声の基礎固めをおこなう。

##### 【舞台発音発声法Ⅱ(後期)】

第1回: 課題の考察と実践(1): 主に『魔笛』および『ウインザーの陽気な女房たち』

第2回: 課題の考察と実践(2)

第3回: 課題の考察と実践(3)

第4回: 課題の考察と実践(4)

第5回: 課題の考察と実践(5)

第6回: 課題の考察と実践(6): 主に19世紀イタリア・オペラ台本

第7回: 課題の考察と実践(7)

第8回: 課題の考察と実践(8)

第9回: 課題の考察と実践(9)

第10回: 課題の考察と実践(10)

第11回: 課題の考察と実践(11)

第12回: 課題の考察と実践(12)

第13回: 課題の考察と実践(13)

第14回: 後期のまとめ

第15回: 総論

※受講生の理解度や準備の状態によっては、内容や進度を変更することもある。

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う作品のテキストについての事前学習が求められる。

#### ◆成績評価の方法◆

出席率および授業への積極的な参加による評価50%、研究発表30%、実技習熟度20%をベースとして、総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適宜指示する。

#### ◆留意事項◆

イタリア語やドイツ語の基礎知識があるものとして授業を進める。ことばへの興味や探究心が強いほど語学の力はつき、授業の内容理解も深まるので、声楽作品の魅力(技術に支えられた声とその音声がことば表現と有機的に結び付いている)を最大限に発揮させることができるよう、本講義を機にイタリア語やドイツ語の力をさらにアップさせて欲しい。

ナンバリング	MVS727N		
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニク) I		
科目詳細			
担当教員	堀田 麻子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

クラシックバレエの技法を用い、声楽家に必要な身体作りをしていく。左右対称の動きをすることで、身体のバランスを整え、立ち姿を美しく保つ訓練をしていく。

#### ◆授業内容・計画◆

クラシックバレエの基本的な動作を行うことで、身体作りを行う。

左右対称の動きによりバランス感覚を養い、舞台に立つ姿勢作りをする。

また、身体の末端まで意識することにより、足の裏で床を感じ、手先を美しくしていく。

まずフロアでストレッチをし身体の柔軟性を高め、ケガの予防をし、体幹を鍛えることで身体の軸を意識する。

バーレッスンでは基本のポジションを学びながら、少しずつ足を上げることでバランスを身に付け、センターではバーから離れバランスを整えながら全身で動く訓練をする。

- 第1回 プリエ
- 第2回 タンジュ
- 第3回 デガジェ
- 第4回 ロンデジャンプ・アテール
- 第5回 フォンジュ
- 第6回 フラッペ
- 第7回 アダージオ
- 第8回 グランバットマン
- 第9回 ポールドブラ
- 第10回 センタータンジュ
- 第11回 ターン
- 第12回 小さいジャンプ
- 第13回 大きいジャンプ
- 第14回 ワルツなどオペラに必要とされるステップ
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

ストレッチや普段の姿勢を意識する

#### ◆成績評価の方法◆

毎回のレッスンを通して、身体の変化や理解度で評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

持ち物 バレエシューズ

動きやすい服装(足を開いたり上げたりする為、スカートは不可)

ナンバリング	MVS728N		
科目名	舞台表現技術演習(ボディーテクニク)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	堀田 麻子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

舞台表現において演技者に必要な身体と身体に対する意識を、完成されたクラシックバレエの肉体訓練法をもとに習得していく

#### ◆授業内容・計画◆

後期は前期とほぼ同様の内容で行う。ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンをを行い、2曲のダンスのステップを覚え、オペラに必要なダンスの最低限な技術を身に付け、動きではなく、踊ることを知ってもらいたい。

- 第1回 バーレッスン、センターレッスン プリエ、タンジュの確認、復習
- 第2回 バーレッスン、センターレッスン デガジェ、ロンデジャンプの確認、復習
- 第3回 バーレッスン、センターレッスン フォンジュ、フラッペの確認、復習
- 第4回 バーレッスン、センターレッスン アダジオ、グランバットマンの確認、復習
- 第5回 バーレッスン、センターレッスン ストレッチの確認、復習
- 第6回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるアダジオ
- 第7回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるレベランセ
- 第8回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるタンジュ、パッセ
- 第9回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるシェネなどの回転系
- 第10回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるアッサンブレ
- 第11回 バーレッスン、センターレッスン センターレッスンにおけるグランワルツ
- 第12回 バーレッスン、民族舞踊(ワルツ)
- 第13回 バーレッスン、民族舞踊(ポルカ、マズルカ)
- 第14回 バーレッスン、センターレッスン DVD鑑賞「白鳥の湖」
- 第15回 バーレッスン、センターレッスン DVD鑑賞

#### ◆準備学習の内容◆

ストレッチや姿勢など、普段から意識することで身体に感覚として身に付けていく。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み態度と上達度で評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

持ち物 バレエシューズ  
動きやすい服装(足を開いたり上げたりするため、スカートは不可)

ナンバリング	MVS729N		
科目名	舞台表現技術演習(身体表現) I		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

<オペラにおいて必要な、歌手の表現方法(演技)を学ぶ> ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。 ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

- \* 1年次での履修が望ましい。
- \* 続けて後期「舞台表現技術演習(身体表現) II」の履修に進むことが望ましい。

1. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.1
2. 動けるからだを造る Vol.1
3. 舞台表現の基本的な考え方を知る Vol.2
4. 動けるからだを造る Vol.2
5. シアターゲーム Vol.1
6. シアターゲーム Vol.2
7. シアターゲーム Vol.3
8. 感じる心を造る Vol.1
9. 感じる心を造る Vol.2
10. エチュード Vol.1
11. エチュード Vol.2
12. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.1
13. 感じた事を表現する(伝える)メカニズムを作る Vol.2
14. 復習
15. まとめ etc

\* それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

#### ◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。

#### ◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。  
前期終了時に試験を実施する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。  
遅刻厳禁・100%の出席が望ましい。

ナンバリング	MVS730N		
科目名	舞台表現技術演習(身体表現)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年	クラス	O1
講義室	SPC-C	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

<オペラにおいて必要な、歌手の表現方法(演技)を学ぶ> ・歌唱テクニック以外の側面からオペラを捉え、豊かに表現する為の身体を造りテクニックを修得する。 ・感情表出および表現、感情に直結する動作の方法を学び修得する。

#### ◆授業内容・計画◆

##### 【授業内容】

- \* 前期「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」を更に実践的に追求する授業である。
- \* 1年次での「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」→「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅱ」連続履修が最も望ましい。

1. 「舞台表現技術演習(身体表現)Ⅰ」からのブリッジ
2. シアターゲーム・エチュード
3. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.1
4. 楽譜から演技のヒントを得る方法を知る Vol.2
5. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.1
6. 歌唱と演技を共存させる、両者の繋がりを知る Vol.2
7. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.1
8. 主観的表現を客観的に観察する力をつける Vol.2
9. エアオペラで既習事項を実践する Vol.1
10. エアオペラで既習事項を実践する Vol.2
11. エアオペラで既習事項を実践する Vol.3
12. エアオペラで既習事項を実践する Vol.4
13. エアオペラで既習事項を実践する Vol.5
14. エアオペラで既習事項を実践する Vol.6
15. 課題曲実演による試演会＝テスト

\* それぞれ修得状況に応じて復習を織り交ぜつつ進めていく。

#### ◆準備学習の内容◆

前回授業の復習、トレーニングを自宅学習のこと。  
エアオペラの課題スコアを事前学習のこと。

#### ◆成績評価の方法◆

平常授業における取り組み状態を重視。  
授業への取り組み方、課題の修得度合い、後期終了時の試演会の成果を加味し評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

筆記用具必携、トレーニングウェア(Tシャツなども可)、トレーニングシューズ(ソールの薄いもの)着用のこと。  
遅刻厳禁。100%の出席が望ましい。

ナンバリング	MSP701N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習 I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現によるすぐれた演奏を実現することの出来る力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 通年の予定を立て、レパートリー拡大のための学修の予定も立てる。
- 第2回 脱力について考え、そのための意識を確立する。(前半)
- 第3回 脱力について考え、そのための意識を確立する。(後半)
- 第4回 古典派以前の作品の様式を考察する。(前半)
- 第5回 古典派以前の作品の様式を考察する。(後半)
- 第6回 古典派の作品を学び、スタイル、テクニクについて考える。(前半)
- 第7回 古典派の作品を学び、スタイル、テクニクについて考える。(後半)
- 第8回 初期ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(前半)
- 第9回 初期ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(後半)
- 第10回 ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(前半)
- 第11回 ロマン派の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(後半)
- 第12回 ロマン派以降の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(前半)
- 第13回 ロマン派以降の作品について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。(後半)
- 第14回 現代音楽について、スタイル、テクニク、ペダルを考える。
- 第15回 前期に学習したことのまとめと、後期への心構えと宿題

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をするように。  
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査、などを自分に課すことは、当然のことである。

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。教員の指示によって用意してもらうこともある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的な学修を心がけるように。

ナンバリング	MSP702N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現できる力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ペダルの使用について学修する。(前半)
- 第2回 ペダルの使用について学修する。(後半)
- 第3回 身体の使い方について(前半)
- 第4回 身体の使い方について(後半)
- 第5回 中間発表、修了演奏のプログラムについて考える
- 第6回 作品の分析について学修する(前半)
- 第7回 作品の分析について学修する(後半)
- 第8回 暗譜の方法について学修する(前半)
- 第9回 暗譜の方法について学修する(後半)
- 第10回 レパートリーの拡大の方法について学修する(前半)
- 第11回 レパートリーの拡大の方法について学修する(後半)
- 第12回 プログラミングの方法について学修する(前半)
- 第13回 プログラミングの方法について学修する(後半)
- 第14回 第1年目の学習について、反省と、次年度への計画

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をするように。  
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自分に課すことは当然である。

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態。準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。教員の指示によって準備してもらうこともある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的に学修を心がけるように。

ナンバリング	MSP703N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現することの出来る力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 今年度の計画を立て、レパートリーの拡大の計画を確定する。
- 第2回 脱力について、よりふかく考える。(前半)
- 第3回 脱力について、よりふかく考える。(後半)
- 第4回 古典派以前の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第5回 古典派以前の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第6回 古典派の作品について、より深く学習する。(前半)
- 第7回 古典派の作品について、より深く学習する。(後半)
- 第8回 初期ロマン派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第9回 初期ロマン派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第10回 ロマン派の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第11回 ロマン派の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第12回 ロマン派以降の作品について、より深く学修する。(前半)
- 第13回 ロマン派以降の作品について、より深く学修する。(後半)
- 第14回 現代音楽について
- 第15回 前期のまとめと整理。

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生にふさわしい準備をするように。  
楽譜の精密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自らに課すのは当然である。

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への準備の状態、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。担当の教員から提示があることもある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的な学修を心がける。



ナンバリング	MSP704N		
科目名	器楽(鍵盤楽器)演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

より精度の高い技巧と、作品への深い理解を目指すことにより、借り物でない「自身の」表現による優れた演奏を実現できる力を培う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 ペダルの使用について更に学修する。(前半)
- 第2回 ペダルの使用について更に学修する。(後半)
- 第3回 身体の使い方について更に学修する。(前半)
- 第4回 身体の使い方について更に学修する。(後半)
- 第5回 論文について、実技教員との打ち合わせと方向付け。
- 第6回 作品の分析について更に学修する。(前半)
- 第7回 作品の分析について更に学修する。(後半)
- 第8回 暗譜の方法について更に学修する。(前半)
- 第9回 暗譜の方法について更に学修する。(後半)
- 第10回 レパートリーの拡大のための方策について更に学修する。(前半)
- 第11回 レパートリーの拡大のための方策について更に学修する。(後半)
- 第12回 修了演奏に向かったのレッスン。
- 第13回 修了演奏に向けてあらゆる角度からの掘り下げ。
- 第14回 修了演奏に向けて妥協のない表現研究。
- 第15回 修了演奏に向けての仕上げ。

#### ◆準備学習の内容◆

大学院生に相応しい準備ができるように。  
楽譜の綿密な読み取り、作品の背景や作曲家についての調査などを自分に課すことは当然である。

#### ◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み方、準備の内容、随時出す課題についてフィードバックする等、総合的に評価して成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特にはないが、担当の教員から指示があることもある。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

常に自発的に学修することを心がけるように。

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロマン派ピアノ音楽の演奏法を学ぶ—その1

#### ◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担して演奏し、演奏法の研究を行う。随時マニユスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行い、世界的ピアニストによる演奏法の比較検討も取り入れる。課題の順番は変更することもある。

- 第1回 ガイダンス及びロマン派ピアノ音楽の概要
- 第2回 楽器学資料館見学…歴史的ピアノの試奏、作曲家と楽器
- 第3回 ショパン1
- 第4回 ショパン2
- 第5回 ショパン3
- 第6回 ショパン4
- 第7回 シューマン1
- 第8回 シューマン2
- 第9回 シューマン3
- 第10回 リスト1
- 第11回 リスト2
- 第12回 リスト3
- 第13回 ブラームス1
- 第14回 ブラームス2
- 第15回 まとめ

\* 各回の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する作品に関する下記の準備を行ってください。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関する簡単なプレゼンテーション。
2. 演奏。

\* 理論系の受講生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び参加状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F.Chopin:National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin:A New Critical Edition(Edition Peters).
- ・R.Schumann:Sämtliche Klavierwerke(Henle Verlag).
- ・F.Liszt:Neue Ausgabe Sämtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

- ・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005)
- ・Józef Michał Chomiński, and Teresa Dalila Turło,“A catalogue of the Works of Frederick Chopin”(PWM,1990).
- ・K.Hofmann und S.Keil,Robert Schumann,“Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens”(Schuberth,1982).
- ・A.Walker,“Frantz Liszt”(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-422	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家によるアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀～19世紀初頭のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を学び、身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものが散見される。基本的なスラーやスタッカート用法において、古典派の時代とその後の時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

- 1) ガイダンス
- 2) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(前半)
- 3) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(後半)
- 4) 視聴したDVDの内容のまとめと18世紀の理論書の紹介
- 5) 抑揚に関して考える
- 6) レガートとスタッカートに関する考察
- 7) ベートーヴェンのスタッカートに関して(児島新による論考を吟味する)
- 8) アーティキュレーションの書き込み実習(1)
- 9) アーティキュレーションの書き込み実習(2)
- 10) ブルクミュラー研究(1)『25の練習曲』第1～12番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を考察する。
- 11) ブルクミュラー研究(2)『25の練習曲』第13～25番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を引き続き考察する。
- 12) ソナチネアルバムの問題点(1)古典の教材として一般的な『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を考察する。
- 13) ソナチネアルバムの問題点(2)『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を引き続き考察する。
- 14) 今後の研究に役立つと思われる参考図書を紹介
- 15) 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中には扱われている問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

前期に学習した古典派に関するアーティキュレーション書法のポイントをわかりやすく整理したレポートを提出して、フィードバックする。それに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS701N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究A I		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-325	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

第15回:まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロマン派ピアノ音楽の演奏法を学ぶ—その2

#### ◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担して演奏し、演奏法の研究を行う。随時マニスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行い、世界的ピアニストによる演奏法の比較検討も取り入れる。

- 第1回 ショパン1
- 第2回 ショパン2
- 第3回 ショパン3
- 第4回 ショパン4
- 第5回 シューベルト1
- 第6回 シューベルト2
- 第7回 シューベルト3
- 第8回 シューマン1
- 第9回 シューマン2
- 第10回 シューマン3
- 第11回 シューマン4
- 第12回 ブラームス1
- 第13回 ブラームス2
- 第14回 ブラームス3
- 第15回 まとめ

\* 各回の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する作品に関する下記の準備を行ってください。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関する簡単なプレゼンテーション。
2. 演奏。

\* 理論系の受講生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び参加状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F.Chopin:National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin:A New Critical Edition(Edition Peters).
- ・F.Schubert:New Edition of the Complete Works((Bärenreiter Verlag)
- ・R.Schumann:Sämtliche Klavierwerke(Henle Verlag).
- ・F.Liszt:Neue Ausgabe Sämtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

- ・J.J.エーゲルディング『弟子から見たショパン』米谷治郎他訳(音楽之友社、2005)
- ・J.M.Chomiński, and Teresa Dalila Turfo,“A catalogue of the Works of Frederick Chopin.”(PWM,1990).
- ・O.E.Deutsch,“Franz Schubert: Thematisches Verzeichnis seiner Werke in chronologischer Folg”(Bärenreiter,1978).
- ・K.Hofmann und S.Keil,Robert Schumann,“Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens”(Schuberth,1982).
- ・A.Walker,“Frantz Liszt”(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O2
講義室	N-422	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

前期で学んだことに加え、モーツァルトの書法に関して詳細に研究することによってウィーン古典派のアーティキュレーションへの理解を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』を使用して授業を進める。

- 1)モーツァルトの響きの世界
- 2)モーツァルトのデュナーミク(前半)
- 3)モーツァルトのデュナーミク(後半)
- 4)テンポとリズムの問題(前半)
- 5)テンポとリズムの問題(後半)
- 6)モーツァルトのアーティキュレーション(前編)
- 7)モーツァルトのアーティキュレーション(中編)
- 8)モーツァルトのアーティキュレーション(後編)
- 9)モーツァルトの装飾音(前編)
- 10)モーツァルトの装飾音(中編)
- 11)モーツァルトの装飾音(後編)
- 12)カデンツァとアインガング
- 13)アインガングの創作実習
- 14)モーツァルトの出版楽譜情報
- 15)後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業の対象となる章に30分から1時間程度かけて目を通し、概略を把握しておくこと。また書籍の中に提示されている譜例以外にも類似したケースがないか探索し(モーツァルトの作品以外——たとえば現在自分が演奏している作品など——も含む)、求めに応じて提示できるよう準備しておくこと。楽譜の当該箇所のコピーを作成しておくことが望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

モーツァルトのピアノ作品より任意の1曲あるいは楽章を選択し、そこに含まれるアーティキュレーションの特徴や留意点に関するプレゼンテーションを行い、フィードバックする。これに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』(今井顕監訳、音楽之友社、2016年)他

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS702N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究AⅡ		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	1年	クラス	O3
講義室	N-325	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

(前期で習得したものを更にレベルアップする)

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第13回及び第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

- 第1回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第2回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第3回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第4回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第5回:2曲目の作品(3)演奏法
- 第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第7回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第8回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第9回:3曲目の作品(3)演奏法
- 第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ
- 第12回:ミニ・コンサートのリハーサル
- 第13回:ミニ・コンサート①
- 第14回:ミニ・コンサート②
- 第15回:まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロマン派ピアノ音楽の演奏法を学ぶ—その1

#### ◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担して演奏し、演奏法の研究を行う。随時マニスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行い、世界的ピアニストによる演奏法の比較検討も取り入れる。

- 第1回 ガイダンス及びロマン派ピアノ音楽の概要
- 第2回 楽器学資料館見学…歴史的ピアノの試奏、作曲家と楽器
- 第3回 ショパン1
- 第4回 ショパン2
- 第5回 ショパン3
- 第6回 ショパン4
- 第7回 シューマン1
- 第8回 シューマン2
- 第9回 シューマン3
- 第10回 リスト1
- 第11回 リスト2
- 第12回 リスト3
- 第13回 ブラームス1
- 第14回 ブラームス2
- 第15回 まとめ

\* 各回の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する作品に関する下記の準備を行ってください。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関する簡単なプレゼンテーション。
2. 演奏。

\* 理論系の受講生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び参加状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F.Chopin:National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin:A New Critical Edition(Edition Peters).
- ・R.Schumann:Sämtliche Klavierwerke(Henle Verlag).
- ・F.Liszt:Neue Ausgabe Sämtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

- ・J.J.エーゲルディング『弟子から見たショパン(増補・改訂版)』米谷治郎、中島弘二訳(音楽之友社、2005)
- ・Józef Michał Chomiński, and Teresa Dalila Turło, "A catalogue of the Works of Frederick Chopin"(PWM,1990).
- ・K.Hofmann und S.Keil,Robert Schumann,"Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens"(Schuberth,1982).
- ・A.Walker,"Frantz Liszt"(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。



ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	2年	クラス	O2
講義室	N-422	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

さまざまな時代とジャンルの作品を解釈する上で基本となる古典派の記譜法を正しく理解し、それを自身の演奏に反映できるようにする。作曲家によるアーティキュレーションが記入されていない作品(主にバロックおよび古典派の初期)も自分で適切に処理できるよう、18世紀～19世紀初頭のヨーロッパ(ドイツ語圏)で一般的だった抑揚の基本を学び、身につける。

#### ◆授業内容・計画◆

ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなど古典派の原典版に記載されているアーティキュレーションや装飾音などの書法には、それらをどのように捉えるべきか困惑するものが散見される。基本的なスラーやスタッカート用法において、古典派の時代とその後の時代に差があることも、見過ごされていることが少なくない。それぞれの時代の記譜法の慣習を知った上で作曲家の真意を探り、それを自分の演奏に反映させるための知識を蓄積する。

- 1) ガイダンス
- 2) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(前半)
- 3) マルコム・ビルソンのDVD《Knowing the Score》の視聴(後半)
- 4) 視聴したDVDの内容のまとめと18世紀の理論書の紹介
- 5) 抑揚に関して考える
- 6) レガートとスタッカートに関する考察
- 7) ベートーヴェンのスタッカートに関して(児島新による論考を吟味する)
- 8) アーティキュレーションの書き込み実習(1)
- 9) アーティキュレーションの書き込み実習(2)
- 10) ブルクミュラー研究(1)『25の練習曲』第1～12番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を考察する。
- 11) ブルクミュラー研究(2)『25の練習曲』第13～25番の2種類の編集を比較し、アーティキュレーションの視点からの問題点を引き続き考察する。
- 12) ソナチネアルバムの問題点(1)古典の教材として一般的な『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を考察する。
- 13) ソナチネアルバムの問題点(2)『ソナチネアルバム』におけるアーティキュレーションの問題点を引き続き考察する。
- 14) 今後の研究に役立つと思われる参考図書を紹介
- 15) 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中には扱われている問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

前期に学習した古典派に関するアーティキュレーション書法のポイントをわかりやすく整理したレポートを提出して、フィードバックする。それに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS703N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究B I		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	2年	クラス	O3
講義室	N-325	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

第1回:授業内容、授業の進め方等の説明。第2回の授業で取り上げる作品への導入

第2回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第3回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第4回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第5回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第6回:2曲目の作品(3)演奏法

第7回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第8回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏

第9回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法

第10回:3曲目の作品(3)演奏法

第11回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う

第12回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ

第13回:ミニ・コンサートのリハーサル

第14回:ミニ・コンサート

第15回:まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究BⅡ		
科目詳細			
担当教員	加藤 一郎		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ロマン派ピアノ音楽の演奏法を学ぶ—その1

#### ◆授業内容・計画◆

下記の作曲家の作品を受講生が分担して演奏し、演奏法の研究を行う。随時マニスクリプトや初版楽譜、解釈版等の比較検討を行い、世界的ピアニストによる演奏法の比較検討も取り入れる。

- 第1回 ショパン1
- 第2回 ショパン2
- 第3回 ショパン3
- 第4回 ショパン4
- 第5回 シューベルト1
- 第6回 シューベルト2
- 第7回 シューベルト3
- 第8回 シューマン1
- 第9回 シューマン2
- 第10回 シューマン3
- 第11回 シューマン4
- 第12回 ブラームス1
- 第13回 ブラームス2
- 第14回 ブラームス3
- 第15回 まとめ

\* 各回の課題は学生と相談しながら決めます。

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する作品に関する下記の準備を行ってください。

1. 作品の成立背景や楽曲構成等に関する簡単なプレゼンテーション。
2. 演奏。

\* 理論系の受講生は主に上記1の方面から授業に参加することで、互いに刺激を与え合う場となることを期待します。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発表及び参加状況により、総合的に評価します。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は特にありませんが、参考になる楽譜をあげておきます。

- ・F.Chopin:National Edition of the Works of Fryderyk Chopin.
- ・Complete Chopin:A New Critical Edition(Edition Peters).
- ・F.Schubert:New Edition of the Complete Works((Bärenreiter Verlag)
- ・R.Schumann:Sämtliche Klavierwerke(Henle Verlag).
- ・F.Liszt:Neue Ausgabe Sämtlicher Werke(Editio Musica Budapest).

#### ◆参考図書◆

- ・J.J.エーゲルディンゲル『弟子から見たショパン』米谷治郎他訳(音楽之友社、2005)
- ・J.M.Chomiński, and Teresa Dalila Turfo,“A catalogue of the Works of Frederick Chopin.”(PWM,1990).
- ・O.E.Deutsch,“Franz Schubert: Thematisches Verzeichnis seiner Werke in chronologischer Folg”(Bärenreiter,1978).
- ・K.Hofmann und S.Keil,Robert Schumann,“Thematisches Verzeichnis sämtlicher im Druck erschienenen musikalischen Werke mit Angabe des Jahres ihres Entstehens und Erscheinens”(Schuberth,1982).
- ・A.Walker,“Frantz Liszt”(Alfred A.Knopf,1983).

#### ◆留意事項◆

この授業はロマン派ピアノ音楽の総合的な理解と、それに基づく演奏のあり方について学ぶものです。興味のある方は専攻に関わらず、奮って参加下さい。

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究BⅡ		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	2年	クラス	O2
講義室	N-422	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

前期で学んだことに加え、モーツァルトの書法に関して詳細に研究することによってウィーン古典派のアーティキュレーションへの理解を深める。

#### ◆授業内容・計画◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』を使用して授業を進める。

- 1)モーツァルトの響きの世界
- 2)モーツァルトのデュナーミク(前半)
- 3)モーツァルトのデュナーミク(後半)
- 4)テンポとリズムの問題(前半)
- 5)テンポとリズムの問題(後半)
- 6)モーツァルトのアーティキュレーション(前編)
- 7)モーツァルトのアーティキュレーション(中編)
- 8)モーツァルトのアーティキュレーション(後編)
- 9)モーツァルトの装飾音(前編)
- 10)モーツァルトの装飾音(中編)
- 11)モーツァルトの装飾音(後編)
- 12)カデンツァとアインガング
- 13)アインガングの創作実習
- 14)モーツァルトの出版楽譜情報
- 15)後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業の対象となる章に30分から1時間程度かけて目を通し、概略を把握しておくこと。また書籍の中に提示されている譜例以外にも類似したケースがないか探索し(モーツァルトの作品以外——たとえば現在自分が演奏している作品など——も含む)、求めに応じて提示できるよう準備しておくこと。楽譜の当該箇所のコピーを作成しておくことが望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

モーツァルトのピアノ作品より任意の1曲あるいは楽章を選択し、そこに含まれるアーティキュレーションの特徴や留意点に関するプレゼンテーションを行い、フィードバックする。これに加え、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

エファ&パウル・バドゥーラ＝スコダ『新版モーツァルト演奏法と解釈』(今井顕監訳、音楽之友社、2016年)他

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MSS704N		
科目名	鍵盤楽器ソロ研究BⅡ		
科目詳細			
担当教員	渋谷 淑子		
学年	2年	クラス	O3
講義室	N-325	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代音楽に用いられる特殊な記譜法、演奏テクニックを学び、現代音楽ピアノ作品を自分のレパートリーの一つに加える様にする。

#### ◆授業内容・計画◆

(前期に習得したものをレベルアップする)

邦人・海外の作曲家の作品をバランス良く採り上げ、現代音楽作品ピアノ演奏法の研究を行う。又、現代音楽に対する理解をより一層深める為に、CDを聴き、ディスカッションを行う。尚、授業内で採り上げた作品を、第13回及び第14回のミニ・コンサートに於いて演奏する。

- 第1回:1曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第2回:1曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第3回:2曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第4回:2曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第5回:2曲目の作品(3)演奏法
- 第6回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第7回:3曲目の作品(1)読譜、作品分析、演奏
- 第8回:3曲目の作品(2)作品分析、演奏法
- 第9回:3曲目の作品(3)演奏法
- 第10回:様々な現代音楽作品のCDを聴き、ディスカッションを行う
- 第11回:ミニ・コンサートへ向けての演奏の総仕上げ
- 第12回:ミニ・コンサートのリハーサル
- 第13回:ミニ・コンサート①
- 第14回:ミニ・コンサート②
- 第15回:まとめ

・受講生の能力、意欲や興味に応じ、採り上げる作品はその都度提示するので、教員の指示に従う。

#### ◆準備学習の内容◆

明確なイメージを持ち、演奏する事が出来る様に、実際に音を出して予習をする事。(目安一週間に120分～150分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び演奏の成果により評価し、授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS705N		
科目名	伴奏研究 I		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に置き、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。  
 第1回ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(花岡)  
 第2回 同上  
 第3回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)  
 第4回 同上  
 第5回 同上  
 第6回フランス系作品、英語作品、ロシア作品(花岡)  
 第7回 同上  
 第8回イタリアの古典、ロマン派歌曲(河原)  
 第9回 同上  
 第10回 同上  
 第11回 同上  
 第12回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)  
 第13回 同上  
 第14回 同上  
 第15回 授業のまとめ(花岡)

◆準備学習の内容◆

伴奏の読み取りはもちろんのこと、歌詞についても、自分なりに解読し、解釈しておく。朗読をピアニストにしてもらうこともある。

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、等について評価し、成績を出す。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。楽譜については各教員の指示に従うように。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

大学院での学習やその遂行状況は、将来の自分の仕事に直結するものである。そのことを常に忘れないように。

ナンバリング	MSS705N		
科目名	伴奏研究 I		
科目詳細	器楽系		
担当教員	三木 香代		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。  
共演者とのコミュニケーションの方法を理解することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。  
レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学ぶ。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスンも可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整とは
- 14) 研究発表
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。  
事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと演奏に対するコメントについてのフィードバックなど、総合的に判断して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。  
曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS706N		
科目名	伴奏研究Ⅱ		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。  
 第1回ドイツ後期ロマン派歌曲を巡って(花岡)  
 第2回 同上  
 第3回ドイツ後期ロマン派歌曲を巡って(河原)  
 第4回 同上  
 第5回ロシア系作品(花岡)  
 第6回 同上  
 第7回イタリアの近代歌曲を巡って(河原)  
 第8回 同上  
 第9回 同上  
 第10回 同上  
 第11回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)  
 第12回 同上  
 第13回 同上  
 第14回 授業のまとめ①(河原)  
 第15回 授業のまとめ②(花岡)

#### ◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと、歌詞についても解説、解釈してくること。時にはピアニストに朗読してもらうこともある。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況など、併せて評価し、成績をつける

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、担当教員より指示のあることもある

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

この授業の内容が、即戦力となりえるので、緊張感を持って学習するように。それぞれの分野のエキスパートの先生方に、積極的に関わっていくこと。



ナンバリング	MSS706N		
科目名	伴奏研究Ⅱ		
科目詳細	器楽系		
担当教員	三木 香代		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

アンサンブルに求められる、より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使して演奏することができる。共演者とのコミュニケーションを図り、自発的な音楽表現ができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学ぶ。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスンも可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整とは
- 14) 研究発表
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと演奏に対するコメントについてのフィードバックなど、総合的に判断して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。  
曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS707N		
科目名	伴奏研究Ⅲ		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。  
 第1回ドイツ古典派、初期ロマン派歌曲を巡って(花岡)  
 第2回 同上  
 第3回ドイツ初期ロマン派、ロマン派歌曲を巡って(河原)  
 第4回 同上  
 第5回 同上  
 第6回フランス系作品と、英語作品(花岡)  
 第7回 同上  
 第8回イタリアの古典派、ロマン派歌曲を巡って(河原)  
 第9回 同上  
 第10回 同上  
 第11回 同上  
 第12回日本の歌曲～瀧から清水脩まで(花岡)  
 第13回 同上  
 第14回 同上  
 第15回 授業のまとめ(花岡)

#### ◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと、歌詞についても解説、解釈してくる。時によってはピアニストに朗読してもらうこともある。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況などを評価し、成績をつける。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、担当教員から指示のある場合もある。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

この授業の内容が、即戦力となりえるので、緊張感を持って学習するように。それぞれの分野のエキスパートの先生方に、積極的に関わっていくこと。

ナンバリング	MSS707N		
科目名	伴奏研究Ⅲ		
科目詳細	器楽系		
担当教員	三木 香代		
学年	2年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使し、共演者と一体となって自発的な音楽表現ができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学び、特に中間発表に向けて演奏を練り上げていく。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスンも可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整とは
- 14) 研究発表
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。

事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと演奏に対するコメントについてのフィードバックなど、総合的に判断して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。

曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS708N		
科目名	伴奏研究Ⅳ		
科目詳細	声楽系		
担当教員	花岡 千春		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現場で役立つことを念頭に、出来るだけ多くの作品に触れる。それぞれの作品のスタイルを、明確に表出できる力と見識を養う。

#### ◆授業内容・計画◆

2名の教員によるオムニバス形式の演習、講義を行う。  
 第1回ドイツロマン派、近代歌曲を巡って(花岡)  
 第2回 同上  
 第3回ドイツロマン派、近代歌曲を巡って(河原)  
 第4回 同上  
 第5回ロシアの歌曲作品(花岡)  
 第6回 同上  
 第7回イタリアの近代、現代歌曲を巡って(河原)  
 第8回 同上  
 第9回 同上  
 第10回 同上  
 第11回日本の歌曲～高田三郎から木下牧子まで(花岡)  
 第12回 同上  
 第13回 同上  
 第14回 授業のまとめ①(河原)  
 第15回 授業のまとめ②(花岡)

#### ◆準備学習の内容◆

伴奏パートの読み取りはもちろんのこと、歌詞についても解説、解釈してくること。時にはピアノに朗読してもらうこともある。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、演習の内容、準備の状況など、を併せて評価し、成績をつける

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、担当教員より指示のある場合もある

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

この授業の内容が、即戦力となりえるので、緊張感を持って学習するように。それぞれの分野のエキスパートの先生方に、積極的に関わっていくこと。

ナンバリング	MSS708N		
科目名	伴奏研究Ⅳ		
科目詳細	器楽系		
担当教員	三木 香代		
学年	2年	クラス	O2
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

より高度なピアノ演奏技術及び豊かな表現力を駆使し、共演者と一体となって自発的な音楽表現ができる。公開演奏を想定して自らの演奏を客観的にとらえることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

器楽とのアンサンブルに求められるピアノの役割について、各楽器の特性やそれに伴う表現方法の特色をふまえながら、実践的に探求する。レッスン形式によって、実際の演奏上の留意点、陥りがちな問題点について学び、特に修了演奏に向けて演奏を練り上げていく。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の履修者の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

共演者が準備できない場合はピアノパートのみのレッスンも可。

- 1) ガイダンス
- 2) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との相違
- 3) 弦楽器とピアノの作品
- 4) 管楽器とピアノの作品
- 5) 共演、伴奏における留意事項
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 修了演奏に向けての調整について
- 14) 演奏発表
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、自分のパートだけではなく他のパートも把握しておくこと。事前に共演者とのリハーサルをしておくこと。(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと演奏に対するコメントについてのフィードバックなど、総合的に判断して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

共演者は各自で手配すること。  
曲については、自由とする。

ナンバリング	MSS709N		
科目名	室内楽演習 I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

他楽器とのアンサンブルを通じて幅広い経験を積み、より柔軟な表現力を習得する。リハーサルの展開に当たってパートナーに何をどのように提案すべきかを深く考え、それを的確に発言できる積極性を培うのが、最大の目標である。

#### ◆授業内容・計画◆

さまざまな楽器とのアンサンブル作品を準備する。教員の指導に従うだけの受動的な演奏改善を目的とするのではなく、演奏者自身が演奏上、またアンサンブル上の問題点に気づき、それらを自らの提案を通じて改善するリハーサルを構築できるよう努力する。

- 1) ガイダンス
- 2) 各楽器の特性と演奏技術的な可能性に関する発表
- 3) ヴァイオリンとピアノによるアンサンブル(1) 古典派の作品
- 4) サクソフォーンとピアノによるアンサンブル(1) ロマン派以降の作品
- 5) コントラバスとピアノによるアンサンブル(1) 古典的な作品
- 6) ユーフォニアムとピアノによるアンサンブル(1) ロマン派以降の作品
- 7) ヴァイオリンとピアノによるアンサンブル(2) 前回とは異なる楽章または作品
- 8) サクソフォーンとピアノによるアンサンブル(2) 前回とは異なる楽章または作品
- 9) コントラバスとピアノによるアンサンブル(2) 前回とは異なる楽章または作品
- 10) ユーフォニアムとピアノによるアンサンブル(2) 前回とは異なる楽章または作品
- 11) ヴァイオリンとピアノによるアンサンブル(3) コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 12) サクソフォーンとピアノによるアンサンブル(3) コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 13) コントラバスとピアノによるアンサンブル(3) コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 14) ユーフォニアムとピアノによるアンサンブル(3) コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 15) 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業はソロ楽器(ヴァイオリン、コントラバス、サクソフォーンおよびユーフォニアム)とピアノとのアンサンブルを軸に展開される。ソロ楽器奏者は授業内で演奏したい作品を選択し、遅くとも第1回目の授業の際に提示し、楽譜も持参すること。その後の履修作品に関しては授業内で指示する。アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につきる。自分が担当する作品においては、演奏するパートの技術的な準備のみならず、それが音楽全体の中で何を担うべきかを1時間以上の時間をかけて事前に詳細に考察し、パートナーとの音楽的連携を理解しておくこと。気がついたことは自分の楽譜に書き込んでおくことを推奨する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。そのための楽譜の入手方法に関しては授業内で指示する。これを利用して、自分が演奏しない作品の楽譜にも事前に目を通し、実際のアンサンブルの際にどのような配慮が必要になるかを予測しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

事前の演奏準備の綿密さ、リハーサルを展開する際の創意工夫や積極性を重視するとともに、平常の授業への取り組み(自分が演奏しない場合も含む)についてのフィードバック等、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

出席状況の評価には無届けの遅刻・早退も加味される。何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員、およびアンサンブルのパートナーに連絡すること。

ナンバリング	MSS710N		
科目名	室内楽演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

前期で経験したことに加え、さらに経験を積むべく演習を継続する。

#### ◆授業内容・計画◆

さまざまな楽器とのアンサンブル作品を準備する。前期と同様、演奏者自身の力によってリハーサルを進行させる力を養うことを目的とする。

- 1) ヴァイオリンとピアノによるアンサンブル(1)ロマン派以降の作品
- 2) サクソフォーンとピアノによるアンサンブル(1)近現代の作品
- 3) コントラバスとピアノによるアンサンブル(1)ロマン派以降の作品
- 4) ユーフォニアムとピアノによるアンサンブル(1)近現代の作品
- 5) ヴァイオリンとピアノによるアンサンブル(2)前回とは異なる楽章または作品
- 6) サクソフォーンとピアノによるアンサンブル(2)前回とは異なる楽章または作品
- 7) コントラバスとピアノによるアンサンブル(2)前回とは異なる楽章または作品
- 8) ユーフォニアムとピアノによるアンサンブル(2)前回とは異なる楽章または作品
- 9) ヴァイオリンとピアノによるアンサンブル(3)コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 10) サクソフォーンとピアノによるアンサンブル(3)コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 11) コントラバスとピアノによるアンサンブル(3)コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 12) ユーフォニアムとピアノによるアンサンブル(3)コンサート形式の演奏と、履修者全員での意見交換
- 13) 追加演習(1)まだまとまりが不十分と思われる作品をさらに仕上げる
- 14) 追加演習(2)前回とは別の作品のうち、まだまとまりが不十分と思われるものをさらに仕上げる。
- 15) 後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

アンサンブルの際に何より大切なのは「自分のパートを完璧に準備しておくこと」につける。自分が担当する作品においては、演奏するパートの技術的な準備のみならず、それが音楽全体の中で何を担うべきかを事前に1時間以上の時間をかけて詳細に考察し、パートナーとの音楽的連携を理解しておくこと。気がついたことは自分の楽譜に書き込んでおくことを推奨する。授業で扱われる作品に関しては、履修者全員がそのスコアを準備すること。そのための楽譜の入手方法に関しては授業内で指示する。これを利用して、自分が演奏しない作品の楽譜にも事前に目を通し、実際のアンサンブルの際にどのような配慮が必要になるかを予測しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

演奏の完成度よりも事前の演奏準備の綿密さ、リハーサルを展開する際の創意工夫や積極性を重視するとともに、平常の授業への取り組み(自分が演奏しない場合も含む)についてのフィードバック等、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

出席状況の評価には無届けの遅刻・早退も加味される。何らかの事情で授業に参加できないことが明らかになった場合は、すみやかに指導教員、およびアンサンブルのパートナーに連絡すること。

ナンバリング	MSL701U		
科目名	作品研究(器楽) I		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

演奏するということの本質的な問題を考え、楽譜を読み、精神的により深い演奏が出来るようになる

#### ◆授業内容・計画◆

- 1回目 演奏解釈とは
- 2回目 フレーズ構成と文章構造の関係
- 3回目 楽譜の読み方。(音組織を時間の中での持続として示すために)
- 4回目 音楽する人間の精神の働きについて
- 5回目 演奏に伴う技術の問題について
- 6回目 古典派ソナタ形式について(エマヌエル・バッハ、ハイドン、モーツァルトのソナタ形式)
- 7回目 ベートーヴェン研究その1(ボン時代からウィーン初期作品)
- 8回目 ベートーヴェン研究その2(初期ソナタ形式の分析と演奏法)
- 9回目 ベートーヴェン研究その3(中期ソナタの分析と演奏法)
- 10回目 ベートーヴェン研究その4(後期ソナタの研究)
- 11回目 芸術運動としてのロマン主義について
- 12回目 シューベルトの音楽(ロマン派音楽の形式的特徴)
- 13回目 シューマンの音楽(作品の構造分析と演奏法)
- 14回目 シューマンの音楽(室内楽を巡って)
- 15回目 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

作品の研究に当たっては指示された曲の楽譜を用意し授業の理解の為に充分予習すること。

#### ◆成績評価の方法◆

授業に参加する態度や、実際に演奏に対してのフィードバックをする。授業参加への積極性を評価の対象とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

別に無し

#### ◆参考図書◆

授業の中で推奨する本を述べるので読むこと。

#### ◆留意事項◆

様々な器楽奏者が集まる授業であるから、他の楽器に対する知識を深め音楽する上での共通の問題を見つけ出して各自の成長に役立ててほしい。



ナンバリング	MSL702U		
科目名	作品研究(器楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

演奏する人間の精神と肉体に起こる様々な現象を意識化して自分自身を知り、各自の個性に従った演奏力を高めることができる

#### ◆授業内容・計画◆

- 1回目 音を聴く力。(視覚と聴覚の違い。質的なものを直覚できる耳)
- 2回目 計測できるものと計測できないもの。(情念と身体の関係について)
- 3回目 音を作る。音楽家にとっての音の意味を問う。
- 4回目 ロマン派作品の諸相(前編)
- 5回目 ロマン派作品の諸相(中編)
- 6回目 ロマン派作品の諸相(後編)
- 7回目 20世紀の音楽
- 8回目 演奏研究その1(フルートの作品)(前半)  
8回目からは授業に参加している学生の希望により各楽器の作品を研究する
- 9回目 演奏研究その2(クラリネットの作品)(前半)
- 10回目 演奏研究その3(サクソホンの作品)
- 11回目 演奏研究その4(打楽器の作品)
- 12回目 演奏研究その5(フルートの作品)(後半)
- 13回目 演奏研究その6(クラリネットの作品)(後半)
- 14回目 演奏する行為の意味を考える
- 15回目 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

研究する曲の楽譜を用意し調べて授業に臨むことが望まれる。

#### ◆成績評価の方法◆

授業に参加する態度、及び演奏参加する積極性をフィードバックして評価の判断とする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業ごとに指示する

#### ◆参考図書◆

授業の中で推奨する本を提示する

#### ◆留意事項◆

様々な楽器奏者が集う授業であるから、他の楽器に対する知識を深め演奏力の向上に努めてほしい。

ナンバリング	MSS711N		
科目名	室内楽演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	三木 香代		
学年	2年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽曲について、時代様式や編成されている各楽器の特徴をとらえ、アンサンブルに不可欠な音楽表現要素を考慮して演奏することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は公開レッスン形式で進め、問題点やその解決法について様々な角度から考察することで、アンサンブル能力とともにバランスの取れた音楽的感覚を磨く。曲目は履修者の専攻楽器によって柔軟に対応する。

〈授業スケジュール〉

- 1) ガイダンス
- 2) 室内楽のレパートリーについて
- 3) ハイドン:フルート三重奏曲 Hob.XV-16 第1楽章
- 4) ハイドン:フルート三重奏曲 Hob.XV-16 第2楽章
- 5) ハイドン:フルート三重奏曲 Hob.XV-16 第3楽章
- 6) ブラームス:クラリネット三重奏曲 作品114 第1楽章
- 7) ブラームス:クラリネット三重奏曲 作品114 第2楽章
- 8) ブラームス:クラリネット三重奏曲 作品114 第3、4楽章
- 9) メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 作品49 第1楽章
- 10) メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 作品49 第2楽章
- 11) メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 作品49 第3楽章
- 12) メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 作品49 第4楽章
- 13) 他の編成の室内楽
- 14) 演奏発表と合評
- 15) まとめ

上記の曲目を参考に各自選択する。楽章の抜粋も認める。  
履修曲目についてはガイダンスで決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。  
演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと演奏に対するコメントについてのフィードバックなど、総合的に判断して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』練木繁夫著(春秋社)

#### ◆留意事項◆

チェロについては演奏助手が共演する。  
授業スケジュールは状況に応じて変更する場合がある。  
ソロでは体験できない、他者と音楽を作り上げる喜びを感じてほしい。

ナンバリング	MSS712N		
科目名	室内楽演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	三木 香代		
学年	2年	クラス	O1
講義室	6-111	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽曲について、時代様式や編成されている各楽器の特徴をとらえ、アンサンブルに不可欠な音楽表現要素を考慮して演奏することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

授業は公開レッスン形式で進め、問題点やその解決法について様々な角度から考察することで、アンサンブル能力とともにバランスの取れた音楽的感覚を磨く。

履修者の専攻楽器によって、ヴァイオリン、チェロ、ピアノによるピアノ三重奏曲をはじめ、様々なレパートリーを演習する。最終日に授業内発表会を行う予定。

〈授業スケジュール〉

- 1) ガイダンス
- 2) ブラームス: ピアノ三重奏曲 第1番 作品8 第1楽章
- 3) ブラームス: ピアノ三重奏曲 第1番 作品8 第2楽章
- 4) ブラームス: ピアノ三重奏曲 第1番 作品8 第3楽章
- 5) ブラームス: ピアノ三重奏曲 第1番 作品8 第4楽章
- 6) ドヴォルザーク: ピアノ三重奏曲 第4番 作品90「ドゥムキー」第1,2楽章
- 7) ドヴォルザーク: ピアノ三重奏曲 第4番 作品90「ドゥムキー」第3,4楽章
- 8) ドヴォルザーク: ピアノ三重奏曲 第4番 作品90「ドゥムキー」第5,6楽章
- 9) アレンスキー: ピアノ三重奏曲 第1番 作品32 第1楽章
- 10) アレンスキー: ピアノ三重奏曲 第1番 作品32 第2楽章
- 11) アレンスキー: ピアノ三重奏曲 第1番 作品32 第3楽章
- 12) アレンスキー: ピアノ三重奏曲 第1番 作品32 第4楽章
- 13) 発表曲の演習
- 14) 演奏発表と合評
- 15) まとめ

上記の曲目を参考に選択する。楽章の抜粋も認める。

履修曲目についてはガイダンスで決定する。

#### ◆準備学習の内容◆

初回までに、各自選択する曲について検討しておくこと。

演奏する曲については、十分な準備をし、自分のパートだけでなく他のパートも把握しておくことが重要である。(目安90分)

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと演奏に対するコメントについてのフィードバックなど、総合的に判断して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』練木繁夫著(春秋社)

#### ◆留意事項◆

チェロについては演奏助手が共演する。

授業スケジュールは状況に応じて変更する場合がある。

ソロでは体験できない、他者と音楽を作り上げる喜びを感じてほしい。

ナンバリング	MSL703U		
科目名	原典講読(鍵盤楽器) I		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

歌詞を知悉することは、歌曲伴奏において必須のことである。自らが専門としたい言語系はもちろんであるが、それ以外の言語系の文学作品について知っておくことも重要である。様々な言語の文学作品に触れ、将来の演奏の現場での実用につなげて行くことを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

4名の教員によるオムニバス形式の講義が展開される。

第1回(花岡)通年の授業計画が示され、授業の方法について実際に学習、演習をし、原典講読の意義について理解する。

第2回(加納)ドイツの文学思潮の大きな流れ、ドイツの社会史を含めて、理解を深める

第3回(加納)ドイツ古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈

第4回 同上

第5回 同上

第6回(河原)イタリア古典からロマン派に至る文学作品の解説、解釈。ペトラルカやダンテ

第7回 同上

第8回 同上

第9回(武内)フランス古典からロマン派作品に至る文学作品の解説、解釈。ユーゴーを中心に

第10回 同上

第11回 同上

第12回(花岡)日本の上代から白秋に至る詩歌作品の解説と解釈

第13回 同上

第14回 同上

第15回 前期授業のまとめと、後期の課題の確認

#### ◆準備学習の内容◆

課題として出された文学作品について、自力で読解し、解釈出来るようにしておく。

時には課題となる作品を使用している音楽作品をめぐる演習もあり得るので、歌い手と用意しておくことも必要となろう。

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、などについて評価し、成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度、講師から示される。共通の教科書などはない。

#### ◆参考図書◆

その都度、講師から示される。各言語の辞書は用意しておくように。

#### ◆留意事項◆

負担も大きい、将来必ず役に立つ学修内容であるから、確かな意識を持って取り組むように。

ナンバリング	MSL704U		
科目名	原典講読(鍵盤楽器)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	花岡 千春		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

歌詞を知悉することは、歌曲伴奏において必須のことである。自らが専門としたい言語系はもちろんであるが、それ以外の言語系の文学作品について知っておくことも重要である。様々な言語の文学作品に触れ、将来の演奏の現場での実用につなげていくことを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

4名の教員によって、オムニバス形式で行われる

第1回(花岡)日本の詩歌作品。昭和以降の作品の解説と解釈。三好達治を中心に

第2回 同上

第3回 同上

第4回(河原)イタリアのロマン派以降の作品の解説と解釈。ダヌンツィオなど

第5回 同上

第6回 同上

第7回(武内)フランスのロマン派以降の作品の解説と解釈 アポリネール、エリュアール、コクトー、etc

第8回 同上

第9回 同上

第10回(加納)ドイツのロマン派以降の作品の解説と解釈

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 講義全体のまとめ①、演奏者として歌曲作品の詩に対してどのようなアプローチの仕方が考えられるか、を考えてみる。

第15回 講義全体のまとめ②、演奏者として歌曲作品の詩に対してどのようなアプローチの仕方が考えられるか、を考えてみる。

#### ◆準備学習の内容◆

課題として出された文学作品について、自分で読解し、解釈できるようにしておく。

時には課題となる文学作品をめぐる演習もあり得るので、歌い手と用意しておくことも必要になろう。

#### ◆成績評価の方法◆

出席状況、授業内での取り組み方への評価、演習の内容、等について評価し、成績を出す。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度、講師から示される。共通の教科書などはない。

#### ◆参考図書◆

その都度、講師から示される。各言語の辞書は用意しておくように。

#### ◆留意事項◆

負担も大きいですが、将来必ず役に立つ学習内容であるから、確かな意識を持って取り組むように。

ナンバリング	MSL705U		
科目名	ピアノ教育研究 I		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ピアノをはじめとした器楽演奏の指導に必要な知識を深め、より効果的な指導を行うための考察を行う。

#### ◆授業内容・計画◆

前期はメンタルケアおよびコーチ力の概要に関する授業を展開する。会得した知識を自身の演奏にも役立てるとともに、指導者としての能力を高める助けとする。

- 1) ガイダンス
- 2) 自分自身が受けてきた音楽教育とステージ経験をふり返り、良かったこと、疑問に思ったことなどを振り返り、あわせて自分自身がめざしたい音楽教育者のポイント(目標)を発表する。
- 3) 「心の法則」の概念を学ぶ。
- 4) 「セルフイメージ」に関して学ぶ。
- 5) コーチ力の原点(1)理解する力
- 6) コーチ力の原点(2)見通す力
- 7) コーチ力の原点(3)愛する力
- 8) コーチ力の原点(4)行動する力
- 9) コーチ力の原点(5)楽しむ力
- 10) 「結果エントリー」と「心エントリー」について
- 11) サクソフォーンの指導を題材としたDVDを鑑賞する。
- 12) 鑑賞したDVDの感想を述べ合い、それぞれの指導法のメリット・デメリットを評価する。
- 13) ディスカッション(1)授業内で与えられた課題(例:音楽コンペティションの是非と教育的価値)に関して自由に討議する。
- 14) ディスカッション(2)前回とは別の課題に関して自由に討議する。
- 15) 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中には扱われている問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

与えられたテーマに関するレポートの返却、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ピアノ専攻ではない者にも役立つ内容が多く含まれている。

ナンバリング	MSL706U		
科目名	ピアノ教育研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今井 顕		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-327	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

前期で学んだことに加え、さらに知識を増やすべく研究を継続する。

#### ◆授業内容・計画◆

後期の授業は「言葉で説明する」重要性に重点をおいて展開する。イタリア語の音楽用語の用法を再確認し、言葉のイメージや真意を考察するとともに、「特定のイメージを相手にわかる言葉で表現する」練習を行う。またピアノの構造に関する理解を深め、より効率のよい奏法や練習方法の開発に役立つポイントを研究する。加えて、原典版と楽譜編集に関する情報を充実させ、教材として使用する楽譜の選定に役立つ知識を習得する。

- 1) ガイダンス
- 2) 音楽楽語の研究(1)速度に関する表記
- 3) 音楽楽語の研究(2)強弱に関する表記
- 4) 音楽楽語の研究(3)表情に関する表記
- 5) 音楽楽語の研究(4)その他の留意点
- 6) 原典版とその編集に関する概要
- 7) ベートーヴェン「月光ソナタ」を題材とした原典資料の吟味
- 8) 今井版ソナチネアルバムに関する情報と解説
- 9) 今井版モーツァルトソナタアルバムに関する情報と解説
- 10) フォルテピアノの試弾
- 11) ペダリングに関する考察と指導法研究
- 12) ピアノのメンテナンスに関して(実習を含む)
- 13) ディスカッション: そもそも「練習」とは?(例)
- 14) ディスカッション: 前回とは別の課題に関する自由な討議を行う
- 15) 後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ないが、授業後には学習した内容を整理し、生じた疑問をリストアップしておくこと。また授業中には扱われている問題に関して自分なりの見解を発表できるよう、一定の時間をかけてまとめておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

与えられたテーマに関するレポートの返却、授業内容への取り組みや課題の達成状況等を総合的に見て評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で紹介する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ピアノ専攻ではない者にも役立つ内容が含まれている。

ナンバリング	MSP705N		
科目名	器楽(弦管打)演習 I		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

演奏家、教育者になるための基礎的なノウハウを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)①ドイツ人作曲家
- 第3回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)①ドイツ人作曲家
- 第4回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)①ドイツ人作曲家
- 第5回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)②フランス人作曲家
- 第6回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)②フランス人作曲家
- 第7回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)②フランス人作曲家
- 第8回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)③イタリア人作曲家
- 第9回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)③イタリア人作曲家
- 第10回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)③イタリア人作曲家
- 第11回 バロック以前～ロマン派／作品研究(伴奏なし)④諸国の作曲家
- 第12回 バロック以前～ロマン派／作品研究(ピアノ伴奏)④諸国の作曲家
- 第13回 バロック以前～ロマン派／作品研究(室内楽作品)④諸国の作曲家
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内指示。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。



ナンバリング	MSP706N		
科目名	器楽(弦管打)演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

器楽(弦管打)演習Ⅰを踏まえ、演奏家、教育者になるための基礎的なノウハウを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)①ドイツ人作曲家
- 第3回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)①ドイツ人作曲家
- 第4回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)①ドイツ人作曲家
- 第5回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)②フランス人作曲家
- 第6回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)②フランス人作曲家
- 第7回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)②フランス人作曲家
- 第8回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)③イタリア人作曲家
- 第9回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)③イタリア人作曲家
- 第10回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)③イタリア人作曲家
- 第11回 ロマン派以降～現代／作品研究(伴奏なし)④諸国の作曲家
- 第12回 ロマン派以降～現代／作品研究(ピアノ伴奏)④諸国の作曲家
- 第13回 ロマン派以降～現代／作品研究(室内楽作品)④諸国の作曲家
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

授業内指示。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP707N		
科目名	器楽(弦管打)演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

演奏家、教育者になるためのノウハウを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 協奏曲作品研究①ドイツ人作曲家
- 第3回 協奏曲作品研究②フランス人作曲家
- 第4回 協奏曲作品研究③イタリア人作曲家
- 第5回 協奏曲作品研究④諸国の作曲家
- 第6回 中間発表に向けてのプログラム研究①無伴奏
- 第7回 中間発表に向けてのプログラム研究②ピアノ伴奏
- 第8回 中間発表に向けてのプログラム研究③室内楽作品
- 第9回 中間発表に向けてのプログラム研究④協奏曲作品
- 第10回 中間発表に向けて①(演奏表現の工夫:曲目別)
- 第11回 中間発表に向けて②(演奏表現の工夫:プログラム全体を通して)
- 第12回 中間発表の振り返り
- 第13回 研究報告と修了演奏プログラムの関連について
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

授業内指示。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進捗等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSP708N		
科目名	器楽(弦管打)演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

演奏家、教育者になるためのノウハウを身に付ける。修了演奏でその成果を発揮する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 修了演奏会に向けてのプログラム研究①無伴奏
- 第3回 修了演奏会に向けてのプログラム研究②ピアノ伴奏
- 第4回 修了演奏会に向けてのプログラム研究③室内楽作品
- 第5回 修了演奏会に向けてのプログラム研究④協奏曲
- 第6回 修了演奏プログラム仮決定
- 第7回 修了演奏プログラムの検討①無伴奏
- 第8回 修了演奏プログラムの検討②ピアノ伴奏
- 第9回 修了演奏プログラムの検討③室内楽作品
- 第10回 修了演奏プログラムの検討④協奏曲
- 第11回 修了演奏プログラム最終決定
- 第12回 修了演奏に向けて①(演奏表現の工夫:曲目別)
- 第13回 修了演奏に向けて②(演奏表現の工夫:プログラム全体を通して)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

◆準備学習の内容◆

授業内指示。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のガイダンスで確認すること。

ナンバリング	MSS713U		
科目名	弦管打研究(レパトリー研究) I		
科目詳細			
担当教員	武田 忠善		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

レパトリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスとディスカッション体験
- 第3回 フルートソロ(学生A): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 フルートソロ(学生B): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 ヴァイオリンソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 クラリネットソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 マリンバソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第8回 ソロ演奏に関する振り返りと重奏・協奏曲の進め方等
- 第9回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第10回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第11回 クラリネット二重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第12回 打楽器コンチェルト<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第13回 クラス内発表会に向けて(プログラム構成と演奏曲決定)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安: 毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等にに合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS714U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	武田 忠善		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

レパートリー研究だけではなくステージマナーも含め、演奏するということとはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(前期の振り返りと後期の授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスと解説及びディスカッション
- 第3回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 クラリネット二重奏<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 打楽器コンチェルト<課題曲2>曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 重奏・協奏曲の振り返りと試験曲に関する留意点等
- 第8回 フルートソロ<試験曲>演奏とディスカッション(課題確認)
- 第9回 ヴァイオリンソロ<試験曲>演奏とディスカッション(課題確認)
- 第10回 打楽器ソロ<試験曲>演奏とディスカッション(課題確認)
- 第11回 フルートソロ<試験曲>演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第12回 ヴァイオリンソロ<試験曲>演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第13回 打楽器ソロ<試験曲>演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第14回 試験に向けた試演会開催
- 第15回 1年間の授業の振り返り

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安:毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS715U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	武田 忠善		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

修了試験プログラムを題材にし、ステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスとディスカッション体験
- 第3回 フルートソロ(学生A): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 フルートソロ(学生B): 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 ヴァイオリンソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 クラリネットソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 マリンバソロ: 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第8回 ソロ演奏に関する振り返りと重奏・協奏曲の進め方等
- 第9回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第10回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第11回 クラリネット二重奏<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第12回 打楽器コンチェルト<課題曲1> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第13回 クラス内発表会に向けて(プログラム構成と演奏曲決定)
- 第14回 クラス内発表会に向けて(演奏表現の工夫)
- 第15回 クラス内発表会開催

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安: 毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MSS716U		
科目名	弦管打研究(レパートリー研究)IV		
科目詳細			
担当教員	武田 忠善		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

修了試験プログラムを題材にし、ステージマナーも含め、演奏するということはどのようなものか考え学び、自身の言葉、楽器で主張できる演奏家を育成する。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(前期の振り返りと後期の授業の目的、進め方等)
- 第2回 教員による模範パフォーマンスと解説及びディスカッション
- 第3回 フルート二重奏とピアノによる演奏<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第4回 ヴァイオリンと木管とピアノによる三重奏<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第5回 クラリネット二重奏<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第6回 打楽器コンチェルト<課題曲2> 曲目解説と演奏及びディスカッション
- 第7回 重奏・協奏曲の振り返りと試験曲に関する留意点等
- 第8回 フルートソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(課題確認)
- 第9回 ヴァイオリンソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(課題確認)
- 第10回 打楽器ソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(課題確認)
- 第11回 フルートソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第12回 ヴァイオリンソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第13回 打楽器ソロ<試験曲> 演奏とディスカッション(高度な解釈と演奏能力)
- 第14回 試験に向けた試演会開催
- 第15回 1年間の授業の振り返り

#### ◆準備学習の内容◆

修士課程に必要な知識・技術を修得するため、毎日の実技練習、作曲家や作品について調べる等、自己研鑽に励み、授業に備える事。(目安:毎日2時間以上)

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。毎授業終了後に講評を行い、次の授業までの課題をフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

学生の進度等に合わせて、授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

楽器の特性や履修者の実態に応じて、指導教員により進め方が異なるため、第一回のオリエンテーションで確認すること。

ナンバリング	MCS701N		
科目名	作曲演習 I		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作を完遂できる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作個人レッスン1
- 7) 習作個人レッスン2
- 8) 習作個人レッスン3
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作個人レッスン1
- 11) 作品創作個人レッスン2
- 12) 作品創作個人レッスン3
- 13) 作品創作個人レッスン4
- 14) 作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

Audible Design (Trevor Wishart 著 / Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Sound Composition (Trevor Wishart 著 / Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Mixing Secrets for the Small Studio (Mike Senior 著 / Focal Press)  
 Mastering Audio: The Art and the Science (Bob Katz 著 / Focal Press)  
 芸術の設計—見る／作ることのアプリケーション (岡崎乾二郎 著 / フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス (中村滋延 著 / 九州大学出版会)  
 Emprise (後藤英 著 / スタイルノート)  
 音と文明—音の環境学ことはじめ— (大橋力 著 / 岩波書店)

#### ◆留意事項◆



ナンバリング	MCS701N		
科目名	作曲演習 I		
科目詳細	作品創作・音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)中間発表作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作曲演習 I」では、中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作を準備する。  
(いずれも編成は自由であるが中間発表作品に関しては担当教員と相談し決定すること)

中間発表作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「世界の音楽作品の聴取」
- 第3回 「時代様式の考察」
- 第4回 「楽器・奏法・技法の検討」
- 第5回 「芸術文化への広汎な視点と創作との関係性」
- 第6回 「音楽語法の考察」
- 第7回 「自律的方法論の模索」
- 第8回 「創作のための楽曲研究」
- 第9回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン」(1)
- 第10回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン」(2)
- 第11回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン」(3)
- 第12回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン」(4)
- 第13回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン」(5)
- 第14回 「自主的作品創作の完成」
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

#### ◆成績評価の方法◆

作品創作の達成状況と授業への参加態度。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

中間発表作品は研究課題と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS702N		
科目名	作曲演習Ⅱ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた作品創作を完遂できる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作個人レッスン1
- 7) 習作個人レッスン2
- 8) 習作個人レッスン3
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作個人レッスン1
- 11) 作品創作個人レッスン2
- 12) 作品創作個人レッスン3
- 13) 作品創作個人レッスン4
- 14) 作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

Audible Design (Trevor Wishart 著 / Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Sound Composition (Trevor Wishart 著 / Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Mixing Secrets for the Small Studio (Mike Senior 著 / Focal Press)  
 Mastering Audio: The Art and the Science (Bob Katz 著 / Focal Press)  
 芸術の設計—見る／作ることのアプリケーション (岡崎乾二郎 著 / フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス (中村滋延 著 / 九州大学出版会)  
 Emprise (後藤英 著 / スタイルノート)  
 音と文明—音の環境学ことはじめ— (大橋力 著 / 岩波書店)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS702N		
科目名	作曲演習Ⅱ		
科目詳細	作品創作・音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)中間発表作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅱ」では「作曲演習Ⅰ」の内容を踏まえて、中間発表に向けた作品創作と自主的作品創作を完成させる。(いずれも編成は自由であるが中間発表作品および修了作品に関しては担当教員と相談し決定すること)

「作曲演習Ⅰ」と同じに内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「世界の音楽作品の聴取」
- 第3回 「時代様式の考察」
- 第4回 「楽器・奏法・技法の検討」
- 第5回 「芸術文化への広汎な視点と創作との関係性」
- 第6回 「音楽語法の考察」
- 第7回 「自律的方法論の模索」
- 第8回 「創作のための楽曲研究」
- 第9回 「中間発表作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)」
- 第10回 「中間発表作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)」
- 第11回 「中間発表作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)」
- 第12回 「中間発表作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)」
- 第13回 「中間発表作品創作への作曲個人レッスン(応用)」
- 第14回 「中間発表作品の完成・パート譜作成等」
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

#### ◆成績評価の方法◆

中間発表の作品提出・演奏と、平常の授業への取り組み。  
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

中間発表作品は研究課題と関連付けた内容が望ましい。

ナンバリング	MCS703N		
科目名	作曲演習Ⅲ		
科目詳細	作品創作・音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅲ」は「作曲演習Ⅱ」の内容を踏まえて、修了作品創作と自主的作品創作を準備する。  
(いずれも編成は自由であるが修了作品に関しては担当教員と相談し決定すること)

修了作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「世界の音楽作品の聴取」
- 第3回 「時代様式の考察」
- 第4回 「楽器・奏法・技法の検討」
- 第5回 「芸術文化への広汎な視点と創作との関係性」
- 第6回 「音楽語法の考察」
- 第7回 「自律的方法論の模索」
- 第8回 「創作のための楽曲研究」
- 第9回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)」
- 第10回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)」
- 第11回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン発展・前半)」
- 第12回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン発展・後半)」
- 第13回 「自主的作品創作への作曲個人レッスン(応用)」
- 第14回 「自主的作品創作の完成」
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

#### ◆成績評価の方法◆

作品創作の達成状況と授業への参加態度。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング	MCS703N		
科目名	作曲演習Ⅲ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた修了作品を完成できる。

#### ◆授業内容・計画◆

修了作品創作と自主的作品創作。

いずれも編成や作品形態は自由とする。修了作品に関しては担当教員と相談し決定すること。

修了作品の内容は履修学生の希望と適正を考慮し決定するが、特に以下の項目に留意して授業を行う。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 習作個人レッスン1
- 7) 習作個人レッスン2
- 8) 習作個人レッスン3
- 9) 習作の検討
- 10) 作品創作個人レッスン1
- 11) 作品創作個人レッスン2
- 12) 作品創作個人レッスン3
- 13) 作品創作個人レッスン4
- 14) 作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

Audible Design (Trevor Wishart 著／Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Sound Composition (Trevor Wishart 著／Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Mixing Secrets for the Small Studio (Mike Senior 著／Focal Press)  
 Mastering Audio: The Art and the Science (Bob Katz 著／Focal Press)  
 Computer Models of Musical Creativity (David Cope 著／The MIT Press)  
 芸術の設計—見る／作ることのアプリケーション (岡崎乾二郎 著／フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス (中村滋延 著／九州大学出版会)  
 音と文明—音の環境学ことはじめ— (大橋力 著／岩波書店)  
 日本文化における時間と空間 (加藤周一 著／岩波書店)  
 ゲーデル、エッシャー、バッハ—あるいは不思議の環 (ダグラス・R. ホフスタッター 著／白揚社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS704N		
科目名	作曲演習Ⅳ		
科目詳細	作品創作・音楽理論		
担当教員	(音楽理論)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)新鮮で独創性豊かな視点を持って、高度な芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2) 修了作品を完成させ、楽譜と演奏により発表することができる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作曲演習Ⅳ」では「作曲演習Ⅲ」の内容を踏まえて、修了作品創作と自主的作品創作を完成させる。  
(いずれも編成は自由であるが修了作品に関しては担当教員と相談し決定すること)

修了作品の内容は履修学生の希望、適正を考慮し決定されるが、特に以下の項目に留意して授業展開を行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「世界の音楽作品の聴取」
- 第3回 「時代様式の考察」
- 第4回 「楽器・奏法・技法の検討」
- 第5回 「芸術文化への広汎な視点と創作との関係性」
- 第6回 「音楽語法の考察」
- 第7回 「自律的方法論の模索」
- 第8回 「創作のための楽曲研究」
- 第9回 「修了作品創作への作曲個人レッスン(基礎・前半)」
- 第10回 「修了作品創作への作曲個人レッスン(基礎・後半)」
- 第11回 「修了作品創作への作曲個人レッスン(発展・前半)」
- 第12回 「修了作品創作への作曲個人レッスン(発展・後半)」
- 第13回 「修了作品創作への作曲個人レッスン(応用)」
- 第14回 「修了作品の完成・パート譜作成等」
- 第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること。  
担当教員の意見を核とした分析的思考と創作の実践を継続する。

#### ◆成績評価の方法◆

修了審査会における作品提出・演奏審査と、最終試験における譜面及び研究報告の審査(面接)。  
その他、授業で随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

修了作品は研究課題と関連付けた内容が問われる。

ナンバリング	MCS704N		
科目名	作曲演習Ⅳ		
科目詳細	コンピュータ音楽		
担当教員	(コンピュータ音楽)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テクノロジーを援用して、高い美意識と技術、さらには問題意識を備えた修了作品を完成できる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 先行作品、関連技術のサーベイ1
- 3) 先行作品、関連技術のサーベイ2
- 4) 先行作品、関連技術のサーベイ3
- 5) 先行作品、関連技術のサーベイまとめ
- 6) 修了作品創作への準備1
- 7) 修了作品創作への準備2
- 8) 修了作品創作への準備3
- 9) 修了作品創作の検討
- 10) 修了作品創作個人レッスン1
- 11) 修了作品創作個人レッスン2
- 12) 修了作品創作個人レッスン3
- 13) 修了作品創作個人レッスン4
- 14) 修了作品創作個人レッスン5
- 15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、歴史を踏まえつつもアートやテクノロジーの最新動向には常に注意を払っていること。目安毎日1時間。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内サーベイ報告、および創作作品の期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布。

#### ◆参考図書◆

Audible Design(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Sound Composition(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)  
 Mixing Secrets for the Small Studio(Mike Senior 著/Focal Press)  
 Mastering Audio: The Art and the Science(Bob Katz 著/Focal Press)  
 Computer Models of Musical Creativity(David Cope 著/The MIT Press)  
 芸術の設計—見る／作ることのアプリケーション(岡崎乾二郎 著/フィルムアート社)  
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセンス(中村滋延 著/九州大学出版会)  
 音と文明—音の環境学ことはじめ—(大橋力 著/岩波書店)  
 日本文化における時間と空間(加藤周一 著/岩波書店)  
 ゲーデル、エッシャー、バウハウスあるいは不思議の環(ダグラス・R. ホフスタッター 著/白揚社)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS705N		
科目名	ソルフェージュ演習 I		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

第1 Semesterでは、自己のソルフェージュ能力を高めるとともに、文献研究、授業見学、メソッドの研究などにより、ソルフェージュ指導者が知っているべき基本事項について学修する。

- 1)ガイダンス
- 2)先行研究・論文の研究①(内容検討)
- 3)先行研究・論文の研究②(レジュメ作成)
- 4)ソルフェージュに関する基本語彙と定義
- 5)授業見学に関するレポート①
- 6)授業見学に関するレポート②
- 7)授業見学に関するレポート③
- 8)オーケストラ・スコアのリダクション①
- 9)オーケストラ・スコアのリダクション②
- 10)オーケストラ・スコアのリダクション③
- 11)メソッド研究①(フォルマシオン・ミュージカル)
- 12)メソッド研究②(コダーイ・システム)
- 13)メソッド研究③(ダルクローズ・リトミック)
- 14)メソッド研究④(日本のソルフェージュの現状)
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

予め指定された文献、教材、楽曲について、深く探求、思索したうえで、議論の中で意見を述べる、あるいは新しい提案ができるように準備する。また、演奏表現においては、自己が表現するだけでなく、常に指導する立場からのアプローチについて考え、説明することができるように準備する。

#### ◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度指示する。

#### ◆参考図書◆

その都度指示する。

#### ◆留意事項◆

多くのソルフェージュ論や楽譜を読み、総合的に広く知ること。生きた音楽の楽しさと深さを伝えられる指導者を目指して欲しい。



ナンバリング	MCS706N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

第2セメスターでは、自己のソルフェージュ能力を高めるとともに、教材研究をもとに、自作教材を作成・実践し、その目的や実践法、効果などを明確にする。

また修士論文研究題目に関する相談・指導などを随時行い、題目を決定する。

- 1)第1セメスターの内容の復習
- 2)文献研究①(聴覚に関する文献)
- 3)文献研究②(リズムに関する文献)
- 4)文献研究③(演奏に関する文献)
- 5)文献研究④(その他の文献)
- 6)教材研究と作成①(視唱教材)
- 7)教材研究と作成②(リズム教材)
- 8)教材研究と作成③(読譜教材)
- 9)教材研究と作成④(聴音教材)
- 10)教材研究と作成⑤(総合教材)
- 11)教材の実践と反省
- 12)オーケストラ・スコアのリダクション①
- 13)オーケストラ・スコアのリダクション②
- 14)オーケストラ・スコアのリダクション③
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

予め指定された文献、教材、楽曲について、深く探求、思索した上で、議論の中で意見を述べる、あるいは新しい提案ができるよう準備する。また演奏表現については、自己が表現するだけでなく、指導する立場からのアプローチについて考え、説明することができるよう準備する。

#### ◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

その都度指示する。

#### ◆参考図書◆

その都度指示する。

#### ◆留意事項◆

多くのソルフェージュ論や楽譜を読み、総合的に広く知ること。  
修士論文で扱う事柄については、専門的で深い視座が要求されることを自覚し、研究を進めること。  
音楽の深さと楽しさを伝えられる指導者を目指して欲しい。

ナンバリング	MCS707N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

第3セメスターでは、論文執筆に関わる事柄が中心となる。必要な資料の内容を分析・検討、指導案を考えるなど、準備を進めながら少しずつ執筆を始める。

また、教材研究と自作教材作成、ソルフェージュ能力の向上のための訓練も継続する。

- 1)第2セメスターの内容の反省と第3セメスターの展望
- 2)論文指導①(研究の目的)
- 3)論文指導②(研究の概要・方法)
- 4)論文指導③(章立てと内容)
- 5)論文指導④(資料の選択)
- 6)論文指導⑤(資料の分析)
- 7)論文指導⑥(資料の検討)
- 8)論文指導⑦(文章の書き方)
- 9)論文指導⑧(指導案の概要)
- 10)オーケストラ・スコアのリダクション①
- 11)オーケストラ・スコアのリダクション②
- 12)オーケストラ・スコアのリダクション③
- 13)ソルフェージュ指導の実践①
- 14)ソルフェージュ指導の実践②
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

原則、学生が研究した内容について報告し、検討、議論、添削する形で進行するため、毎週必ず研究の成果、進捗状況を目に見えるかたちで提示するよう準備すること。

#### ◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

修士論文で扱う事柄については、専門的で深い視座が要求されることを自覚し、研究を進めること。  
音楽の深さと楽しさを伝えられる指導者を目指して欲しい。

ナンバリング	MCS708N		
科目名	ソルフェージュ演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

ソルフェージュ教育者として必要なスキルを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

第4セメスターでは、論文完成と修士演奏に向けて、研究、教材作成、指導法、自己のソルフェージュ能力の向上のすべてにおいて成果をまとめる。

- 1)論文進捗状況報告と第4セメスターの展望
- 2)論文指導①(完成した部分のチェック)
- 3)論文指導②(新しい資料の分析、検討)
- 4)論文指導③(指導案の作成)
- 5)論文指導④(指導案の実践、模擬授業)
- 6)論文指導⑤(模擬授業の反省)
- 7)論文指導⑥(論文の添削)
- 8)論文指導⑦(論文の添削)
- 9)論文指導⑧(全体のチェック)
- 10)自作教材作成①
- 11)自作教材作成②
- 12)オーケストラ・スコアのリダクション①
- 13)オーケストラ・スコアのリダクション②
- 14)オーケストラ・スコアのリダクション③
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

原則、学生が研究した内容について報告し、検討、議論、添削する形で進行するため、毎週必ず研究の成果、進捗状況を目に見えるかたちで提示するように準備すること。

◆成績評価の方法◆

課題に対する取り組みや達成状況等を総合的に見て判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

修士論文で扱う事柄については、専門的で深い視座が要求されることを自覚し、研究を進めること。音楽の深さと楽しさを伝えられる指導者を目指して欲しい。

ナンバリング	MCS709N		
科目名	作曲法研究 I		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-303	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代の音楽は、古典派などの音楽と違い様々なスタイルの音楽が共存している。例えば、H.ラッペンマンとA.ペルトには何の共通項も見出せないにも関わらず、ほぼ同じ年代の作曲家である。このことから判るように、大切なことは自身の美学を見出すことである。この授業では決して切り離すことができない過去の音楽(主に19世紀末から20世紀の音楽)を今一度検証し、「なぜそのような語法に至ったのか」を考察することで、自らの美学的な立脚点を明確にして、さらにそれを深める機会にしたい。

#### ◆授業内容・計画◆

授業では、David Cope著「現代音楽キーワード事典」を元にして、それぞれの語法を今一度確認し、またときには曲についての分析も行なう。ただ知識を得るだけではなく、なぜ? どうして? といった視点を持って個々の事象を掘り下げてほしいし、またディスカッションの場も多く持ちたい。映像やCDを数多く視聴する。

- (1) ガイダンス/授業の説明と自己紹介
- (2) 起源～調性の概観 拡張される和声 その1
- (3) 起源～調性の概観 拡張される和声 その2
- (4) 無調性と音列主義 その1
- (5) 無調性と音列主義 その2
- (6) 無調性と音列主義 その3 ～P.ブーレーズへのインタビューをめぐって～
- (7) テクスチャリズム～クラスター技法 その1
- (8) テクスチャリズム～クラスター技法 その2
- (9) 音色主義と調律
- (10) 不確定性 その1
- (11) 不確定性 その2 ～J.ケージのインタビューをめぐって～
- (12) ミニマル・ミュージック その1
- (13) ミニマル・ミュージック その2
- (14) 様々なスタイルの共存
- (15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

積極的に様々な音楽を聴いておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発言、レポートなど総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「現代音楽キーワード事典」デイヴィッド・コープ著(春秋社)

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

プリントをこちらで用意します。

ナンバリング	MCS710N		
科目名	作曲法研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-303	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代の音楽は、古典派などの音楽と違い様々なスタイルの音楽が共存している。例えば、H.ラッヘンマンとA.ペルトには何の共通項も見出せないにも関わらず、ほぼ同じ年代の作曲家である。このことから判るように、大切なことは自身の美学を見出すことである。この授業では決して切り離すことができない過去の音楽(主に19世紀末から20世紀の音楽)を今一度検証し、「なぜそのような語法に至ったのか」を考察することで、自らの美学的な立脚点を明確にして、さらにそれを深める機会にしたい。

#### ◆授業内容・計画◆

後期の授業では音楽と時間の関係や、そもそも音楽とは何か?と言ったような根源的な問題が提起されているテキストを読み、それを元にディスカッションする。積極的な発言が求められる。映像やCDも数多く視聴する。

- (1) 音楽と時間についての考察 その1
- (2) 音楽と時間についての考察 その2
- (3) 音楽と時間についての考察 その3
- (4) 音楽と時間についての考察 その4
- (5) 音楽と時間についての考察 その5 ～湯浅譲二の試み～
- (6) 音楽とは何か? その1
- (7) 音楽とは何か? その2
- (8) 音楽とは何か? その3
- (9) 音楽とは何か? その4
- (10) 音楽とは何か? その5
- (11) 聴取の詩学 その1
- (12) 聴取の詩学 その2 ～J.ケージの試み～
- (13) 聴取の詩学 その3 ～ミニマル・ミュージック～
- (14) 聴取の詩学 その4 ～M.フェルドマンの音楽～
- (15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業で提起された問題について、自らの考えをまとめておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での発言、レポートなど総合的に判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「音楽的時間の変容」椎名亮輔著(現代思潮新社)、「音を投げる」近藤譲著(春秋社)、「聴取の詩学」J.ケージからそしてJ.ケージへ 庄野進著(勁草書房)他。

#### ◆参考図書◆

特になし。

#### ◆留意事項◆

既に絶版になっているものもあるので、こちらで用意します。

ナンバリング	MCS711N		
科目名	作曲法研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	川島 素晴		
学年	2年	クラス	O1
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

多岐にわたる現代音楽の作曲技法を、CD試聴、楽譜の検証、楽曲分析を通じて概観することで会得する。楽曲分析を中心に据えて研究していくが、大切なのは作曲家の意図、イメージーションやコスモロジーに肉薄することであり、分析が机上の作業に終始しないことである。ここで学んだことの自作への応用が技法として借用・援用することではなく、創作家としての姿勢を做うことにつなげていく。

#### ◆授業内容・計画◆

- (1) 新ウィーン楽派-1「自由無調期」
- (2) 新ウィーン楽派-2「12音技法期」
- (3) メシアン
- (4) プーレーズ
- (5) シュトックハウゼン
- (6) ノーノ、電子音楽
- (7) クセナキス
- (8) ペンデレツキとポーランド楽派
- (9) リゲティ-1
- (10) ナンカロウとリゲティ-2
- (11) ベリオと引用音楽、多様式
- (12) グロポカールと即興音楽
- (13) カーゲルとムジークテアター
- (14) 20世紀初頭の様々な動向
- (15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う楽曲について、できる限り事前に読譜、試聴をしておくことが望ましい。また、授業内では扱う楽曲の全てを試聴できない場合が多い。事後にも、復習として読譜とともに試聴し、研究を深めるべきである。毎回の授業では、次回までの課題を示す場合が多いので、それについては確実にを行い、自身が興味を持った作曲家・事項については、更に深く掘り下げた研究を進めるべきである。

#### ◆成績評価の方法◆

- 1) 期末レポート「リゲティ『室内協奏曲』第1楽章」
- 2) 授業内での取り組み内容

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS712N		
科目名	作曲法研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	川島 素晴		
学年	2年	クラス	O1
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

多岐にわたる現代音楽の作曲技法を、CD試聴、楽譜の検証、楽曲分析を通じて概観することで会得する。楽曲分析を中心に据えて研究していくが、大切なのは作曲家の意図、イメージーションやコスモロジーに肉薄することであり、分析が机上の作業に終始しないことである。ここで学んだことの自作への応用が技法として借用・援用することではなく、創作家としての姿勢を做うことにつなげていく。

#### ◆授業内容・計画◆

- (1) アイヴズ、カウエル
- (2) ヴァレーズ、アンタイル、パーチ、ハリソン
- (3) ケージ-1「不確定性以前」
- (4) ケージ-2「不確定性以後」
- (5) フェルドマン、フルクサス
- (6) ライヒとミニマル音楽、他
- (7) ラッヘンマン、ホリガーとドイツ語圏の音楽
- (8) シェルシ、ドナトーニとイタリアの作曲家
- (9) スペクトル楽派とその後のフランス音楽
- (10) 新ロマン主義とニュー・コンプレキシティー
- (11) その後の動向
- (12) 日本の作曲家
- (13) 課題発表＋補遺(1)
- (14) 課題発表＋補遺(2)
- (15) まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で扱う楽曲について、できる限り事前に読譜、試聴をしておくことが望ましい。また、授業内では扱う楽曲の全てを試聴できない場合が多い。事後にも、復習として読譜とともに試聴し、研究を深めるべきである。毎回の授業では、次回までの課題を示す場合が多いので、それについては確実にを行い、自身が興味を持った作曲家・事項については、更に深く掘り下げた研究を進めるべきである。

#### ◆成績評価の方法◆

- 1) 期末レポート「ドナトーニ『Omar』」
- 2) 期末提出作品「通常の奏法を用いないピアノ作品」提出、及び演奏発表
- 3) 授業内での取り組み内容

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS713N		
科目名	コンピュータ音楽研究 I		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

創作や演奏、インストール、教育などのための、高度かつ洗練された音楽アプリケーションを企画、開発する。MaxやDIPSを援用したインタラクティブ・マルチメディア作品を創作する。

#### ◆授業内容・計画◆

履修者ごとにプロジェクトを立案し、実現に向けての基礎研究と開発の実践を行う。  
授業は基本的に個人指導により進める。  
Max未経験者には基礎から実習指導を始める。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容確認と研究計画)
- 第2回 Max、プログラミング言語理解度確認、事例紹介
- 第3回 プロジェクト企画立案
- 第4回 プロジェクト遂行
- 第5回 プロジェクト遂行
- 第6回 プロジェクト遂行
- 第7回 中間報告会
- 第8回 プロジェクト遂行
- 第9回 プロジェクト遂行
- 第10回 プロジェクト遂行
- 第11回 中間報告会
- 第12回 プロジェクト仕上げ
- 第13回 プロジェクト仕上げ
- 第14回 プロジェクト仕上げ
- 第15回 補遺とまとめ、発表

#### ◆準備学習の内容◆

個人プロジェクトの遂行はもとより、関連分野のリサーチを怠らないこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習評価、アプリケーション、インタラクティブ・マルチメディア作品、またはマルチメディア・アート等に関する研究論文(テーマ等詳細は後日指定)提出

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配布資料

#### ◆参考図書◆

コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)  
Designing Sound(Andy Farnell/The MIT Press)  
Electronic Music and Sound Design(Alessandro Cipriani/Contemponet)  
サウンドエフェクトのプログラミング—Cによる音の加工と音源合成(小坂 直敏)  
Nature of Code -Processingではじめる自然現象のシミュレーション-(ダニエル・シフマン)  
Beyond Interaction[改訂第2版]-クリエイティブ・コーディングのためのopenFrameworks実践ガイド(田所 淳)  
Tonal Pitch Space (Fred Lerdahl)  
ゼロから作るDeep Learning —Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装(斎藤 康毅)

#### ◆留意事項◆



ナンバリング	MCS714N		
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

創作や演奏、インストール、教育などのための、高度かつ洗練された音楽アプリケーションを企画、開発する。MaxやDIPSを援用したインタラクティブ・マルチメディア作品を創作する。

#### ◆授業内容・計画◆

コンピュータ音楽研究Ⅰをふまえ、更に各自の研究、制作を進める。  
履修者ごとにプロジェクトを立案し、実現に向けての基礎研究と開発の実践を行う。  
授業は基本的に個人指導により進める。  
Max、DIPSの作品やプロジェクトへの応用を研究する

- 第1回 オリエンテーション(授業内容確認と研究計画)
- 第2回 各技術理解度確認、事例紹介
- 第3回 プロジェクト企画立案
- 第4回 プロジェクト遂行
- 第5回 プロジェクト遂行
- 第6回 プロジェクト遂行
- 第7回 中間報告会
- 第8回 プロジェクト遂行
- 第9回 プロジェクト遂行
- 第10回 プロジェクト遂行
- 第11回 中間報告会
- 第12回 プロジェクト仕上げ
- 第13回 プロジェクト仕上げ
- 第14回 プロジェクト仕上げ
- 第15回 補遺とまとめ、発表

#### ◆準備学習の内容◆

個人プロジェクトの遂行はもとより、関連分野のリサーチを怠らないこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内実習評価、アプリケーション、インタラクティブ・マルチメディア作品、またはマルチメディア・アート等に関する研究論文(テーマ等詳細は後日指定)提出。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配布資料

#### ◆参考図書◆

コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)  
Designing Sound(Andy Farnell/ The MIT Press)  
Electronic Music and Sound Design(Alessandro Cipriani/Contemponet)  
サウンドエフェクトのプログラミング—Cによる音の加工と音源合成(小坂 直敏)  
Nature of Code -Processingではじめる自然現象のシミュレーション-(ダニエル・シフマン)  
Beyond Interaction[改訂第2版]-クリエイティブ・コーディングのためのopenFrameworks実践ガイド(田所 淳)  
Tonal Pitch Space (Fred Lerdahl)  
ゼロから作るDeep Learning —Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装(斎藤 康毅)

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS715N		
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	古川 聖		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

20世紀に現れた新しいテクノロジー、ツールであるコンピュータは私たちの社会、生活、文化のみならず、我々の文明全体を方向を決定づけていると言える。その意味においてコンピュータ音楽を単に音楽のジャンルのなかでだけ捉えるのではなく、そこから生まれる新しい表現方法、音楽、美学については様々な視座から考察し調査する必要がある。それらの作業を通して来たるべきイノバティブなコンピュータ音楽像を探り、それを実践する方法の策定を試みる。

#### ◆授業内容・計画◆

本講座においては学生が主体になり、コンピューターのもつ表現の可能性を音楽を中心軸におき、調査、研究するのだが、講座の前半においては、そのための基礎的なリサーチデザインの学習を行い、調査のための方法、方法論を習得する。後半において各学生は選んだ事項、テーマ、作品などについて調査、発表しディスカッションを通して知見を深め、それを実践に移す方法を案出する。

- 第1回 オリエンテーション(授業目標説明と導入)
- 第2回 リサーチデザイン(1)
- 第3回 リサーチデザイン(2)
- 第4回 リサーチデザイン(3)
- 第5回 リサーチデザイン(4)
- 第6回 リサーチデザイン 発表(1)
- 第7回 リサーチデザイン 発表(2)
- 第8回 リサーチデザインのまとめとディスカッション
- 第9回 調査、研究発表(1)
- 第10回 調査、研究発表(2)
- 第11回 ディスカッション(1)
- 第12回 調査、研究発表(3)
- 第13回 調査、研究発表(4)
- 第14回 ディスカッション(2)
- 第15回 まとめ、最終ディスカッション

#### ◆準備学習の内容◆

自ら選んだテーマにそって調査、研究し発表に向けて準備する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内で指定される課題の遂行状況(調査と発表)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要な本、資料などは授業開始時に指示する。

#### ◆参考図書◆

リサーチデザイン、新・100の法則(BNN新社)、音楽の起源(上)、Nils Wollinほか(人間と社会社)、音楽のカルチュラルスタディーズ(アルテスパブリッシング)

#### ◆留意事項◆

履修定員:約10名

ナンバリング	MCS716N		
科目名	コンピュータ音楽研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	古川 聖		
学年	2年	クラス	O1
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

20世紀に現れた新しいテクノロジー、ツールであるコンピュータは私たちの社会、生活、文化のみならず、我々の文明全体を方向を決定づけていると言える。その意味においてコンピュータ音楽を単に音楽のジャンルのなかでだけ捉えるのではなく、そこから生まれる新しい表現方法、音楽、美学については様々な視座から考察し調査する必要がある。それらの作業を通して来たるべきイノバティブなコンピュータ音楽像を探り、それを実践する方法の策定を試みる。前期のコンピュータ音楽研究Ⅲの調査、研究の作業を継続する。

#### ◆授業内容・計画◆

本講座においては学生が主体になり、コンピューターのもつ表現の可能性を音楽を中心軸におき、調査、研究するのだが、各学生は選んだ事項、テーマ、作品などについて調査、発表しディスカッションを通して知見を深め、それを実践に移す方法を案出する。

第1回 オリエンテーション(授業目標説明と導入)

第2回 調査、研究発表(1)

第3回 調査、研究発表(2)

第4回 調査、研究発表(3)

第5回 ディスカッション(1)

第7回 調査、研究発表(4)

第8回 調査、研究発表(5)

第9回 ディスカッション(2)

第10回 調査、研究発表(6)

第11回 調査、研究発表(7)

第12回 調査、研究発表(8)

第13回 調査、研究発表(9)

第14回 ディスカッション(3)

第15回 まとめ、最終ディスカッション

#### ◆準備学習の内容◆

自ら選んだテーマにそって調査、研究し発表に向けて準備する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内で指定される課題の遂行状況(調査と発表)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要な本、資料などは授業開始時に指示する。

#### ◆参考図書◆

リサーチデザイン、新・100の法則(BNN新社)、音楽の起源(上)、Nils Wollinほか(人間と社会社)、音楽のカルチュラルスタディーズ(アルテスパブリッシング)

#### ◆留意事項◆

履修定員:約10名

履修条件:コンピュータ音楽研究Ⅲも合わせて履修のこと

ナンバリング	MCS717N		
科目名	ソルフェージュ研究 I		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-312	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

20世紀以降の作品を題材とし、広義のソルフェージュの概念を援用しつつテキストを読み込み、演奏解釈へどのように関連付けて実際の演奏の質を高めていくかを研究する。

#### ◆授業内容・計画◆

学生が取り上げる作品をクラスで共有し、様々な角度から、読譜、分析を行い、作品自体の音空間を考察する。次の段階として、その読取を自己の実演に対する批判的聴取を重ねることにより音響現象として実体化していく。通常のレパトリーでは扱いにくい、現代作品を中心に授業を展開する。また、数々の音楽が創造される現場を実際に体験することも企図している。

- 1) 作品選択のためのリサーチ前半
- 2) 作品選択のためのリサーチ後半
- 3) 作品に関する文献収集(日本語)
- 4) 作品に関する文献収集(外国語)
- 5) 作品演奏研究前半
- 6) 作品演奏研究後半
- 7) 通奏、相互評価
- 8) 第二の作品選択のためのリサーチ前半
- 9) 第二の作品選択のためのリサーチ後半
- 10) 第二の作品に関する文献収集(日本語)
- 11) 第二の作品に関する文献収集(外国語)
- 12) 第二の作品演奏研究前半
- 13) 第二の作品演奏研究後半
- 14) 第二の作品通奏、相互評価
- 15) 取り上げた二作品に対する総合評価

#### ◆準備学習の内容◆

1945年以降に作曲された作品について、興味を持ち楽譜、音の資料に常に接するように準備する。また、参考文献は英語、又は仏語となるので、これらの語学の基本的能力があることが望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に無し。

#### ◆参考図書◆

取り上げる作品により、その都度指定する。

#### ◆留意事項◆

実技の授業となるから事前に十分な準備をすること。

ナンバリング	MCS718N		
科目名	ソルフェージュ研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-312	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

20世紀以降の作品を題材とし、広義のソルフェージュの概念を援用しつつテキストを読み込み、結果としての演奏解釈を身に付ける。

#### ◆授業内容・計画◆

学生が取り上げる作品をクラスで共有し、様々な角度から、読譜、分析を行い、作品自体の音空間を考察する。次の段階として、その読取を自己の実演に対する批判的聴取を重ねることにより音響現象として実体化していく。通常のレパトリーでは扱いにくい、現代作品を中心に授業を展開する。また、数々の音楽が創造される現場を実際に体験することも企図している。

- 1) 作品選択のためのリサーチ前半
- 2) 作品選択のためのリサーチ後半
- 3) 作品に関する文献収集(日本語)
- 4) 作品に関する文献収集(外国語)
- 5) 作品演奏研究前半
- 6) 作品演奏研究後半
- 7) 通奏、相互評価
- 8) 第二の作品選択のためのリサーチ前半
- 9) 第二の作品選択のためのリサーチ後半
- 10) 第二の作品に関する文献収集(日本語)
- 11) 第二の作品に関する文献収集(外国語)
- 12) 第二の作品演奏研究前半
- 13) 第二の作品演奏研究後半
- 14) 第二の作品通奏、相互評価
- 15) 取り上げた二作品に対する総合評価

#### ◆準備学習の内容◆

1945年以降に作曲された作品について、興味を持ち楽譜、音の資料に常に接するように準備する。また、参考文献は英語、又は仏語となるので、これらの語学の基本的能力があることが望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に無し。

#### ◆参考図書◆

取り上げる作品により、その都度指定する。

#### ◆留意事項◆

実技の授業となるから事前に十分な準備をすること。

ナンバリング	MCL701U		
科目名	作曲家作品研究 I		
科目詳細			
担当教員	森垣 桂一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-16	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) 作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。  
(2) 修士論文、研究課題作成への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションできる。

#### ◆授業内容・計画◆

はじめに「作曲家の様式」「作品の分析」「プレゼンテーション」等について、音源・映像資料等を用いたレクチャーを行う。その後、個々の学生が最も興味のある作曲家の作品を分析し、それぞれが1～2回にわたって研究発表する。また毎回発表の内容について参加者全員で討議・討論をする。

- 第1回 オリエンテーション  
第2回 「作曲家の様式」について(1)  
第3回 「作品の分析」について(1)  
第4回 「プレゼンテーションについて(1)  
第5回 <学生1>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第6回 <学生2>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第7回 <学生3>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第8回 <学生4>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第9回 <学生5>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第10回 <学生6>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第11回 <学生7>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第12回 <学生8>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第13回 <学生9>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第14回 <学生10>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。プレゼンテーションの準備として、配布資料(内容は授業中に指導する)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取り組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配布する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL702U		
科目名	作曲家作品研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	森垣 桂一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-16	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- (1) 作曲家とその作品について問題意識を持って調査・研究し、楽曲分析等によって結論を導き出すことができる。  
(2) 修士論文、研究課題作成への材料となる課題を策定し、プレゼンテーションできる。

#### ◆授業内容・計画◆

「作曲家作品研究Ⅰ」の内容をさらに完成度を高め、継続する。

はじめに「作曲家の様式」「作品の分析」「プレゼンテーション」等について、音源・映像資料等を用いたレクチャーを行う。その後、個々の学生が最も興味のある作曲家の作品を分析し、それぞれが1年間に1～2回にわたって研究発表する。また毎回発表の内容について参加者全員で討議・討論をする。

- 第1回 オリエンテーション  
第2回 「作曲家の様式」について(2)  
第3回 「作品の分析」について(2)  
第4回 「プレゼンテーションについて(2)  
第5回 <学生1>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第6回 <学生2>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第7回 <学生3>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第8回 <学生4>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第9回 <学生5>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第10回 <学生6>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第11回 <学生7>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第12回 <学生8>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第13回 <学生9>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第14回 <学生10>のプレゼンテーションと全体での質疑応答  
第15回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自研究発表に向けて、研究と分析を十分にしておくこと。プレゼンテーションの準備として、配布資料(内容は授業中に指導する)を作成し、取り上げる楽曲の音源、楽譜等を用意しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

研究発表の内容、平常の授業への取組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配布する。

#### ◆参考図書◆

授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL703U		
科目名	音楽テクノロジー I		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

このコース期間中に、学生は：(1)音楽作品の分析又は批評に関する能力を養う；(2)英語文献を利用して音楽制作等に対する研究を行うための能力を養う；及び(3)会話・文書・聴解の熟練を利用して効果的に英語で自分の考えや意見を述べる。 Over the duration of this course, students will: (1) develop their ability to analyze and critique musical works; (2) develop their skills to carry out research on composition-related topics using English-language sources and references; and (3) effectively articulate and exchange their own thoughts and ideas in English using oral, written, and listening skills.

#### ◆授業内容・計画◆

この授業では電子音楽及びサウンド・アートに関するテーマを検討して、音楽技法又は分析に対して研究を行う。  
In this class we will investigate themes related to electroacoustic music and sound art, carrying out research concerning musical techniques and analysis.

毎回、学生が1～2個の作品又は作曲家の記事(英文)に対して話し合いを行い、これらは自分の音楽活動に何を教えるかを考察する。  
During each week, students will have discussions about one or two musical works or written articles by composers and consider how these might inform their own musical activities.

この授業は詳しい聴聴、自由の対話又は活動(作文、製図等)を通じて集合的な意味付けることも奨励する。  
The class also encourages collective meaning-making through sustained looking, detailed listening, open-ended dialogues and activities (writing and sketching).

- [1] General Introduction and Overview
- [2] Listening maps and other analytical methods
- [3] Listening maps and other analytical methods
- [4] Listening maps and other analytical methods
- [5] Listening maps and other analytical methods
- [6] Reading English-language academic articles
- [7] Reading English-language academic articles
- [8] Researching topics in English-language academic journals
- [9] Researching topics in English-language academic journals
- [10] Researching topics in English-language academic journals
- [11] Researching topics in English-language academic journals
- [12] Researching topics using other materials
- [13] Researching topics using other materials
- [14] Researching topics using other materials
- [15] Assignment: Create a bibliography in English on a chosen topic

#### ◆準備学習の内容◆

毎回の授業を準備するため、学生が選んだ作品を聞き、文献を集め、又は英文の記事を読む。  
Each week, students listen to the assigned works, gather reference materials, or read an English article.

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取組み: 20%(ディスカッションにおける積極性などを総合的に評価)  
課題等の取組み: 40%(作文、プレゼンテーション)  
ポートフォリオ: 40%(音楽分析の図)  
評価基準については初回の授業時に具体例を示して詳述する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

無し

#### ◆参考図書◆

論文誌:『Computer Music Journal』、『Contemporary Music Review』、『Journal of New Music Research』、『Leonardo Music Journal』、『Organised Sound』、『Perspectives of New Music』、『Tempo』等  
著書:  
『The Oxford Handbook of Computer Music』Dean, Roger T. (2009, Oxford University Press)  
『The Digital Musician』Hugill, Andrew (2008, Routledge)  
『Understanding the Art of Sound Organization』Landy, Leigh (2007, MIT Press)  
『The Tuning of the World/世界の調律: サウンドスケープとはなにか』Schafer, R. Murray (1977, Knopf/2006, 平凡社)  
その他

#### ◆留意事項◆

この授業は英語で行う。  
Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities.



ナンバリング	MCL704U		
科目名	音楽テクノロジーⅡ		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

このコース期間中に、学生は：(1)音楽作品の分析又は批評に関する能力を養う；(2)英語文献を利用して音楽制作等に対する研究を行うための能力を養う；及び(3)会話・文書・聴解の熟練を利用して効果的に英語で自分の考えや意見を述べる。 Over the duration of this course, students will: (1) develop their ability to analyze and critique musical works; (2) develop their skills to carry out research on composition-related topics using English-language sources and references; and (3) effectively articulate and exchange their own thoughts and ideas in English using oral, written, and listening skills.

#### ◆授業内容・計画◆

この授業では電子音楽及びサウンド・アートに関するテーマを検討して、音楽技法又は分析に対して研究を行う。  
In this class we will investigate themes related to electroacoustic music and sound art, carrying out research concerning musical techniques and analysis.

毎回、学生が1～2個の作品又は作曲家の記事(英文)に対して話し合いを行い、これらは自分の音楽活動に何を教えるかを考察する。  
Each week, students will have discussions about one or two musical works or written articles by composers and consider how these might inform their own musical activities.

この授業は詳しい聴聴、自由の対話又は活動(作文、製図等)を通じて集会的な意味付けることも奨励する。  
The class also encourages collective meaning-making through detailed listening, open-ended dialogues and activities (writing and sketching).

- [1] Review
- [2] Topics related to composition and research
- [3] Topics related to composition and research
- [4] Topics related to composition and research
- [5] Topics related to composition and research
- [6] Guidance for paper topics
- [7] Review of research techniques
- [8] Student-driven topic discussions
- [9] Student-driven topic discussions
- [10] Student-driven topic discussions
- [11] Student-driven topic discussions
- [12] Student topic presentations
- [13] Student topic presentations
- [14] Student topic presentations
- [15] Student topic presentations and final reports

#### ◆準備学習の内容◆

毎回の授業を準備するため、学生が選んだ作品を聞き、文献を集め、又は英文の記事を読む。  
Each week, students listen to the assigned works, gather reference materials, or read an English article.

#### ◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み：20%(ディスカッションにおける積極性などを総合的に評価)  
課題等の取り組み：40%(口頭発表、プレゼンテーション)  
レポート：40%(小論文、発表原稿)  
評価基準については初回の授業時に具体例を示して詳述する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

無し

#### ◆参考図書◆

論文誌：『Computer Music Journal』、『Contemporary Music Review』、『Journal of New Music Research』、『Leonardo Music Journal』、『Organised Sound』、『Perspectives of New Music』、『Tempo』等  
著書：  
『The Oxford Handbook of Computer Music』Dean, Roger T. (2009, Oxford University Press)  
『The Digital Musician』Hugill, Andrew (2008, Routledge)  
『Understanding the Art of Sound Organization』Landy, Leigh (2007, MIT Press)  
『The Tuning of the World/世界の調律：サウンドスケープとはなにか』Schafer, R. Murray (1977, Knopf/2006, 平凡社)  
その他

#### ◆留意事項◆

この授業は英語で行う。  
Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities.

ナンバリング	MCS719U		
科目名	スコア・リーディング I		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-312	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

複数(多段)の譜表を同時に読み込み、ピアノで演奏することにより、スコアリーディングの能力はもとより、読譜力の向上も図る

#### ◆授業内容・計画◆

平易な音部記号に始まり、七種類の音部記号それぞれの読譜に習熟したのち、それらを総合的に扱う。

- 1) ト音記号2つ
- 2) ト音記号3つ
- 3) バス記号2つ
- 4) バス記号3つ
- 5) ト音記号とバス記号による大譜表 前半
- 6) ト音記号とバス記号による大譜表 後半
- 7) 混声合唱のレダクション1(調的なもの) 前半
- 8) 混声合唱のレダクション2(調的なもの) 後半
- 9) 混声合唱のレダクション3(調的ではないもの) 前半
- 10) 混声合唱のレダクション4(調的ではないもの) 後半
- 11) 一つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 前半
- 12) 一つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 後半
- 13) 二つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 前半
- 14) 二つの非移調楽器とピアノによる作品の独奏声部の嵌入 後半
- 15) 当該期における問題点の抽出、反省

#### ◆準備学習の内容◆

ピアノが演奏できるように、常に準備しておくこと。日常的基礎練習が望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

課題への理解度及び、授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

実作品を用いるので、その都度履修学生と相談しながら決定する。

#### ◆参考図書◆

特段指定しない

#### ◆留意事項◆

段階的に学習していくので、欠席をしないこと

ナンバリング	MCS720U		
科目名	スコア・リーディングⅡ		
科目詳細			
担当教員	板倉 康明		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-312	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

今まで学習した能力を用い、移調楽器を含む総譜がピアノ上で演奏できるようにする

#### ◆授業内容・計画◆

当期よりト音記号、バス記号以外も扱う。より、複雑な楽譜への対応。

- 1) アルト記号の読譜
- 2) ヴィオラの楽譜の演奏
- 3) メゾソプラノ記号の読譜
- 4) in Fの移調楽器の楽譜の演奏
- 5) ソプラノ記号の読譜
- 6) in Aの移調楽器の楽譜の演奏
- 7) テノール記号の読譜
- 8) in Bの移調楽器の楽譜の演奏
- 9) バリトン記号の読譜
- 10) in Gの移調楽器の楽譜の演奏
- 11) 移調楽器を含むトリオの演奏
- 12) 移調楽器を含む四重奏の演奏
- 13) 移調楽器を含む五重奏の演奏
- 14) 実作品のスコア(古典派まで)の演奏
- 15) 実作品のスコア(近代まで)の演奏

#### ◆準備学習の内容◆

ピアノが演奏できるように、常に準備しておくこと。日常的基礎練習が望ましい。

#### ◆成績評価の方法◆

課題への理解度及び、授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
その他、授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

実作品を用いるので、その都度履修学生と相談しながら決定する。

#### ◆参考図書◆

特に指定しない

#### ◆留意事項◆

段階的に学習していくので、欠席をしないこと

ナンバリング	MCS721U		
科目名	フーガ実習 I		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-306	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

ヨーロッパ音楽の根幹である対位法、その技法と精神を自ら「フーガを書く」ことで体験してゆきます。

#### ◆授業内容・計画◆

フーガ作曲が初めての学生と、すでに経験のある学生、習熟した学生が混在するクラスです。学生各自の進度や技量によって内容はおのずと異なります。

- ① 特に進んだ学生は、二重フーガや器楽のフーガの作曲も視野に入れてレッスンします。
- ②すでにフーガを作曲したことのある学生は、各自のペースで「学習フーガ」を作曲します。
- ③ 初心者の場合には、少しずつ「学習フーガ」の技法を体得してゆき、7月に予定の試演を目指して1曲完成をめざします。

随時、ヘンデル、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン等のフーガを分析する時間を持ちたいと考えています。

また、「フーガ演奏会」等にて作品を試演しますので、それを通じて「作曲」と「演奏」の間にある様々なことについても学んで下さい。

初心者向きの進度は概ね、

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学習フーガの分析と全体の把握、用語の理解(1)
- 第3回 学習フーガの分析と全体の把握、用語の理解(2)学習フーガと「フーガ」の相違点
- 第4回 主題群の準備(1) 長調・変応なし(A)
- 第5回 主題群の準備(2) 短調・変応なし (B)
- 第6回 主題群の準備(3) 長調・短調 変応あり(C)
- 第7回 主要提示の作成(1) 上記(A)と(B)
- 第8回 主要提示の作成(2) 上記(C)
- 第9回 喜遊部と副提示部の作成(1)(A)を用いて
- 第10回 喜遊部と副提示部の作成(2)(B)を用いて
- 第11回 喜遊部と副提示部の作成(3)(C)を用いて
- 第12回 追迫の作成(1) (A)を用いて
- 第13回 追迫の作成(2) (B)を用いて
- 第14回 追迫の作成(3) (C)を用いて
- 第15回 まとめ

で進めます。

#### ◆準備学習の内容◆

各自がしっかりと事前にフーガ課題を書き進めて授業に臨んでください。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS722U		
科目名	フーガ実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-306	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

「よく構築された書法」に習熟すべくフーガ作曲を試みます。

#### ◆授業内容・計画◆

フーガ実習Ⅰの指導方針で開講します。

フーガ演奏会を視野に入れ、「楽器で演奏する」ことを十分に考慮してフーガを作曲してゆきます。

分析についても随時とりいれてゆきます。

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 フーガ演奏会むけの作品作成(1) 主題群の準備
  - 第3回 フーガ演奏会むけの作品作成(2) 主要提示の作曲
  - 第4回 フーガ演奏会むけの作品作成(3) 副提示部の作曲(前半)
  - 第5回 フーガ演奏会むけの作品作成(4) 副提示部の作曲(後半)
  - 第6回 フーガ演奏会むけの作品作成(5) 追白部の作曲
  - 第7回 フーガ演奏会むけの作品作成(6) 全体への手入れ
  - 第8回 フーガ演奏会むけの作品作成(7) パート譜の作成・スコア浄書
  - 第9回 別の主題によるフーガ(1) 主題群の準備
  - 第10回 別の主題によるフーガ(2) 主要提示の作曲
  - 第11回 別の主題によるフーガ(3) 副提示部の作曲(前半)
  - 第12回 別の主題によるフーガ(4) 副提示部の作曲(後半)
  - 第13回 別の主題によるフーガ(5) 追白部の作曲
  - 第14回 別の主題によるフーガ(6) 全体への手入れ
  - 第15回 まとめ
- で進めます。

#### ◆準備学習の内容◆

各自がしっかりと事前にフーガ課題を書き進めて授業に臨んでください。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。  
授業内で随時課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS723U		
科目名	和声実習 I		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

修士課程レベルでのバロックから19世紀にいたる和声法の知識と様式の把握を目標とする

#### ◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的なアプローチの方法を考察していく。

1. 授業ガイダンス
2. 和声法の歴史(概論)
3. 和声法の著作の歴史的概観
4. 通奏低音法について
5. 通奏低音の実施(バロック様式)
6. 通奏低音の実施(古典派様式)
7. 通奏低音の実施(ロマン派様式)
8. フランス和声について(概論)
9. フランス和声の実践(シャラン)
10. フランス和声の実践(フォーシェ)
11. フランス和声の実践(ギャロン)
12. フランス和声の実践(ビッチュ)
13. バッハの和声様式 (バス課題)
14. バッハの和声様式 (ソプラノ課題)
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

準備学習: 学部で学んできた和声法課題実施の復習

予習: 各回の項目について関わりのあるものを予め教科書を使い読んでおく。(20分)

復習: 授業で学んだ課題や内容についてもう一度見直し、足りない箇所を覚える。(30分)

#### ◆成績評価の方法◆

担当教員による筆記試験の成績と平常点の総合評価による。

随時授業内で課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

#### ◆参考図書◆

『新しい和声』 林達也著 アルテスパブリッシング社

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MCS724U		
科目名	和声実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

修士課程レベルでの19世紀後半から20世紀にいたる和声法の知識と様式の把握

#### ◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的アプローチの方法を考察していく。特に後期は各々の論文と関係づけられた作曲家と作品についての研究もおこなう。

1. モーツァルトの和声様式『概論』
2. モーツァルトの和声様式『バス課題』の実習
3. モーツァルトの和声様式『ソプラノ課題』の実習
4. シューマンの和声様式『概論』
5. シューマンの和声様式『ソプラノ課題』の実習
6. シューマンの和声様式『作品分析』
7. ヴァーグナーの和声様式『概論』
8. ヴァーグナーの和声様式『作品分析』
9. ヴァーグナーの和声様式『ソプラノ課題』実習
10. フォーレの和声様式『概論』
11. フォーレの和声様式『作品分析』
12. フォーレの和声様式『ソプラノ課題』の実習
13. ドビュシーの和声様式『概論』
14. ラヴェルの和声様式『概論』
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

準備学習: 前期で学んだ様式を含む和声法課題実施の復習

予習: 各回で取り上げられる作曲家の主要作品について予め読譜しておく。(20分)

復習: 授業で学んだ項目と内容について再度不十分な点があればノートを見直して覚える。(30分)

#### ◆成績評価の方法◆

担当教員による筆記試験の成績と平常点の総合評価による。

随時授業内で課題を出しフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『新しい和声』林達也著 アルテスパブリッシング社

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MCS725U		
科目名	古典対位法 I		
科目詳細			
担当教員	岩河 智子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-31	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

1)16世紀ルネサンスの作曲家パレストリーナを範とし、線的対位法を実習する。2)和声を基盤とするバッハの対位法とは異なり、パレストリーナは純粋に旋律どうしの美しい絡み合いを追求した。この対位法を実習することで「線」に対する感覚を養いたい。3)長調短調が確立される前の教会旋法によるこの対位法は、機能と和声からの脱却を試みた近代の作曲家の音楽語法を理解するのにも役立つ事と思う。4)パレストリーナのミサ曲に代表されるように、線的対位法は声楽曲として発展した。そのため「うた」の要素を忘れてはならない。歌いながら作曲してほしい。5)作曲専攻の学生のみならず演奏専攻の学生も十分実施出来る内容なので是非履修してほしい。

#### ◆授業内容・計画◆

- 2声の線的対位法を実習する。与えられた定旋律に対旋律を作曲する。
- 全音符から始まり、2分音符、4分音符、移勢(シンコペーション)と様々なリズムで対旋律を書いてゆく。
- それらを総合して作曲する混合対位法では、美しく変化に富んだ流れるような旋律が生まれるだろう。
- さらに、ラテン語の歌詞に旋律を付ける自由対位法へとすすむ。
- これらの実習はまったく各人のペースで行ってゆく。それぞれじっくり取り組んで欲しい。
- 「うた」をもとにした対位法なので、しばしば実施した課題を合唱する。  
実施の目安を記す

- 第1回:2声、全音符対位法(1)  
 第2回:全音符対位法(2)  
 第3回:二分音符対位法(1)  
 第4回:二分音符対位法(2)  
 第5回:四分音符対位法(1)  
 第6回:四分音符対位法(2)  
 第7回:パレストリーナのミサ曲の分析  
 第8回:移勢対位法(1)  
 第9回:移勢対位法(2)  
 第10回:混合対位法(1)  
 第11回:混合対位法(2)  
 第12回:自由対位法(1)ラテン語の歌詞の扱い方について  
 第13回:自由対位法(2)  
 第14回:模倣(1)  
 第15回:模倣(2)

#### ◆準備学習の内容◆

- 授業で解説した対位法を、実際に自分で実習することが大事です。自分のペースで課題を実習して来てください。
- 授業で取り上げた例題や、お手本となる課題をピアノで弾いて、美しさを確かめてください。

#### ◆成績評価の方法◆

試験は特に行わない。毎時間、課題の実施を添削することで、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、コピーを配布)

#### ◆参考図書◆

「イエッペセン対位法」クヌート・イエッペセン著、音楽之友社

#### ◆留意事項◆



ナンバリング	MCS726U		
科目名	古典対位法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	岩河 智子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-31	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

1)16世紀ルネサンスの作曲家パレストリーナを範とし、線的対位法を実習する。2)和声を基盤とするバッハの対位法とは異なり、パレストリーナは純粋に旋律どうしの美しい絡み合いを追求した。この対位法を実習することで「線」に対する感覚を養いたい。3)長調短調が確立される前の教会旋法によるこの対位法は、機能と声からの脱却を試みた近代の作曲家の音楽語法を理解するのにも役立つ事と思う。4)パレストリーナのミサ曲に代表されるように、線的対位法は声楽曲として発展した。そのため「うた」の要素を忘れてはならない。歌いながら作曲して欲しい。

#### ◆授業内容・計画◆

1)前期に引き続き実習を進める。2声を終了した者は、さらに3声、4声とすすんでゆく。  
2)この対位法は作曲専攻の学生のみならず、演奏専攻の学生にもぜひ履修してほしいものである。なぜなら、旋律をうたい奏するための「線」に対する感覚」を鍛えることが出来るからである。対位法を勉強すると、楽譜の見方が変わってくると思う。演奏や音楽指導にぜひ対位法で学んだ感覚を活かしてほしい。

- 第1回:3声、全音符対位法(1)
- 第2回:全音符対位法(2)
- 第3回:二分音符対位法(1)
- 第4回:二分音符対位法(2)
- 第5回:四分音符対位法(1)
- 第6回:四分音符対位法(2)
- 第7回:二分音符四分音符の結合(1)
- 第8回:二分音符四分音符の結合(2)
- 第9回:移勢対位法(1)
- 第10回:移勢対位法(2)
- 第11回:四分音符と移勢の結合(1)
- 第12回:四分音符と移勢の結合(2)
- 第13回:混合対位法
- 第14回:自由対位法
- 第15回:模倣

#### ◆準備学習の内容◆

- 1)授業で解説した対位法を、実際に自分で実習することが大事です。自分のペースで課題を実習して来てください。
- 2)授業で取り上げた例題や、お手本となる課題をピアノで弾いて、美しさを確かめてください。

#### ◆成績評価の方法◆

試験は特に行わない。毎時間、課題の実施を添削することで、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

「ルネッサンス対位法」増田宏三著、国立音楽大学出版(絶版につき、コピーを配布)

#### ◆参考図書◆

「イエツペセン対位法」クヌート・イエツペセン著、音楽之友社

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCL705U		
科目名	原典講読(作曲) I		
科目詳細			
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

英語で書かれた音楽書の一部、論文等を輪読する。20世紀音楽に関する著作を中心とする教材で、異なったタイプの複数の文章を解読して、履修以前より少しでも速く正確に翻訳できる力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

進度は履修者の英語力次第だが、必ず毎回、文章を分担する。

- 第1週 履修者の英語の読解力の確認、教材選び(3点程度)
- 第2週 輪読(1) 教材1の読み始め
- 第3週 輪読(2) 教材1の読解
- 第4週 輪読(3) 教材1の読解続き
- 第5週 輪読(4) 教材1のまとめ
- 第6週 輪読(5) 教材2の読み始め
- 第7週 輪読(6) 教材2の読解
- 第8週 輪読(7) 教材2の読解続き
- 第9週 輪読(8) 教材2のまとめ
- 第10週 輪読(9) 教材3の読み始め
- 第11週 輪読(10)教材3の読解
- 第12週 輪読(11)教材3の読解続き
- 第13週 輪読(12)教材3のまとめ
- 第14週 輪読(13)教材1, 2, 3の復習
- 第15週 前期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

輪読する本や論文を毎回、分担し、事前に辞書を引きながら読解してくる。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での輪読によって評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業でコピーを配付する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

毎回、必ず分担して英文を読むので、予習の時間が必要である。

ナンバリング	MCL706U		
科目名	原典講読(作曲)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	白石 美雪		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

英語で書かれた音楽書の一部、論文等を輪読する。20世紀音楽に関する著作を中心とする教材で、異なったタイプの複数の文章を解読して、履修以前より少しでも速く正確に翻訳できる力をつける。

#### ◆授業内容・計画◆

進度は履修者の英語力次第だが、必ず毎回、文章を分担する。

- 第1週 履修者の英語の読解力の確認、教材選び(3点程度)
- 第2週 輪読(1) 教材1の読み始め
- 第3週 輪読(2) 教材1の読解
- 第4週 輪読(3) 教材1の読解続き
- 第5週 輪読(4) 教材1のまとめ
- 第6週 輪読(5) 教材2の読み始め
- 第7週 輪読(6) 教材2の読解
- 第8週 輪読(7) 教材2の読解続き
- 第9週 輪読(8) 教材2のまとめ
- 第10週 輪読(9) 教材3の読み始め
- 第11週 輪読(10)教材3の読解
- 第12週 輪読(11)教材3の読解続き
- 第13週 輪読(12)教材3のまとめ
- 第14週 輪読(13)教材1, 2, 3の復習
- 第15週 後期のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

輪読する本や論文を毎回、分担し、事前に辞書を引きながら読解してくる。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内での輪読によって評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

授業でコピーを配付する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

毎回、必ず分担して英文を読むので、予習の時間が必要である。

ナンバリング	MCS727U		
科目名	楽曲分析 I		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-304	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

近現代音楽作品の、重要かつ独創性に富む楽曲を取り上げ、その作曲技法や作曲家の創意や音楽観を考察し研究する。分析は作品の理解を助けるものであるが、履修生の個々の研究領域においても、その結果が還元されるような、よい影響をもたらす時間としたい。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・履修生は年に1、2回、各自が関心を持つ楽曲の発表を行う。それに基づき、皆で更に研究を深め、議論し、その真価を考察する。
- ・以下に示す作品は履修生の状況によって変更しうる。

- ①オリエンテーション
- ②メシアン(1)
- ③メシアン(2)
- ④メシアン(3)
- ⑤履修生の発表(1)
- ⑥前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑦履修生の発表(2)
- ⑧前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑨履修生の発表(3)
- ⑩前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑪履修生の発表(4)
- ⑫前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑬ベソン(1)
- ⑭ベソン(2)
- ⑮ベソン(3)

#### ◆準備学習の内容◆

大学院という高い専門性が求められるステージにおいて、日頃から各自の音楽の関心事を整理し、楽曲を用意、研究しておく姿勢が望ましい。授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS728U		
科目名	楽曲分析Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	斉木 由美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-304	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

近現代音楽作品の、重要かつ独創性に富む楽曲を取り上げ、その作曲技法や作曲家の創意や音楽観を考察し研究する。分析は作品の理解を助けるものであるが、履修生の個々の研究領域においても、その結果が還元されるような、よい影響をもたらす時間としたい。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・履修生は年に1、2回、各自が関心を持つ楽曲の発表を行う。それに基づき、皆で更に研究を深め、議論し、その真価を考察する。
- ・以下に示す作品は履修生の状況によって変更しうる。

- ①オリエンテーション
- ②ラッヘンマン(1)
- ③ラッヘンマン(2)
- ④ラッヘンマン(3)
- ⑤履修生の発表(5)
- ⑥前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑦履修生の発表(6)
- ⑧前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑨履修生の発表(7)
- ⑩前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑪履修生の発表(8)
- ⑫前回の発表を基に研究を深め議論する。
- ⑬シャリーノ(1)
- ⑭シャリーノ(2)
- ⑮シャリーノ(3)

#### ◆準備学習の内容◆

大学院という高い専門性が求められるステージにおいて、日頃から各自の音楽の関心事を整理し、楽曲を用意、研究しておく姿勢が望ましい。授業には自主的、積極的な参加意欲が求められる。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MCS729U		
科目名	作曲特殊研究 I		
科目詳細			
担当教員	井上 郷子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

「演奏」という視点から、音楽作品の解釈と表現について考えることは、自らの音楽について考察を深めるためのひとつの指針となる。過去から現代に至る様々なスタイルの音楽について、演奏における作品解釈と表現方法の実際的な面を研究することにより、自分自身が拠って立つ美学的な視点を明確にできるようにし、創作活動に役立てることができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

グループ授業の特質を生かし、作品解釈のための研究、ディスカッション、鑑賞、実演をまじえながら授業を行なう。

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 課題曲1-1「ピアノソロ作品」: 作曲様式の研究
- 第3回: 課題曲1-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第4回: 課題曲1-3: 奏法と表現の可能性の探求
- 第5回: 課題曲1-4: 実演
- 第6回: 課題曲2-1「ピアノ4手作品」: 作曲様式の研究
- 第7回: 課題曲2-2: 作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第8回: 課題曲2-3: 奏法と表現の可能性の探求
- 第9回: 課題曲2-4: 実演
- 第10回: 課題曲3-1「2台ピアノ作品」: 作曲様式の研究
- 第11回: 課題曲3-2: 作品解釈そ及びディスカッション、鑑賞
- 第12回: 課題曲3-3: 奏法と表現の可能性の探求その1
- 第13回: 課題曲3-4: 奏法と表現の可能性の探求その2
- 第14回: 課題曲3-5: 実演
- 第15回: まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる楽曲を練習し、作曲家について調べておくこと。(両方で毎日目安60分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末のまとめの演奏を評価しフィードバックを行なうこと、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

#### ◆参考図書◆

授業内で指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MCS730U		
科目名	作曲特殊研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	井上 郷子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

「演奏」という視点から、音楽作品の解釈と表現について考えることは、自らの音楽について考察を深めるための一つの指針となる。過去から現代に至る様々なスタイルの音楽について、演奏における作品解釈と表現方法の実際的な面を研究することにより、自分自身が拠って立つ美学的な視点を明確にできるようにし、創作活動に役立てることができるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

グループ授業の特質を生かし、作品解釈のための研究、ディスカッション、鑑賞、実演をまじえながら授業を行なう。

- 第1回：課題曲1-1「ソロ楽器作品」：作曲様式の研究
- 第2回：課題曲1-2：作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第3回：課題曲1-3：奏法と表現の可能生の探求その1
- 第4回：課題曲1-4：奏法と表現の可能性の探求その2
- 第5回：課題曲1-5：実演
- 第6回：課題曲2-1「アンサンブル作品」：作曲様式の研究
- 第7回：課題曲2-2：作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第8回：課題曲2-3：奏法と表現の可能生の探求
- 第9回：課題曲2-4：実演
- 第10回：課題曲3-1「ピアノソロ作品」：作曲様式の研究
- 第11回：課題曲3-2：作品解釈及びディスカッション、鑑賞
- 第12回：課題曲3-3：奏法と表現の可能生の探求その1
- 第13回：課題曲3-4：奏法と表現の可能性の探求その2
- 第14回：課題曲3-5：実演
- 第15回：まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる楽曲を練習し、作曲家について調べておくこと。(両方で毎日目安60分)

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価しフィードバックすること、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

#### ◆参考図書◆

授業内に指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MPL701N		
科目名	音楽教育学研究 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育学に関する専門的な知識を身につけ、さらにその関連領域について理解する。(2)音楽教育研究の専門性を踏まえ、その範囲や方法について理解する。(3)各自の研究課題を設定して資料収集を行う。(4)自分の研究課題に適切な研究メソッドを開発する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:音楽教育音楽における研究とは
2. 哲学的アプローチ
3. 心理学的アプローチ
4. 社会学的アプローチ
5. カリキュラム研究
6. 演奏指導方とパフォーマンスに関する研究
7. 歴史研究
8. 音楽教育方法と実践研究
9. 比較教育学
10. 音楽教育学における量的・質的アプローチ
11. 研究テーマと研究メソッドの考察
12. 先行研究のリスト作成
13. 先行研究の概要
14. 文献・資料、その他の情報のリスト作成
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究課題に則って文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

課題研究への取り組みと、課題発表の内容や成果により、総合的に評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料等を配布する。

#### ◆参考図書◆

随時、紹介する。

#### ◆留意事項◆

2年間で修士論文を完成するために、各自が明確な研究課題を持ち、そのテーマについて熟考を重ねていくことが必要である。



ナンバリング	MPL702N		
科目名	音楽教育学研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育学の理論と実践に基づいた研究方法について、専門的に理解する。(2)理論の構築とそれを検証するフィールドワークの関連について、専門的に理解する。(3)専門的な研究を自立して行うための基本的な内容を理解する。(4)課題研究を発展させて、修士論文を完成させるための段取りや手順について理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション: 課題研究発表にむけてのスケジュール確認
2. 課題研究のテーマと研究の範囲の確定
3. 研究メソッドの確認
4. 理論とフィールドワーク
5. 研究の動機、研究の目的、研究の方法
6. 章立てと構成
7. 文章のまとめ方と論旨の一貫性
8. 課題研究の中間発表とディスカッション
9. 資料・引用文献の使い方
10. 文献・資料からの引用と脚注
11. 文献・資料・情報の整理と参考文献の提示
12. 自らの研究過程の省察
13. 発表とディスカッション
14. 課題研究を基礎とした修士論文の概要
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

コンピュータを使って課題研究を執筆できるようにしておく。収集した資料は必要に応じて、電子化して保存することができるようにしておく。研究発表会にむけて、パワーポイント等の基本的なプレゼンテーションの仕方をマスターしておく。

#### ◆成績評価の方法◆

課題研究への取り組みと、課題研究の内容や成果により総合的に評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。

#### ◆参考図書◆

随時、紹介する。

#### ◆留意事項◆

自分の研究テーマの特質に合わせて準備を万全に整え、ゆとりを持って課題研究の発表にのぞむこと。

ナンバリング	MPL703N		
科目名	音楽教育学研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育学に関する専門的な知識を身につけ、さらにその関連領域について理解する。(2)音楽教育研究の専門性を踏まえ、その範囲や方法について理解する。(3)各自の研究課題を設定して資料収集を行う。(4)自分の研究課題に適切な研究メソッドを開発する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:音楽教育学における研究とは
2. 哲学的アプローチ
3. 心理学的アプローチ
4. 社会学的アプローチ
5. カリキュラム研究
6. 演奏指導方とパフォーマンスに関する研究
7. 歴史研究
8. 音楽教育方法と実践研究
9. 比較教育学
10. 音楽教育学における量的・質的アプローチ
11. 研究テーマと研究メソッドの考察
12. 先行研究のリスト作成
13. 先行研究の概要
14. 文献・資料、その他の情報のリスト作成
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

各自の研究課題に則って文献や関連資料を収集し、内容を読み込んで整理しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

課題研究への取り組みと、課題発表の内容や成果により、総合的に評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料等を配布する。

#### ◆参考図書◆

随時、紹介する。

#### ◆留意事項◆

2年間で修士論文を完成するために、各自が明確な研究課題を持ち、そのテーマについて熟考を重ねていくことが必要である。

ナンバリング	MPL704N		
科目名	音楽教育学研究IV		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育学の理論と実践に基づいた研究方法について、専門的に理解する。(2)理論の構築とそれを検証するフィールドワークの関連について、専門的に理解する。(3)専門的な研究を自立して行うための基本的な内容を理解する。(4)課題研究を発展させて、修士論文を完成させるための段取りや手順について理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:課題研究発表にむけてのスケジュール確認
2. 課題研究のテーマと研究の範囲の確定
3. 研究メソッドの確認
4. 理論とフィールドワーク
5. 研究の動機、研究の目的、研究の方法
6. 章立てと構成
7. 文章のまとめ方と論旨の一貫性
8. 課題研究の中間発表とディスカッション
9. 資料・引用文献の使い方
10. 文献・資料からの引用と脚注
11. 文献・資料・情報の整理と参考文献の提示
12. 自らの研究過程の省察
13. 発表とディスカッション
14. 課題研究を基礎とした修士論文の概要
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

コンピュータを使って課題研究を執筆できるようにしておく。収集した資料は必要に応じて、電子化して保存することができるようにしておく。研究発表会にむけて、パワーポイント等の基本的なプレゼンテーションの仕方をマスターしておく。

#### ◆成績評価の方法◆

課題研究への取り組みと、課題研究の内容や成果により総合的に評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。

#### ◆参考図書◆

随時、紹介する。

#### ◆留意事項◆

自分の研究テーマの特質に合わせて準備を万全に整え、ゆとりを持って課題研究の発表にのぞむこと。

ナンバリング	MPL713U		
科目名	音楽教育研究法 I		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-112(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育研究のさまざまな方法について理解する。(2)内外の代表的な音楽教育研究に関する知識を得る。(3)最近の音楽教育研究の動向を知る。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス:授業の内容とスケジュール確認
2. 音楽教育研究と倫理
3. 音楽教育研究の手法:量的研究
4. 音楽教育研究の手法:質的研究
5. 音楽教育研究の手法:歴史的研究
6. 音楽教育研究の手法:民族誌的研究
7. 音楽教育研究の手法:パフォーマンスの教育学的研究
8. 音楽教育に関する内外の研究動向(1):認知
9. 音楽教育に関する内外の研究動向(2):表現
10. 音楽教育に関する内外の研究動向(3):鑑賞
11. 調査とデータ収集(1):方法の検討
12. 調査とデータ収集(2):手続き
13. 調査とデータ収集(3):データの分析
14. レポート課題の設定
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだうえで授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポート課題の成果などを総合して評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MPL714U		
科目名	音楽教育研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-112(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)自分の研究課題のための研究方法を洗濯する。(2)修士論文の作成に日知ような文献を収集・講読し、改題する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. レポートの発表
2. 修士論文の構想と討議(1)先行研究のリビュー
3. 修士論文の構想と討議(2)独自性は？
4. 資料の収集と整理(1)図書館ガイダンス
5. 資料の収集と整理(2)文献検索
6. 関連する文献の講読と検討(1)分担要約
7. 関連する文献の講読と検討(2)要約発表
8. 関連する文献の講読と検討(3)討論
9. 関連する文献の講読と検討(4)分担要約と図表化
10. 関連する文献の講読と検討(5)要約の発表
11. 関連する文献の講読と検討(6)討論とその整理
12. 関連する文献の講読と検討(7)分担執筆
13. 関連する文献の講読と検討(8)分担執筆の内話討論
14. 関連する文献の講読と検討(9)分担執筆の整理
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだうえで授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表と成果などを総合して評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MPL715U		
科目名	音楽教育研究法Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-112(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)音楽教育研究のさまざまな方法について理解する。(2)内外の代表的な音楽教育研究に関する知識を得る。(3)最近の音楽教育研究の動向を知る。

#### ◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス:授業の内容とスケジュール確認
2. 音楽教育研究と倫理
3. 音楽教育研究の手法:量的研究
4. 音楽教育研究の手法:質的研究
5. 音楽教育研究の手法:歴史的研究
6. 音楽教育研究の手法:民族誌的研究
7. 音楽教育研究の手法:パフォーマンスの教育学的研究
8. 音楽教育に関する内外の研究動向(1):認知
9. 音楽教育に関する内外の研究動向(2):表現
10. 音楽教育に関する内外の研究動向(3):鑑賞
11. 調査とデータ収集(1):方法の検討
12. 調査とデータ収集(2):手続き
13. 調査とデータ収集(3):データの分析
14. レポート課題の設定
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだうえで授業に臨むこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポート課題の成果などを総合して評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MPL716U		
科目名	音楽教育研究法Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-112(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)自分の研究課題のための研究方法を洗濯する。(2)修士論文の作成に日知ような文献を収集・講読し、改題する。

◆授業内容・計画◆

1. レポートの発表
2. 修士論文の構想と討議(1)先行研究のリビュー
3. 修士論文の構想と討議(2)独自性は？
4. 資料の収集と整理(1)図書館ガイダンス
5. 資料の収集と整理(2)文献検索
6. 関連する文献の講読と検討(1)分担要約
7. 関連する文献の講読と検討(2)要約発表
8. 関連する文献の講読と検討(3)討論
9. 関連する文献の講読と検討(4)分担要約と図表化
10. 関連する文献の講読と検討(5)要約の発表
11. 関連する文献の講読と検討(6)討論とその整理
12. 関連する文献の講読と検討(7)分担執筆
13. 関連する文献の講読と検討(8)分担執筆の内話討論
14. 関連する文献の講読と検討(9)分担執筆の整理
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行い、資料や文献を読み込んだうえで授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表と成果などを総合して評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

逐次紹介する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	MPL717U		
科目名	音楽教育内容論A		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-110(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)イギリスの初等教育から高等教育までの音楽教育の特徴について理解し、これらと日本の音楽科教育との比較を通して、音楽教育の本質についての理解を深める。(2)英語圏の音楽教育研究についての論文を読み、その動向を理解する。(3)自らの興味のある音楽教育の課題を比較文化の視点から探究する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:音楽科教育における諸課題
2. イギリスの学校音楽教育の文化的・社会的背景
3. ナショナル・カリキュラム導入以前の音楽教育
4. ナショナル・カリキュラムと音楽教育
5. ナショナル・カリキュラムの内容(1):到達目標
6. ナショナル・カリキュラムの内容(2):学習内容
7. イギリスの音楽教育の系統性
8. 音楽教育指導論(1):ジョン・ペインターと創造的音楽教育
9. 音楽教育指導論(2):キース・スワニックとティルマンの音楽発達のらせん型モデルと音楽指導
10. 音楽教育指導研究(1):多様な文化における音楽教育
11. 音楽教育指導研究(2):フォーマル・インフォーマル・ノンフォーマルな音楽指導
12. 音楽教育指導研究(3):コミュニティ音楽と学校音楽教育
13. 音楽教育指導研究(4):イギリスと日本の音楽科教育に関する比較検討
14. 課題研究の発表とディスカッション
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

配布された資料を読み込み、自分の研究課題と関わらせながら、批評的にディスカッションに参加できるように準備しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

レポート。その他随時課題を出しフィードバックするとともに、授業内発表、ディスカッションへの参加状況等により、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料等を配布する。

#### ◆参考図書◆

随時、授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特に無し。



ナンバリング	MPL718U		
科目名	音楽教育内容論B		
科目詳細			
担当教員	塩原 麻里		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-110(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)世界の学校音楽教育で実践されている主要な音楽教育メソッドについて理解する。(2)学校音楽教育における様々な指導法について理解する。(3)音楽科教育における身体を通じた活動についてその理論と実践について理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:音楽科教育と音楽教育メソッド
2. オルフ・シュールヴェルク
3. コダーイ・メソッド
4. スズキ・メソッド
5. サウンド・スケープと創造的音楽学習
6. ダルクローズ・リトミック
7. その他の音楽教育のアプローチ
8. 伝統的な音楽教授法
9. 音楽科教育における身体の動き(1):ダルクローズ・リトミックの理論的基礎
10. 音楽科教育における身体の動き(2):身体による音楽理解とは
11. 音楽科教育における身体の動き(3):心理学的視点から
12. 音楽科教育における身体の動き(4):多様なアプローチと教授法
13. 文献研究
14. 課題研究発表とディスカッション
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

配布された資料を事前によく読み込み、自分の研究課題と関わらせながら、批評的にディスカッションに参加できるように準備しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

レポート。その他随時課題を出しフィードバックするとともに、授業内発表、ディスカッションへの参加状況等により、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料等を配布する。

#### ◆参考図書◆

随時、授業内で紹介する。

#### ◆留意事項◆

特に無し。

ナンバリング	MPL719U		
科目名	音楽教育方法論A		
科目詳細			
担当教員	山本 幸正		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

授業の方法に関する知識を整理し、内容をまとめることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 授業づくりの基礎理論
- 第3回 学力問題と授業づくりの課題
- 第4回 授業における子どもの学び
- 第5回 教育目標・教育内容の設定
- 第6回 教材開発と授業の構想
- 第7回 学習形態の工夫
- 第8回 授業展開を導く教授行為
- 第9回 教育評価を活かした授業づくり
- 第10回 学級編成・生活指導と授業
- 第11回 特別なニーズをもつ子どもへの対応
- 第12回 各領域における授業づくり
- 第13回 授業研究の方法
- 第14回 授業づくりの遺産に学ぶ
- 第15回 授業づくりをめぐる現代的課題、学習のまとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次の回の講義のキーワードについて調べ、資料を作成すること。目安3時間。

#### ◆成績評価の方法◆

教育方法についてのまとめ、および音楽教育の方法についての考察をレポートとして作成し提出する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

『よくわかる授業論』田中耕治編(ミネルヴァ書房)

#### ◆参考図書◆

『教育方法学』佐藤学(岩波書店)  
『「学び」の認知科学事典』渡部信一編(大修館書店)

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MPL720U		
科目名	音楽教育方法論B		
科目詳細			
担当教員	山本 幸正		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

テーマに基づき、音楽の指導実践事例を検索し紹介するプレゼンテーションと模擬指導を行い、適切にコメントすることができる。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 楽典やソルフェージュの指導① 実践事例の検討
- 第3回 楽典やソルフェージュの指導② 模擬指導と振り返り
- 第4回 リズムの指導① 実践事例の検討
- 第5回 リズムの指導② 模擬指導と振り返り
- 第6回 即興創作の指導① 実践事例の検討
- 第7回 即興創作の指導② 模擬指導と振り返り
- 第8回 日本の伝統楽器の指導① 実践事例の検討
- 第9回 日本の伝統楽器の指導② 模擬指導と振り返り
- 第10回 日本民謡の指導① 実践事例の検討
- 第11回 日本民謡の指導② 模擬指導と振り返り
- 第12回 合唱の指導① 実践事例の検討
- 第13回 合唱の指導② 模擬指導と振り返り
- 第14回 パソコンによる編曲・作曲の指導① 実践事例の検討
- 第15回 パソコンによる編曲・作曲の指導② 模擬指導と振り返り

#### ◆準備学習の内容◆

- 1 図書館の文献、インターネット等でテーマ別の実践事例を検索し紹介する資料を作成する。(目安毎日平均60分)
- 2 模擬指導の教材研究、指導法の検討を行い、指導案を作成する。(目安毎日平均60分)

#### ◆成績評価の方法◆

実践事例の発表の内容、模擬指導の内容・方法について、振り返りにおけるディスカッションで評価・フィードバックを行い、毎回のディスカッションへの参加の仕方についての評価を加えて、総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

その都度指示する。

#### ◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MWL701N		
科目名	音楽学演習 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 前期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL702N		
科目名	音楽学演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 後期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

- ・発表した内容と授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。
- ・発表内容に対しては毎回、詳細な講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる。

ナンバリング	MWL708N		
科目名	楽器・音響演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	吉成 順		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-315(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

修士論文作成の調査をまとめ、全体の構成を整えることができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 研究テーマの確認
- 2) 最新の研究動向の確認
- 3) 先行研究の読解と自身の研究への反映
- 4) 自身の研究状況のまとめ
- 5) 中間発表の準備
- 6) 中間発表予行演習
- 7) 中間発表
- 8) 中間発表の反省と問題点の確認
- 9) 中間発表の問題点の調査
- 10) 研究テーマの再確認
- 11) 研究目的の再確認
- 12) 研究方法の再確認
- 13) 研究史の再確認
- 14) 前期末段階における構成の確認と目次の作成
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究テーマについて学習や作業を進める。

◆成績評価の方法◆

発表した内容についてその場で講評し、授業に積極的に参加したかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する

◆留意事項◆

積極的に参加することが望まれる

ナンバリング	MWL713U		
科目名	音楽学研究法 I		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

#### ○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献紹介1(修士課程1年生AとBの発表)
- 第3回 文献紹介2(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 文献紹介3(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 文献紹介4(学部3年生G、H、Iの発表)
- 第6回 文献紹介5(学部3年生J、K、Lの発表)
- 第7回 文献紹介6(学部3年生M、N、Oの発表)
- 第8回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)、期末レポート。
- ・期末レポート(コメントを付けて返却)  
内容: 修士課程1年生は、自分が紹介した文献についてレポート形式にまとめる(3,000字以上)。  
提出期限: 2017年7月28日(金)、17:00  
提出先: 音楽学研究室(5-203)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MWL714U		
科目名	音楽学研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

#### ○各回の概要(予定)

- 第1回 教員発表1(教員Aの発表)
- 第2回 教員発表2(教員Bの発表)
- 第3回 卒論プロスペクト1(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 卒論プロスペクト1(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 教員発表3(教員Cの発表)
- 第6回 教員発表4(教員Dの発表)
- 第7回 教員発表5(教員Eの発表)
- 第8回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)、期末レポート。
- ・期末レポート(コメントを付けて返却)  
内容:修士課程1年生は、学期中に聞いた発表の中で関心を持ったテーマに関し、その内容をまとめるとともに、そのテーマに関して自分なりに調べた結果を報告する(3,000字以上)  
提出期限:2018年1月9日(火)、17:00  
提出先:音楽学研究室(5-203)

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。



ナンバリング	MWL715U		
科目名	音楽学研究法Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

#### ○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献紹介1(修士課程1年生AとBの発表)
- 第3回 文献紹介2(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 文献紹介3(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 文献紹介4(学部3年生G、H、Iの発表)
- 第6回 文献紹介5(学部3年生J、K、Lの発表)
- 第7回 文献紹介6(学部3年生M、N、Oの発表)
- 第8回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)。
- ・期末レポート: 修士課程2年生についてはレポート課題はない。前期の内容をもとに指導教員と相談すること。
- ・文献紹介に対しては、教員や学生から質問や講評がある。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MWL716U		
科目名	音楽学研究法Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	2年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程の2年生以上は修論プロスペクトの発表、音楽情報専修の4年生以上は卒論プロスペクトの発表、大学院修士課程の1年生および音楽情報専修の3年生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

#### ○各回の概要(予定)

- 第1回 教員発表1(教員Aの発表)
- 第2回 教員発表2(教員Bの発表)
- 第3回 卒論プロスペクト1(学部4年生CとDの発表)
- 第4回 卒論プロスペクト1(学部4年生EとFの発表)
- 第5回 教員発表3(教員Cの発表)
- 第6回 教員発表4(教員Dの発表)
- 第7回 教員発表5(教員Eの発表)
- 第8回 まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏まえ、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

- ・発表、平常点(ディスカッション)。
- ・期末レポート: 修士課程2年生についてはレポート課題はない。前期の内容をもとに指導教員と相談すること。
- ・指導教員から指導、講評がある。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

#### ◆参考図書◆

適時、指示する。

#### ◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MWL717U		
科目名	音楽美学研究A		
科目詳細			
担当教員	堀 朋平		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

演奏、創作、研究……今の私たちがその何をするにしても、興味の対象について詳しく識るにつれ、自分の中に1000年前、2000年前の人間の思考が浸み入っていると感ずることがある。古代・中世の芸術観に触れることは、必ず「現在」の自分を助けてくれるだろう。本講義では、その感覚を愉しめるようになることを、最大の目標とする。また西洋音楽史の知識を、分野横断的に深めることを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

古代から中世(ないし近世)までの代表的な人物に焦点を絞り、その思想を紹介する作業がおよそ半分を占める。残りの半分はそれをふまえ、それぞれの時代の音楽(あるいは当該の思想に関連する音楽)を見る。関連する映画等の映像資料も随時鑑賞したい。

講義はプリント形式で行う。テキストもすべて配布するが、2日目以降はディスカッションも交えたいので、下段に挙げる【使用テキスト】で指示された箇所をあらかじめ通読しておくことが望ましい。

- 1) 歴史とは? 美学とは?——後半映画鑑賞
- 2) 古代の音楽とは?——神々とムーシケー
- 3) 国家に芸術はいらない?——プラトンの芸術論
- 4) 国家に芸術家のいる意味——プラトン批判と美学の誕生
- 5) 祈りと感動——アウグスティヌスと中世のミサ
- 6) ゴシックの美学と中世の二面性
- 7) 反ゴシックとルネサンス——光と闇の弁証法
- 8) J. ベーリと感情の模倣——モノディという革命
- 9) オルフェオ——2つの時間意識の分裂
- 10) 不可逆な時間と反復する時間
- 11) 芸術は終わっているのか——繰り返される「芸術終焉論」
- 12) ライブニッツと「なんだかわからないもの」
- 13) 最善説と古典主義の音楽美学
- 14) 音楽美学とは何か
- 15) まとめと筆記試験

#### 【使用テキスト】

小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版局(2009年)、第1章と第15章

酒井健『ゴシックとは何か——大聖堂の精神史』ちくま学芸文庫(2006年)、第1章と第2章

#### ◆準備学習の内容◆

図書館を利用して参考図書をひもといてほしい。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度に、最終回での自由記述試験の結果を加味して総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に使用しない。

#### ◆参考図書◆

野家啓一『物語の哲学』岩波書店

エリック・A・ハウロック『プラトン序説』新書館

浅田彰『ヘルメスの音楽』筑摩書房

小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版局

酒井健『ゴシックとは何か——大聖堂の精神史』ちくま学芸文庫

Karol Berger, Bach's cycle, Mozart's arrow. University of California Press

#### ◆留意事項◆

出席が2/3に満たない場合は単位認定を行わない。

ナンバリング	MWL720U		
科目名	民族音楽学研究B		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-39	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれることが難しくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業の中で、そうした音楽や伝統を、正統的なものと区別して扱うというよりも、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、どう生かしているのか、受講者は個々の事例と向き合いながら改めて捉えなおすことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言を聞き、現場の意識を知る機会をもちたい。受講生の希望を取り入れながら対象を選びたいが、以下のような内容を想定している。

- 1) 現代社会における音楽と芸能—問題の所在を探る
- 2) 音楽表現と民族性・地域性
- 3) 民族をつなぐ音楽表現①考察
- 4) 民族をつなぐ音楽表現②ディスカッション
- 5) 民族をつなぐ音楽表現③プレゼンテーション
- 6) 民族をつなぐ音楽表現④プレゼンテーション
- 7) 地域を表す音楽表現①考察
- 8) 地域を表す音楽表現②ディスカッション
- 9) 地域を表す音楽表現③プレゼンテーション
- 10) 地域を表す音楽表現④プレゼンテーション
- 11) 再生される音楽表現①考察
- 12) 再生される音楽表現②ディスカッション
- 13) 再生される音楽表現③プレゼンテーション
- 14) 再生される音楽表現④プレゼンテーション
- 15) まとめと補遺

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の周りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

#### ◆成績評価の方法◆

ディスカッション(参加度を勘案する)とプレゼンテーション、および学期末に課すレポートで評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

テーマに応じて適宜、指示する。

#### ◆参考図書◆

テーマに応じて適宜、指示する。

#### ◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。いうまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング	MWL723U		
科目名	アジア音楽史研究A		
科目詳細			
担当教員	植村 幸生		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

題目「小泉文夫研究」。小泉文夫(1927-1983)は日本における民族音楽学のパイオニアであるだけでなく、戦後日本の音楽界に多大な影響を及ぼした。本科目では、小泉の活動と著作を振りかえり、小泉の学術的、思想的貢献とその今日的意義を理解することを目標とする。

#### ◆授業内容・計画◆

1. 導入(この授業の進め方)
2. 総論1:小泉文夫の生涯と業績
3. 総論2:小泉文夫の著作と資料
4. 『日本の音』(1977)
5. 『日本伝統音楽の研究1』(1958)
6. 『日本伝統音楽の研究2 リズム』(1984)
7. 『わらべうたの研究』(1968)『子どもの遊びとうた』(1986)
8. 『おたまじゃくし無用論』(1973/1980)
9. 『音楽の根源にあるもの』(1977)
10. 『エスキモーの歌』(1978)『民族音楽研究ノート』(1979)
11. 『歌謡曲の構造』(1984)
12. ATPA(アジア伝統芸能の交流)(1976-1981)
13. シルクロードへのまなざし(1977-1983)
14. 沖縄音楽研究の足跡
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

割り当てられた課題について、その内容と背景を十分に理解し、必要に応じて自ら調査を行った上で、わかりやすい口頭発表ができるように準備すること。

#### ◆成績評価の方法◆

口頭発表および発表内容に基づくレポートをもって成績評価の対象とする。詳細は授業中に指示する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特定の教科書は使用しないが、割り当て文献については初回の授業時に指示する。

#### ◆参考図書◆

多数あり。初回授業時に指示する。

#### ◆留意事項◆

初回授業時に受講者に対して文献の割り当てを行う。また受講者の数と関心に応じて内容を変更することがあり得る。従って受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

ナンバリング	MWL726U		
科目名	日本音楽史研究B		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

近現代日本の音楽文化の生成過程をたどり、その多様性を理解する

◆授業内容・計画◆

※シラバスの内容は変更される可能性があります※

明治期以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。  
2016年度前期は、太平洋戦争期をはさんだ1940年～1970年頃までの伝統音楽の変化を中心に扱う。

- 1)オリエンテーション、近年の研究動向
- 2)昭和初期の伝統音楽概観
- 3)1940年紀元二千六百年奉祝と伝統音楽
- 4)戦時下の伝統音楽(1)制度・動員
- 5)戦時下の伝統音楽(2)創作・演奏
- 6)戦後直後の伝統音楽(1)占領下の動向
- 7)戦後直後の伝統音楽(2)価値観の転換の中で
- 8)東京芸術大学邦楽科問題
- 9)芸術祭・文化財保護法・国立劇場
- 10)音楽運動と伝統音楽
- 11)現代邦楽(1)箏曲
- 12)現代邦楽(2)尺八・三味線
- 13)伝統音楽の研究
- 14)受講生による発表
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

近現代日本の音楽史に関する近年の研究成果にできるだけ目を通しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

◆留意事項◆

積極的な授業参加に期待する。

※シラバスの内容は変更される可能性があります※

ナンバリング	MWL728U		
科目名	楽器学研究B		
科目詳細			
担当教員	中溝 一恵		
学年	1年	クラス	O2
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

1. 楽器と演奏活動の関係について考察し、楽器学的視点で分析する。2. 課題や問題点の有無を認識する。3. 楽器と演奏活動の将来を展望する。

#### ◆授業内容・計画◆

授業では、受講者が関心のある楽器について理解を深めることをめざすが、演奏という音楽表現活動に使うものという視点で楽器を考察し分析する。収集した情報のプレゼンテーションに基づいて、各人の見解についてディスカッションし、現状把握、課題の有無、将来の展望などの認識を共有して理解を深める。

1. 導入: 楽器を通して演奏活動を考察することの意義について
2. 楽器への視点①楽器の設定: ディスカッションに基づいて選択する
3. 楽器への視点②楽器の特性: 選択した楽器について(プレゼンテーション)
4. 楽器への視点③楽器の歴史: 構造及び製作に関する情報(プレゼンテーション)
5. 楽器への視点④楽器の歴史: 作品や演奏者など(プレゼンテーション)
6. 演奏への視点①現在の作品の傾向: 奏法や技術的視点から(プレゼンテーション)
7. 演奏への視点②現在の演奏の傾向(プレゼンテーション)
8. 現状把握と将来の展望①楽器本体に関する考察(ディスカッション)
9. 現状把握と将来の展望②演奏と楽器の関係に関する考察(ディスカッション)
10. 現状把握と将来の展望③合奏における各楽器の関係性について(ディスカッション)
11. 現状把握と将来の展望④演奏の場に関する考察(ディスカッション)
12. 音響技術と楽器: 各種事例について(ディスカッション)
13. メンテナンスへの視点①: 製作者と使用者(演奏者)を仲介する役割の考察
14. メンテナンスへの視点②: 使用者(演奏者)が大切にすることの考察
15. まとめ: 演奏者と楽器の絆について

#### ◆準備学習の内容◆

各人が選択した楽器について、授業プログラムに基づき各種情報を収集する。授業ではプレゼンテーションをして意見交換を行うので、収集した情報をわかりやすくまとめておくこと。また、使用している楽器についても授業プログラムの内容に関連してあらためて考察し、事例を提供すること。

#### ◆成績評価の方法◆

ディスカッション、プレゼンテーション、レポート、授業への参加姿勢等により総合評価する

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

#### ◆参考図書◆

適宜提示する。

#### ◆留意事項◆

活発な意見交換を期待します。

ナンバリング	MGL705N		
科目名	指導法		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な法律等の規程とその意味について学ぶ。  
主な内容は次の通り。

- 1)人はなぜ学ぶのか
- 2)大学とは何か
- 3)教育基本法
- 4)学校教育法
- 5)大学設置基準
- 6)大学認証評価(1)導入期
- 7)大学認証評価(2)現在
- 8)FDについて(1)背景
- 9)FDについて(2)事例
- 10)学則について(1)位置づけ
- 11)学則について(2)その実際
- 12)諸規定について
- 13)TAについて(1)心構え
- 14)TAについて(2)役割
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。  
プレゼンテーションも課す。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内でのプレゼンテーション、課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。  
毎時、コメントシートの提出を求めその内容に関してフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。



ナンバリング	MVS731N		
科目名	舞台表現技術演習(日舞)		
科目詳細			
担当教員	花柳 妙千鶴		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

- 1、着物の着付け、礼儀作法、基本的所作を学ぶ。
- 2、日本舞踊の基本的な動作を習得することにより、舞台上での身体表現を、より自由に、より豊かにすることを目標とする。
- 3、日本舞踊の実習を通して、的確に役柄を表現する技術を学ぶ。
- 4、舞台の基礎知識と日本の伝統文化の基礎知識を学ぶ。

#### ◆授業内容・計画◆

- 1)授業の進め方。着物の名称、着付け、畳み方。挨拶の基本手順の説明と実習。扇の名称と扱い方。舞踊譜の書き方。
- 2)着物着付け。挨拶の実習。扇を使つての挨拶。基本動作(立つ、座る、歩く)の実習。作品習得1。着物の畳み方。
- 3)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習1。役柄による基本動作の実習1。作品習得2。着物の畳み方。
- 4)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習2。役柄による基本動作の実習2。作品習得3。 着物の畳み方。
- 5)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習3。作品習得4。着物の畳み方。舞踊譜の書き方。舞台機構の名称ときまり。
- 6)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習4。役柄による基本動作の実習2。作品習得5。
- 7)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習5。作品習得6。扇の種類と小道具のいろいろ。
- 8)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得7。お太鼓の結び方1。
- 9)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得8(振り移し終了)。お太鼓の結び方2。
- 10)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習6。作品習得9(完成度を高める)。
- 11)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習7。作品習得10(完成度を高める)。
- 12)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得11(個人指導も含む)。舞台衣装の扱い方1。舞踊譜の提出。
- 13)着物着付け。扇を使つての挨拶。作品習得12(個人指導も含む)。舞台衣装の扱い方2。
- 14)着物着付け。扇を使つての挨拶。扇の名称と扱い方の練習。作品習得13。
- 15)作品発表。

#### ◆準備学習の内容◆

各自、初回授業までに  
 1)浴衣、2)半幅帯(飾り帯でないもの)、3)肌じゅばん、4)ステテコあるいはスパッツ、  
 5)足袋(靴のサイズより0.5センチ小さめ)6)腰ひも2~3本、7)腰に巻くタオル、8)風呂敷 9)ノート、10)筆記用具 11)稽古用扇子(初回授業時に購入も可能¥1000~¥2000位)以上を準備、持参のこと。  
 ★準備出来ない物は、初回授業時に相談。

なお、8回目授業以降、なるべく浴衣以外の着付けもしたいので、12)着物 13)お太鼓用帯  
 14)えり付きじゅばん 15)すそよけ 16)帯枕 17)帯板 18)帯締め 19)帯揚げ  
 を持参して下さい。貸し出しも可能。

#### ◆成績評価の方法◆

提出物、実技試験により評価。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

特になし

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	MSS717U		
科目名	チェンバロ演習		
科目詳細			
担当教員	大塚 直哉		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-005	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

チェンバロによるソロ作品、アンサンブル(通奏低音を含む)の実習を通じて、「ピアノ以前」の豊かな鍵盤奏法の伝統の一端を体験し、各自の引き出しを増やすことを目標とする。□

#### ◆授業内容・計画◆

チェンバロによるバロック期の鍵盤作品(ソロ及びアンサンブル)の実習を中心とするが、可能な限りクラヴィコード、ポジティブオルガン、フォルテピアノなどほかの「クラヴィーア」に触れる時間も設けたい。

第1回:導入、チェンバロの発音の仕組み、数字つき低音の基礎

第2回:チェンバロのタッチの基礎その1～F.クーブラン「プレリュード」、J.S.バッハ「小プレリュード」「インヴェンション」など当時の鍵盤導入教材から学べること～

第3回:第2回の仕上げ

第4回:バッハ以前の鍵盤音楽の魅力その1～バード、スウェーリンク、フレスコバルディ(中全音律を体験する)

第5回:バッハ以前の鍵盤音楽の魅力その2～フローベルガーとL.クーブラン～リュートからチェンバロへ～(ポジティブオルガン体験を含む)

第6回:第4～5回の仕上げ

第7回:アンサンブルにおけるチェンバロその1～通奏低音の基本を理解する～

第8回:レチタティーヴォを弾いてみよう

第9回:ラモーとD.スカルラッティ

第10回:J.S.バッハをチェンバロでその1～組曲

第11回:J.S.バッハをチェンバロでその2～平均律クラヴィーアなど

第12回:バッハの息子たちからハイドン・モーツァルトへ(クラヴィコード、フォルテピアノ体験を含む)

第13回:第9～12回の仕上げ

第14回:数字つき低音の初見、ソロ曲の試験

第15回:ミニコンサート、まとめ□

#### ◆準備学習の内容◆

授業への参加の積極度(平常点)と、ミニコンサートでの演奏を合わせて評価する。□

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と試験、ミニコンサートでの演奏を加味して評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

大塚直哉編『クラヴィス』(現代ギター社)

#### ◆参考図書◆

渡邊順生「チェンバロ・フォルテピアノ」(東京書籍)□

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDS701N		
科目名	研究指導 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

研究の成果についてコメントする。成績は、積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS702N		
科目名	研究指導Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

研究の成果についてコメントする。成績は、積極的に取り組んだかを総合的に判断する。  
□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS703N		
科目名	研究指導Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS704N		
科目名	研究指導Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。□

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。□

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。□

◆教科書(使用テキスト)◆

なし□

◆参考図書◆

適宜指摘する。□

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。□

ナンバリング	DDS705N		
科目名	研究指導V		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は、研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。

ナンバリング	DDS706N		
科目名	研究指導VI		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	0単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生A～C)
2. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生D～F)
3. 各自の研究テーマについて研究し、第1回報告する。(学生G～I)
4. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生A～C)
5. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生D～F)
6. 各自の研究テーマについて研究し、第2回報告する。(学生G～I)
7. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生A～C)
8. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生D～F)
9. 各自の研究テーマについて研究し、第3回報告する。(学生G～I)
10. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生A～C)
11. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生D～F)
12. 各自の研究テーマについて研究し、第4回報告する。(学生G～I)
13. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生A～C)
14. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生D～F)
15. 各自の研究テーマについて研究し、最終報告する。(学生G～I)

◆準備学習の内容◆

教員のコメントを考慮して継続的に研究をすること。

◆成績評価の方法◆

発表についてコメントする。成績は研究の成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指摘する。

◆留意事項◆

積極的に研究を行うこと。



ナンバリング	DDL707N		
科目名	特別総合演習 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

(1)博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、適切な研究発表ができる。(2)教員を含む参加者全体によるディスカッションを通して、個々の発表内容や発表方法について客観的に評価できる。

#### ◆授業内容・計画◆

- ・授業は隔週に設定されます。
- ・授業は原則として学生および研究生による研究発表とディスカッションです。
- ・博士課程の学生は全員、毎回出席すること。
- ・研究生の学生も全員、毎回出席すること。
- ・博士論文提出予定者はプレ発表の予行も行います。

- 第1回 ガイダンスと発表予定の決定
- 第2回 学位授与者の研究発表
- 第3回 個々の中間発表とディスカッション(1)
- 第4回 個々の中間発表とディスカッション(2)
- 第5回 個々の中間発表とディスカッション(3)
- 第6回 博士論文提出予定者はプレ発表の予行
- 第7回 個々の中間発表とディスカッション(4)

#### ◆準備学習の内容◆

各自、発表に向けて研究し、資料作成を行う。

#### ◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表内容

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし

#### ◆参考図書◆

なし

#### ◆留意事項◆

初回に全員が顔合わせを行い、年間日程等の打ち合わせを行います。  
日程や担当者・発表内容については5号館入口や音楽学研究室の掲示を参照してください。  
他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてください。

ナンバリング	DDL708N		
科目名	特別総合演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

(1)博士論文[学位申請論文]の作成にむけて、適切な研究発表ができる。(2)教員を含む参加者全体によるディスカッションを通して、個々の発表内容や発表方法について客観的に評価できる。

◆授業内容・計画◆

- ・授業は隔週に設定されます。
- ・授業は原則として学生および研究生による研究発表とディスカッションです。
- ・博士課程の学生は全員、毎回出席すること。
- ・研究生の学生も全員、毎回出席すること。
- ・博士論文提出予定者はプレ発表の予行も行います。

- 第1回 個々の中間発表とディスカッション(1)
- 第2回 個々の中間発表とディスカッション(2)
- 第3回 個々の中間発表とディスカッション(3)
- 第4回 個々の中間発表とディスカッション(4)
- 第5回 個々の中間発表とディスカッション(5)
- 第6回 個々の中間発表とディスカッション(6)
- 第7回 個々の中間発表とディスカッション(7)

◆準備学習の内容◆

各自、発表に向けて研究し、資料作成を行う。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と発表内容

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

日程や担当者・発表内容については5号館入口や音楽学研究室の掲示を参照してください。  
他専攻の発表にも参加して各自の論文作成に役だてください。

ナンバリング	DDL713N		
科目名	器楽領域研究 I		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 器楽研究領域に関わる作品研究①/時代別無伴奏作品(古典)
- 第3回 器楽研究領域に関わる作品研究②/時代別無伴奏作品(近代)
- 第4回 器楽研究領域に関わる作品研究③/時代別無伴奏作品(現代)
- 第5回 器楽研究領域に関わる作品研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)
- 第6回 器楽研究領域に関わる作品研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)
- 第7回 器楽研究領域に関わる作品研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)
- 第8回 器楽研究領域に関わる作品研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)
- 第9回 器楽研究領域に関わる作品研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)
- 第10回 器楽研究領域に関わる作品研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)
- 第11回 器楽研究領域に関わる作品研究⑩/時代別室内楽作品(古典)
- 第12回 器楽研究領域に関わる作品研究⑪/時代別室内楽作品(近代)
- 第13回 器楽研究領域に関わる作品研究⑫/時代別室内楽作品(現代)
- 第14回 まとめ①/無伴奏作品及び室内楽作品
- 第15回 まとめ②/ピアノ伴奏作品及び協奏曲作品

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL714N		
科目名	器楽領域研究Ⅱ		
科目詳細	1年次履修		
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)  
 第2回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究①/時代別無伴奏作品(古典)  
 第3回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究②/時代別無伴奏作品(近代)  
 第4回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究③/時代別無伴奏作品(現代)  
 第5回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)  
 第6回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)  
 第7回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)  
 第8回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)  
 第9回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)  
 第10回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)  
 第11回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑩/時代別室内楽作品(古典)  
 第12回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑪/時代別室内楽作品(近代)  
 第13回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑫/時代別室内楽作品(現代)  
 第14回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション①  
 第15回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション②

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL715N		
科目名	器楽領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	福田 隆		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)
- 第2回 器楽研究領域に関わる作品研究①/時代別無伴奏作品(古典)
- 第3回 器楽研究領域に関わる作品研究②/時代別無伴奏作品(近代)
- 第4回 器楽研究領域に関わる作品研究③/時代別無伴奏作品(現代)
- 第5回 器楽研究領域に関わる作品研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)
- 第6回 器楽研究領域に関わる作品研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)
- 第7回 器楽研究領域に関わる作品研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)
- 第8回 器楽研究領域に関わる作品研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)
- 第9回 器楽研究領域に関わる作品研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)
- 第10回 器楽研究領域に関わる作品研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)
- 第11回 器楽研究領域に関わる作品研究⑩/時代別室内楽作品(古典)
- 第12回 器楽研究領域に関わる作品研究⑪/時代別室内楽作品(近代)
- 第13回 器楽研究領域に関わる作品研究⑫/時代別室内楽作品(現代)
- 第14回 まとめ①/無伴奏作品及び室内楽作品
- 第15回 まとめ②/ピアノ伴奏作品及び協奏曲作品

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL716N		
科目名	器楽領域研究Ⅳ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	福田 隆		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度に専門的な器楽演奏の修得を目標とする。そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、ジャンルの器楽作品、およびその演奏解釈、演奏表現、さらに演奏法、伴奏法、アンサンブル等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらに関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな器楽演奏の創造を目指す。さらに、音楽の高等教育の担い手を育成するために、ピアノ又は弦管打を中心とした器楽の教授法に関する研究も行う。

#### ◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的、進め方等)  
 第2回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究①/時代別無伴奏作品(古典)  
 第3回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究②/時代別無伴奏作品(近代)  
 第4回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究③/時代別無伴奏作品(現代)  
 第5回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究④/時代別ピアノ伴奏付き作品(古典)  
 第6回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑤/時代別ピアノ伴奏付き作品(近代)  
 第7回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑥/時代別ピアノ伴奏付き作品(現代)  
 第8回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑦/時代別協奏曲作品(古典)  
 第9回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑧/時代別協奏曲作品(近代)  
 第10回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑨/時代別協奏曲作品(現代)  
 第11回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑩/時代別室内楽作品(古典)  
 第12回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑪/時代別室内楽作品(近代)  
 第13回 博士論文のテーマを見据えた器楽研究領域作品の研究⑫/時代別室内楽作品(現代)  
 第14回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション①  
 第15回 リサイタルプログラムの授業内発表及びディスカッション②

#### ◆準備学習の内容◆

授業内で指示する。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

ナンバリング	DDL717N		
科目名	創作領域研究 I		
科目詳細			
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL718N		
科目名	創作領域研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

◆授業内容・計画◆

◆準備学習の内容◆

◆成績評価の方法◆

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆



ナンバリング	DDL719N		
科目名	創作領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	川島 素晴		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。

◆授業内容・計画◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。とりわけ、ドイツにおける現代音楽作品を中心とした研究を深め、音色のネットワークに基づく創作の方法論について、独自なものを開発、実践する。

- 1)オリエンテーション
- 2)ゲオルグ・フリードリヒ・ハースの音楽について研究する。
- 3)ハースのレクチャーを踏まえた研究・創作の実践を行う。
- 4)ドイツ語圏における微分音楽について研究する。
- 5)それらの語法の自作品への応用と独自なアプローチの探求を行う。
- 6)ハインツ・ホリガーの音楽について研究する。(1)
- 7)ホリガーの音楽について研究する。(2)
- 8)ホリガーの来日公演を踏まえた研究・創作の実践を行う。
- 9)ヘルムート・ラッヘンマンの音楽について演奏・研究する。(1)
- 10)ラッヘンマンのレクチャーを踏まえた研究・創作の実践を行う。
- 11)ラッヘンマンの音楽について研究する。(2)
- 12)細川俊夫の音楽について研究する。
- 13)細川俊夫のレクチャーを踏まえた研究・創作の実践を行う。
- 14)まとめと、カールスルーエへの留学の準備。

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆成績評価の方法◆

各担当者による。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内評価

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL719N		
科目名	創作領域研究Ⅲ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	古川 聖		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。

◆授業内容・計画◆

「創作領域研究Ⅲ」の内容をふまえて、より進んだ研究を行う。

そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、コンピュータ音楽を含む諸ジャンルの作曲法等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな作品創作を目指す。

1. オリエンテーション
2. 創作領域研究個人レッスン(1)
3. 創作領域研究個人レッスン(2)
4. 創作領域研究個人レッスン(3)
5. 創作領域研究個人レッスン(4)
6. 創作領域研究個人レッスン(5)
7. 創作領域研究個人レッスン(6)
8. 創作領域研究個人レッスン(7)
9. 創作領域研究個人レッスン(8)
10. 創作領域研究個人レッスン(9)
11. 創作領域研究個人レッスン(10)
12. 創作領域研究個人レッスン(11)
13. 創作領域研究個人レッスン(12)
14. 創作領域研究個人レッスン(13)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆成績評価の方法◆

平常の授業と作品制作への積極的な取り組み、内外に於ける作品発表の場拡充の実践等により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL720N		
科目名	創作領域研究Ⅳ		
科目詳細	2年次履修		
担当教員	古川 聖		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

作曲創作の実践と理論の研究を通して、高度に専門的な創作技法の修得を目的とする。

◆授業内容・計画◆

「創作領域研究Ⅲ」の内容をふまえて、より進んだ研究を行う。

そのため、日本の近現代を含む様々な時代、地域、コンピュータ音楽を含む諸ジャンルの作曲法等に関する実践的・理論的研究を行うと同時に、それらと関連した歴史的、社会的、文化的状況についての知識を深め、新たな作品創作を目指す。

1. オリエンテーション
2. 創作領域研究個人レッスン(1)
3. 創作領域研究個人レッスン(2)
4. 創作領域研究個人レッスン(3)
5. 創作領域研究個人レッスン(4)
6. 創作領域研究個人レッスン(5)
7. 創作領域研究個人レッスン(6)
8. 創作領域研究個人レッスン(7)
9. 創作領域研究個人レッスン(8)
10. 創作領域研究個人レッスン(9)
11. 創作領域研究個人レッスン(10)
12. 創作領域研究個人レッスン(11)
13. 創作領域研究個人レッスン(12)
14. 創作領域研究個人レッスン(13)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆成績評価の方法◆

平常の授業と作品制作への積極的な取り組み、内外に於ける作品発表の場拡充の実践等により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL721N		
科目名	音楽学領域研究 I		
科目詳細			
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	02
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.  
各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL722N		
科目名	音楽学領域研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	教務課		
学年	1年	クラス	02
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.  
各自のテーマについて学習した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究成果と積極的に取り組んだかを総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

ナンバリング	DDL723N		
科目名	音楽学領域研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	教務課		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.

各自のテーマについて研究した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究内容の取り組み方から総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

資料調査、実地調査などのデータの整理・蓄積をこまめに行い、それらが論文のどこに反映されるのかを意識してほしい。併せて外部への発表などの機会も意識しつつ取り組むこと。

ナンバリング	DDL724N		
科目名	音楽学領域研究IV		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

博士論文の執筆のための研究を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ～15.

調査で得られたデータをまとめ、研究した内容を報告する。

◆準備学習の内容◆

継続して研究テーマに取り組む。

◆成績評価の方法◆

研究内容の取り組み方から総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

適宜指定する。

◆留意事項◆

資料調査、実地調査のデータの整理・蓄積を心掛けること。外部への発表の準備もこの場を用いて行い、情報交換も積極的に行うこと。

ナンバリング	DDL729N		
科目名	音楽理論特講A		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

博士課程レベルでの西洋音楽における和声法の歴史の変遷を、博士論文の準備段階として言語的に総括できる水準に至らしめる

#### ◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的なアプローチの方法を考察していく。

1. 授業ガイダンス
2. 和声法の歴史(概論)
3. 和声法の著作の歴史的概観
4. 通奏低音法について
5. 通奏低音の実施(バロック様式)
6. 通奏低音の実施(古典派様式)
7. 通奏低音の実施(ロマン派様式)
8. フランス和声について(概論)
9. フランス和声の実践(シャラン)
10. フランス和声の実践(フォーシェ)
11. フランス和声の実践(ギャロン)
12. フランス和声の実践(ピッチュ)
13. バッハの和声様式 (バス課題)
14. バッハの和声様式 (ソプラノ課題)
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

準備学習: 学部で学んできた和声法課題実施の復習

予習: 各回で取り上げられる内容について関連のある項目を教科書を用いて予め読んでおく。(20分)

復習: 授業で学んだ内容について不十分な点があれば、再度ノートを見直して、内容を覚える。(30分)

#### ◆成績評価の方法◆

西洋音楽の和声法の歴史的変遷から考察した小論文試験と研究発表による。  
随時課題を出し授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

#### ◆参考図書◆

『新しい和声』 林達也著 アルテスパブリッシング社

#### ◆留意事項◆

特になし



ナンバリング	DDL730N		
科目名	音楽理論特講B		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-12	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

博士課程レベルでの西洋音楽における和声法の歴史の変遷を、博士論文の準備段階として言語的に総括できる水準に至らしめる

#### ◆授業内容・計画◆

西洋の和声法に関する歴史的考察を中心として、多角的アプローチの方法を考察していく。特に後期は各々の論文と関係づけられた作曲家と作品についての研究もおこなう。

1. モーツァルトの和声様式『概論』
2. モーツァルトの和声様式『バス課題』の実習
3. モーツァルトの和声様式『ソプラノ課題』の実習
4. シューマンの和声様式『概論』
5. シューマンの和声様式『ソプラノ課題』の実習
6. シューマンの和声様式『作品分析』
7. ヴァーグナーの和声様式『概論』
8. ヴァーグナーの和声様式『作品分析』
9. ヴァーグナーの和声様式『ソプラノ課題』実習
10. フォーレの和声様式『概論』
11. フォーレの和声様式『作品分析』
12. フォーレの和声様式『ソプラノ課題』の実習
13. ドビュシーの和声様式『概論』
14. ラヴェルの和声様式『概論』
15. まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

準備学習: 前期で学んだ様式を含む和声法課題実施の復習

予習: 各回で取り上げられる項目について、作曲家及び主要作品などを予め調べておく。(30分)

復習: 授業で学んだ内容について不十分な点があればノートなどを再度読み直して覚える。(30分)

#### ◆成績評価の方法◆

西洋音楽の和声法の歴史の変遷から考察した小論文試験と研究発表による。

随時課題を出し授業内でフィードバックする。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

#### ◆参考図書◆

『新しい和声』林達也著 アルテスパブリッシング社

#### ◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	DDL731N		
科目名	音楽美学特講A		
科目詳細			
担当教員	堀 朋平		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

演奏、創作、研究……今の私たちがその何をするにしても、興味の対象について詳しく識るにつれ、自分の中に1000年前、2000年前の人間の思考が浸み入っていると感ずることがある。古代・中世の芸術観に触れることは、必ず「現在」の自分を助けてくれるだろう。本講義では、その感覚を愉しめるようになることを、最大の目標とする。また西洋音楽史の知識を、分野横断的に深めることを目指す。

#### ◆授業内容・計画◆

古代から中世(ないし近世)までの代表的な人物に焦点を絞り、その思想を紹介する作業がおよそ半分を占める。残りの半分はそれをふまえ、それぞれの時代の音楽(あるいは当該の思想に関連する音楽)を見る。関連する映画等の映像資料も随時鑑賞したい。

講義はプリント形式で行う。テキストもすべて配布するが、2日目以降はディスカッションも交えたいので、下段に挙げる【使用テキスト】で指示された箇所をあらかじめ通読しておくことが望ましい。

- 1) 歴史とは? 美学とは?——後半映画鑑賞
- 2) 古代の音楽とは?——神々とムーシケー
- 3) 国家に芸術はいらない?——プラトンの芸術論
- 4) 国家に芸術家のいる意味——プラトン批判と美学の誕生
- 5) 祈りと感動——アウグスティヌスと中世のミサ
- 6) ゴシックの美学と中世の二面性
- 7) 反ゴシックとルネサンス——光と闇の弁証法
- 8) J. ベーリと感情の模倣——モノディという革命
- 9) オルフェオ——2つの時間意識の分裂
- 10) 不可逆な時間と反復する時間
- 11) 芸術は終わっているのか——繰り返される「芸術終焉論」
- 12) ライブニッツと「なんだかわからないもの」
- 13) 最善説と古典主義の音楽美学
- 14) 音楽美学とは何か
- 15) まとめと筆記試験

#### 【使用テキスト】

小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版局(2009年)、第1章と第15章

酒井健『ゴシックとは何か——大聖堂の精神史』ちくま学芸文庫(2006年)、第1章と第2章

#### ◆準備学習の内容◆

図書館を利用して参考図書をひもといてほしい。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度に、最終回での自由記述試験の結果を加味して総合的に評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

特に使用しない。

#### ◆参考図書◆

野家啓一『物語の哲学』岩波書店

エリック・A・ハウロック『プラトン序説』新書館

浅田彰『ヘルメスの音楽』筑摩書房

小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版局

酒井健『ゴシックとは何か——大聖堂の精神史』ちくま学芸文庫

Karol Berger, Bach's cycle, Mozart's arrow. University of California Press

#### ◆留意事項◆

出席が2/3に満たない場合は単位認定を行わない。

ナンバリング	DDL736N		
科目名	民族音楽学特講B		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-39	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

現代社会では伝統的な音楽や芸能がかつてと同じ脈絡の中で以前と同じ意識をもって取り組まれることが難しくなった。どんな音楽や芸能にも多かれ少なかれ手が入り、改編されたり、異なる脈絡や場で提供されることが日常的になっている。この授業の中で、そうした音楽や伝統を、正統的なものと区別して扱うというよりも、どのような力学の中で、どのような立場の人たちがそれらと向き合い、どう生かしているのか、受講者は個々の事例と向き合いながら改めて捉えなおすことができる。

#### ◆授業内容・計画◆

現代社会の中で実践されている多様な音楽や芸能から、このテーマにふさわしいいくつかの対象を選び、ケーススタディを行う。可能であれば、実際にこうした音楽や芸能の当事者からの証言を聞き、現場の意識を知る機会をもちたい。受講生の希望を取り入れながら対象を選びたいが、以下のような内容を想定している。

- 1) 現代社会における音楽と芸能—問題の所在を探る
- 2) 音楽表現と民族性・地域性
- 3) 民族をつなぐ音楽表現①考察
- 4) 民族をつなぐ音楽表現②ディスカッション
- 5) 民族をつなぐ音楽表現③プレゼンテーション
- 6) 民族をつなぐ音楽表現④プレゼンテーション
- 7) 地域を表す音楽表現①考察
- 8) 地域を表す音楽表現②ディスカッション
- 9) 地域を表す音楽表現③プレゼンテーション
- 10) 地域を表す音楽表現④プレゼンテーション
- 11) 再生される音楽表現①考察
- 12) 再生される音楽表現②ディスカッション
- 13) 再生される音楽表現③プレゼンテーション
- 14) 再生される音楽表現④プレゼンテーション
- 15) まとめと補遺

#### ◆準備学習の内容◆

授業で扱う対象についての事前・事後調査に十分な時間を費やすことは言うまでもないが、身の周りで行われているさまざまな音楽や芸能に改めて注目することで問題点を見出すことが可能となる。また、自分の住む地域に改めて目を向け、地域作りに音楽や芸能がどのように生かされているのかも調べてほしい。

#### ◆成績評価の方法◆

ディスカッション(参加度を勘案する)とプレゼンテーション、および学期末に課すレポートで評価する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

テーマに応じて適宜、指示する。

#### ◆参考図書◆

テーマに応じて適宜、指示する。

#### ◆留意事項◆

授業への積極的な参加を望む。いうまでもないが、遅刻せず、コンスタントな出席を心がけること。

ナンバリング	DDL738N		
科目名	日本音楽史特講B		
科目詳細			
担当教員	塚原 康子		
学年	1年	クラス	O2
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考			

#### ◆授業目標◆

近現代日本の音楽文化の生成過程をたどり、その多様性を理解する

#### ◆授業内容・計画◆

※シラバスの内容は変更される可能性があります※

明治期以降の日本で鳴り響いたさまざまな音楽を、その背景にある時代思潮や音楽行動とからめて検証する。  
2016年度前期は、太平洋戦争期をはさんだ1940年～1970年頃までの伝統音楽の変化を中心に扱う。

- 1)オリエンテーション、近年の研究動向
- 2)昭和初期の伝統音楽概観
- 3)1940年紀元二千六百年奉祝と伝統音楽
- 4)戦時下の伝統音楽(1)制度・動員
- 5)戦時下の伝統音楽(2)創作・演奏
- 6)戦後直後の伝統音楽(1)占領下の動向
- 7)戦後直後の伝統音楽(2)価値観の転換の中で
- 8)東京芸術大学邦楽科問題
- 9)芸術祭・文化財保護法・国立劇場
- 10)音楽運動と伝統音楽
- 11)現代邦楽(1)箏曲
- 12)現代邦楽(2)尺八・三味線
- 13)伝統音楽の研究
- 14)受講生による発表
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

近現代日本の音楽史に関する近年の研究成果にできるだけ目を通しておくこと。

#### ◆成績評価の方法◆

授業の参加態度や課題の達成状況等を総合的に見て判断する。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

なし(その都度指示する)

#### ◆参考図書◆

なし(その都度指示する)

#### ◆留意事項◆

積極的な授業参加に期待する。

※シラバスの内容は変更される可能性があります※

ナンバリング	DDL741N		
科目名	教授法		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考			

#### ◆授業目標◆

音楽大学等、音楽の高等教育機関で教える、指導することはどういうことかを知り、TAとして教えるための前提を理解する。

#### ◆授業内容・計画◆

音楽大学で教えるために必要な、前提となる以下の様々な法律等の規程とその意味について学ぶ。  
主な内容は次の通り。

- 1)人はなぜ学ぶのか
- 2)大学とは何か
- 3)教育基本法
- 4)学校教育法
- 5)大学設置基準
- 6)大学認証評価(1)導入期
- 7)大学認証評価(2)現在
- 8)FDについて(1)背景
- 9)FDについて(2)事例
- 10)学則について(1)位置づけ
- 11)学則について(2)その実際
- 12)諸規定について
- 13)TAについて(1)心構え
- 14)TAについて(2)役割
- 15)まとめ

#### ◆準備学習の内容◆

次週の授業内容について各自事前に準備を行い授業に臨むこと。  
プレゼンテーションも課す。

#### ◆成績評価の方法◆

授業内でのプレゼンテーション、課題の提出、最終レポートなどを総合して評価する。  
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

#### ◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配付する。

#### ◆参考図書◆

#### ◆留意事項◆

TAを申請するものは、この授業を取ることが必須条件となる。